



ICOM 国際委員会等年次大会報告書 (2017 年度)



ICOM 京都大会運営委員会

目 次

1. 2017 年度 ICOM 国際委員会年次大会開催一覧	2
2. ICOM 国際委員会の紹介	4
3. ICOM 国際委員会年次大会報告	10
(1) AVICOM (オーディオビジュアル及びソーシャルメディア新技術国際委員会(案))	10
(2) CAMOC (都市博物館のコレクション・活動国際委員会)	14
(4) CIDOC (ドキュメンテーション国際委員会)	20
(5) CIMCIM (楽器の博物館・コレクション国際委員会)	24
(6) CIMUSET (科学技術の博物館・コレクション国際委員会)	28
(7) CIPEG (エジプト学国際委員会)	37
(8) COMCOL (コレクティング国際委員会)	42
(9) COSTUME (衣装の博物館・コレクション国際委員会)	46
(10) DEMHIST (歴史的建築物の博物館国際委員会)	50
(11) GLASS (ガラスの博物館・コレクション国際委員会)	52
(12) ICAMT (建築・博物館技術国際委員会)	60
(13) ICDAD (装飾美術・デザインの博物館・コレクション国際委員会)	64
(15) ICFA (美術の博物館・コレクション国際委員会)	68
(16) ICLM (文学の博物館国際委員会)	74
(17) ICMAH (考古学・歴史の博物館・コレクション国際委員会)	76
(18) ICME (民族学の博物館・コレクション国際委員会)	81
(19) ICMEMO (公共に対する犯罪犠牲者追悼のための記念博物館国際委員会)	84
(20) ICMS (博物館セキュリティ国際委員会)	88
(21) ICOFOM (博物館学国際委員会)	93
(22) ICOM-CC (保存国際委員会)	95
(24) ICOMON (貨幣博物館国際委員会)	102
(25) ICR (地方博物館国際委員会)	106
(26) ICTOP (人材育成国際委員会)	114
(27) INTERCOM (マネジメント国際委員会)	121
(28) MPR (マーケティング・交流国際委員会)	125
(29) NATHIST (自然史の博物館・コレクション国際委員会)	129
(30) UMAC (大学博物館・コレクション国際委員会)	144
4. その他委員会等大会報告	149
① ASPAC (ICOM 地域連盟: アジア太平洋地域連盟) 年次大会	149
② FIRHM (ICOM 加盟機関: 国際人権博物館連盟) 年次大会	151

1. 2017 年度 ICOM 国際委員会年次大会開催一覧

No	略称	正式名称	日本語訳	時期	場所	テーマ
1	AVICOM	International Committee for Audiovisual and New Technologies and Social Media	オーディオビジュアル及びソーシャルメディア新技術国際委員会(案)	6月 13～15日	ウヘルスキー・ブロード(チェコ)	The Museum Audiovision International Festival — MUSAIONfilm 2017 and F@IMP 2.0.
2	CAMOC	International Committee for the Collections and Activities of Museums of Cities	都市博物館のコレクション・活動国際委員会	10月 30～31日	メキシコシティ(メキシコ)	Museums of Cities and Contested Urban Histories
3	CECA	International Committee for Education and Cultural Action	教育・文化活動国際委員会	10月 14～18日 DEMISTと共催	ロンドン(イギリス)	Relevance and the Role of Museums and Historic Houses
4	CIDOC	International Committee for Documentation	ドキュメンテーション国際委員会	9月 25～30日	トビリシ(ジョージア)	Documentation: Past, Present, Future...
5	CIMCIM	International Committee for Museums and Collections of Musical Instruments	楽器の博物館・コレクション国際委員会	2月 22～25日	バーゼル/ベルン(スイス)	Presentation, Preservation and Interpretation —The Challenges of Musical Instrument Collections in the 21st Century—
6	CIMUSET	International Committee for Museums and Collections of Science and Technology	科学技術の博物館・コレクション国際委員会	12月 5～8日	ラバト(モロッコ)	Technical heritage & Cultural Identity
7	CIPEG	International Committee for Egyptology	エジプト学国際委員会	9月 5～9日	シカゴ(アメリカ)	The Role of Curators in Museum Research and Exhibits: Tradition, Change, and Looking to the Future
8	COMCOL	International Committee for Collecting	コレクティング国際委員会	12月 5～9日	ウメオ(スウェーデン)	Guardians of Contemporary Collecting & Collections —Working with (contested) Collections and Narratives
9	COSTUME	International Committee for Museums and Collections of Costume	衣装の博物館・コレクション国際委員会	6月 26～29日	ロンドン(イギリス)	The Narrative Power of Clothes
10	DEMIST	International Committee for Historic House Museums	歴史的建築物の博物館国際委員会	10月 14～18日 CECAと共催	ロンドン(イギリス)	Relevance 2017: Are we doing enough? Keeping heritage relevant in the 21st Century
11	GLASS	International Committee for Museums and Collections of Glass	ガラスの博物館・コレクション国際委員会	10月 16～20日	サール＝ポトリ(フランス)	New museums: documenting and reviving glass-making traditions
12	ICAMT	International Committee for Architecture and Museum Techniques	建築・博物館技術国際委員会	9月 14～16日	フランダース地域(ベルギー)	Memory Building: Engaging Society in Self Reflective Museums
				10月 14～18日 ICMEMOと共催	シンシナティ(アメリカ)	
13	ICDAD	International Committee for Museums and Collections of Decorative Arts and Design	装飾美術・デザインの博物館・コレクション国際委員会	11月29日～ 12月1日	マイアミ(アメリカ)	Art Deco in Decorative Arts and Design
14	ICEE	International Committee for Exhibition Exchange	展示・交流国際委員会	10月 16～22日 (台風の為に中止)	サンフアン(プエルトリコ)	Exhibitions Without Borders
15	ICFA	International Committee for Museums and Collections of Fine Arts	美術の博物館・コレクション国際委員会	9月 17～19日	コペンハーゲン(デンマーク)	Changing rooms?! Permanent displays and their storage
16	ICLM	International Committee for Literary Museums	文学の博物館国際委員会	9月 15～20日	クレタ(ギリシャ)	Exhibitions: New Insights
17	ICMAH	International Committee for Museums and Collections of Archaeology and History	考古学・歴史の博物館・コレクション国際委員会	10月 4～6日	バクー(アゼルバイジャン)	Museums, Collections and Industrial Heritage
18	ICME	International Committee for Museums and Collections of Ethnography	民族学の博物館・コレクション国際委員会	10月 17～19日	ワシントンD.C.(アメリカ)	Migration, Home, and Belonging

No	略称	正式名称	日本語訳	時期	場所	テーマ
19	ICMEMO	International Committee of Memorial Museums in Remembrance of the Victims of Public Crimes	公共に対する犯罪犠牲者追悼のための記念博物館国際委員会	10月 14～18日 ICAM と共催	シンシナティ (アメリカ)	Memory Building: Engaging Society in Self-Reflective Museums
20	ICMS	International Committee for Museum Security	博物館セキュリティ国際委員会	8月 20～25日	ケンブリッジ (アメリカ)	Sensitivity to Cultures in Museum Security
21	ICOFOM	International Committee for Museology	博物館学国際委員会	9月 25～28日	ハバナ (キューバ)	The politics and poetics of museology
22	ICOM-CC	International Committee for Conservation	保存国際委員会	9月 4～8日	コペンハーゲン (デンマーク)	Linking Past and Future
23	ICOMAM	International Committee for Museums of Arms and Military History	武器・軍事史博物館国際委員会	9月 11～13日	コブレンツ (ドイツ)	Technical Innovations - Innovative Techniques
24	ICOMON	International Committee for Money and Banking Museums	貨幣博物館国際委員会	9月 3～6日	ジャカルタ (インドネシア)	Money and Banking Museums: From Display to Engagement
25	ICR	International Committee for Regional Museums	地方博物館国際委員会	8月28日 ～ 9月1日	ヘルシンキ (フィンランド)	TOGETHER! Regional Museums Engaging with the "New Reality"
26	ICTOP	International Committee for the Training of Personnel	人材育成国際委員会	10月 11～13日	ウイントフック (ナミビア)	Curators and Communities: Training for Collaboration
27	INTERCOM	International Committee for Museum Management	マネジメント国際委員会	2018年 2月 23～25日	コルカタ (インド)	Entrepreneurial Management
28	MPR	International Committee for Marketing and Public Relations	マーケティング・交流国際委員会	10月 1～5日	アムステルダム (オランダ)	Museums and the City: Marketing and Beyond
29	NATHIST	International Committee for Museums and Collections of Natural History	自然史の博物館・コレクション国際委員会	10月 25～30日	ピッツバーグ (アメリカ)	The Anthropocene: Natural History Museums in the Age of Humanity
30	UMAC	International Committee for University Museums and Collections	大学博物館・コレクション国際委員会	9月 5～8日	ヘルシンキ (フィンランド)	Global Issues in University Museums and Collections: Objects, Ideologies, People

2. ICOM 国際委員会の紹介

AVICOM

International Committee for Audiovisual and New Technologies and Social Media

オーディオビジュアル及びソーシャルメディア新技術国際委員会(案)

AVICOM は、二つのワーキンググループで構成されています。AVICOM 写真ワーキンググループは、全ての視聴覚メディアの基礎である静的写真を専門にしています。ワーキンググループは現在、世界の博物館、文化施設における芸術、記録写真のコレクションについてのテーマ別の目録情報を編集しています。AVICOM マルチメディアワーキンググループは、映画・ビデオ・マルチメディア・インターネットなどの動画を専門としています。夜間ワークショップを開き、学生、一般に最新技術の紹介をしています。また、このワーキンググループは、博物館・文化遺産施設に関する国際オーディオビジュアルフェスティバルを開催し、博物館・文化遺産施設で開発されたマルチメディア作品を促進・普及させると共に、優秀作品に賞を授与しています。そしてフェスティバルで展示されたマルチメディア作品、博物館のインターネットサイト・映画などのカタログを発行しています。

CAMOC

International Committee for the Collections and Activities of Museums of Cities

都市博物館のコレクション・活動国際委員会

CAMOC は、都市に関する博物館に勤務し、または関心を持っているメンバーのためのフォーラムです。構成員はその知識や経験を共有し、意見を交換し、国際間のパートナーシップを広げています。そして、博物館同士の話し合いと協力を勧め、都市の過去・現在・未来をつなぐ独自の資料を収集、保管、展示することを支援し奨励し、それにより、都市の独自性を強化し、その発展に貢献しています。活動は、年1回各国で開催される定例会、ワーキンググループ、会議の会報とニュースレターの出版などです。

CECA

International Committee for Education and Cultural Action

教育・文化活動国際委員会

CECA の会員は、博物館の教育担当者、教育に関心を持つ他の博物館専門職で構成されています。構成員は全ての館種から来ており、博物館教育のあらゆる分野に係わっています。即ち、研究、管理、展示解説、展示、事業、メディア、評価。この委員会の目的は国際レベルでの博物館教育に関する情報とアイデアの交流、ICOM の政策、決定、事業に博物館教育が包含されるようにする事、世界における博物館の教育目的の擁護、博物館教育の専門的基準を高める事等です。CECA は年次会議を開き、その経過は印刷物で発表されています。又、ニュースと ICOM Education を年1回発行しています。博物館教育に関する国際的なハンドブックも準備中です。

CIDOC

International Committee for Documentation

ドキュメンテーション国際委員会

CIDOC は、博物館コレクションのドキュメンテーション専門の機関です。本委員会は、ドキュメンテーション、登録、コレクション管理、コンピュータ化に関心のあるキュレーター、図書館員、情報専門家に共同作業の機会を与えます。会員はニュースレターを受領し、年次会議やデータの標準化(文化遺産の一般、固有の両面向けの)、マルチメディア、インターネット等に関する多くの活動的なワーキンググループに参加できます。

CIMCIM

International Committee for Museums and Collections of Musical Instruments

楽器の博物館・コレクション国際委員会

CIMCIM はすべての国における全ての種類の楽器コレクションと博物館に関する専門的活動を促進、組織化することを目的としています。会員は定期会議やその他の会議に参加し、コミュニケーション、保存、ドキュメンテ

ーション、教育、展示、伝統楽器、訓練、楽器コレクションの国際的目録などのワーキンググループに参加し、その結果の報告書等に貢献しています。会員は各種の研究や文献目録に掲載されている CIMCIM ニュースレターを受取ることができます。

CIMUSET

International Committee for Museums and Collections of Science and Technology

科学技術の博物館・コレクション国際委員会

CIMUSET は、科学技術分野の博物館専門職で構成されています。歴史的資料を収集する伝統的な科学技術博物館と、主として子供と若者に科学技術を普及し、その知識の増進に努める科学センターの双方のためのものです。CIMUSET は年次会議を開いています。

CIPEG

International Committee for Egyptology

エジプト学国際委員会

CIPEG の使命はエジプトコレクション、遺跡等の保存関係者間の協力を促進することです。更に、ICOM の事業の枠内で、エジプト学会国際協会 (IAE) と緊密に協力して、エジプト美術、考古学の、特にちいさなコレクションの保存を支援しています。CIPEG は博物館コレクションにおけるエジプト資料の国際的カタログプロジェクト「Corpus Antiquitatum Aegyptiacarum (CAA)」及びエジプト学のジソーラス(専門辞典)の多国語訳も進めています。又、CIPEG の会員はエジプトにおける博物館的計画も支援しています。これは子供及び、大人のための教育事業の促進や発展も含みます。また、CIPEG は博物館、大学、研究所間の協力にも努めています。会員は年1回のニュースレターを受領し、年次会議への参加ができます。

COMCOL

International Committee for Collecting

コレクティング国際委員会

COMCOL は、コレクションの収集とコレクション(有形・無形の双方)の発展に係わる実践、理論及び倫理について、議論を深め、知識を分かち合うことを使命としています。COMCOL は、広い意味でのコレクション収集に関連した考え方と経験について、専門的な見地から交換するプラットフォームです。この委員会は、コレクション収集と除外の方策、現在のコレクション収集、文化財の返還、模範となる実践を担当します。COMCOL の目的は、国境を越えた協力と協調を促進し、博物館における革新を涵養し、コレクション発展の職務において、博物館専門職を励まし助けることにあります。COMCOL は、年次総会とワーキンググループを組織し、そのメンバーに対するニュースレターを発行します。

COSTUME

International Committee for Museums and Collections of Costume

衣装の博物館・コレクション国際委員会

COSTUME は衣装の全分野に於ける研究、解説、保存等の博物館専門職のフォーラムを実施しています。委員会への参加は、研究プロジェクト、展示、保存、保管技術等の専門知識を共有したい方へ開かれています。情報の普及は、専門小委員会の装置、パンフレット、ニュースレター、研究論文出版により行われます。年次会議会報がくばられ、時宜に適したテーマに関連した討論がされています。

DEM HIST

International Committee for Historic House Museums

歴史的建築物の博物館国際委員会

DEM HIST は、伝統建築物 (house museum) の運営、保存等の基準について論議し、提案するフォーラムです。伝統建築物 (house museum) とは、家具、装飾、収蔵品なども含めて創設当時の生活の状況を歴史的意味を持たせて、保存されている建造物です。本委員会の主な目的は多種多様の伝統建築物 (house museum) を方法論により分類する事です。伝統建築物で展示される美術的豊かさを考慮して、本委員会は会

議を組織し、地域保護、復元、警備、教育、コミュニケーション等の事項を討議し、解決案を提示します。

GLASS

International Committee for Museums and Collections of Glass

ガラスの博物館・コレクション国際委員会

GLASS は古代より現在までの全世界のガラス器の研究を専門的に行う委員会です。会員はガラスを主として専門とする学芸員及び保存専門家で構成されます。会員はニュースレターを受領し、年次会議に参加できます。

ICAMT

International Committee for Architecture and Museum Techniques

建築・博物館技術国際委員会

ICAMT は、博物館建築、企画、建設、事業編成、その他展示製作やデザインのあらゆる側面に関心を持つすべての人たちに、アイデアや知識を交換するフォーラムを提供しています。この委員会では、展示製作に使用する基本素材から展示解説の哲学的側面まで、あらゆる事柄について話し合います。ICAMT ではニュースレター「Brief」を年2回発行しています。年次会議、委員会の理事会やワーキンググループの会議では、会員に協力の機会を提供しています。

ICDAD

International Committee for Museums and Collections of Decorative Arts and Design

装飾美術・デザインの博物館・コレクション国際委員会

ICDAD は、博物館・家屋・城・歴史的記念物などに保存されている応用・装飾美術の博物館とコレクションを専門としています。この委員会では、歴史的な室内装飾、応用美術コレクション、現代のデザインに関心を持っています。会員は年次会議に出席し、この会議中、提案したテーマについて短い講演を行うことができます。さらに、この会議期間中、メンバーは博物館、歴史的な建造物や記念物、芸術家やデザイナーのワークショップ、ギャラリー、個人コレクションの団体訪問に参加できます。

ICEE

International Committee for Exhibition Exchange

展示・交流国際委員会

ICEE は、展示に関する知識と経験の普及のためのフォーラムです。この委員会では展示の開発・巡回・交換のさまざまな側面を扱います。また、既存の移動展示会やその可能性についての情報収集も行っています。年次会議では、展示の企画に携わる博物館専門職に、討論や貴重なネットワークづくりの機会を提供しています。最近開始した出版物シリーズでは、具体的な問題点についての情報や実践的な解決策を提供し、専門職の人たちが有益で、情報に富み、費用効率の良い展示を構成するのを支援しています。

ICFA

International Committee for Museums and Collections of Fine Arts

美術の博物館・コレクション国際委員会

ICFA は古典の大家及び 19 世紀の油絵等を所蔵する博物館・美術館に働く専門職員によって構成されています。毎年年次会議を開き重要問題の討議、会員相互の意見の交換等の機会を提供します。最近の会議に議題は、『東ヨーロッパの博物館コレクション』、『博物館設計と建築』、『美術品の不法な取引』でした。

ICLM

International Committee for Literary Museums

文学の博物館国際委員会

ICLM の主たる目的は、文学に関する、歴史・伝記の博物館、及び作曲家の博物館のための、研究、出版、展示、教育等の活動を促進することにあります。会員は 25 カ国からの学芸員で構成されます。会員は、年1回のニ

ニュースレターの受領、年次会議そしてワーキンググループ活動に参加できます。

ICMAH

International Committee for Museums and Collections of Archaeology and History

考古学・歴史の博物館・コレクションの国際委員会

ICMAH は、考古学と歴史の博物館を専門としています。文化遺産を解説・紹介・保管する機構として、こうした博物館では人間と人間が暮らす社会や環境との複雑な関係を解説しています。ICMAH では歴史の解釈に関心を持っており、学際的な枠組みの中でさまざまな研究方法を開発する活動を行っています。また、この委員会では考古学を歴史研究に欠かせない側面としてとらえています。ICMAH は、考古学と歴史の博物館に相互コミュニケーションの機会を与え、アドバイスや情報を提供しています。ICMAH ではニュースレター「ICMAH Information」や会議の議事録を発行しています。さらに、数多くのワーキンググループを編成し、年次会議を開催しています。

ICME

International Committee for Museums and Collections of Ethnography

民族学の博物館・コレクション国際委員会

ICME は、地方・各国・国際の文化に由来する民俗学に関する博物館とコレクションを専門とします。本委員会では、世界的変動の中での民族学博物館とコレクションが持つ問題について関心を持ちます。ICME は、会員に委員会の活動をニュースレターで伝えます。年次会議は特定の議題を取り上げ、ワーキンググループは現在の関心事項をトピックとして設けられます。

ICMEMO

International Committee of Memorial Museums in Remembrance of the Victims of Public Crimes

公共に対する犯罪犠牲者追悼のための記念博物館国際委員会

ICMEMO は 2001 年 7 月に設立されました。この新しい委員会は、歴史に関する信頼にたる記憶を培い、記録し、UNESCO の主たる目的でもある「平和」のために、教育と知識の活用を通じて文化的な強調を推進することを目指しています。これら記念博物館の目的は、国家の、社会的に定められ、イデオロギー的に動機付けられた犯罪を記録することにあります。施設は多くの場合、犯罪がなされた歴史的場所や生存犯罪被害者が追悼のために選んだ場所に位置しています。これらの博物館は歴史的な見通しを保持しつつ、現在へと強く結びつけるような方法で、歴史的出来事についての情報を伝達しようと努めています。

ICMS

International Committee for Museum Security

博物館セキュリティ国際委員会

ICMS には保安・防火・防災の分野の専門職やスペシャリストが参加しています。ICMS の目的は、教育・研修・援助を提供して、盗難・野蛮行為・火事・破壊から人間や文化財産を保護することです。ICMS が設置しているワーキンググループには、物理的セキュリティ、技術的セキュリティ、防火セキュリティ、防災体制、研修、出版物、規則などに関するものがあります。委員会のメンバーはセキュリティに関する出版物やニュースレターを受け取ります。メンバーは年次会議に出席することができ、この会議では博物館セキュリティの世界的な状況や最近の盗難などについて討論・分析が行われます。この会議は年ごとに異なる国で開催されています。さらに ICMS は、米国博物館セキュリティ会議と協力して、ワシントン DC で展示会を開いています。この委員会は、ICOM とその会員にとって、セキュリティ・防火・防災の問題に関する最も大切なアドバイザーの役割を果たしています。

ICOFOM

International Committee for Museology

博物館学国際委員会

ICOFOM は博物館学に関する討議のための国際的なフォーラムです。最も広い意味では、博物館学とは、文化・自然遺産の保護・解説・コミュニケーションに関する人間の個別または集合的なあらゆる行動に対する理論

的探求を扱うものであり、特定の人間と対象物との間に生じる社会的なコンテキストを扱うものです。博物館学の分野は博物館自体の研究よりもはるかに幅広いものですが、中心となるのは社会における集団記憶の保管場所としての博物館の持つ機能・活動・役割です。ICOFOM はさまざまな博物館専門職の研究も行っています。主なテーマには理論と実践の相互関係があります。博物館の仕事の実践的な側面は、博物館記述学(ミュージオグラフィ)や展示記述学(エキスポグラフィ)と呼ばれています。年次会議の記録はすべて ICOFON Study Series の中で発表されています。ニュースレターでは常に最新の動向を会員に知らせています。

ICOM-CC

International Committee for Conservation

保存国際委員会

ICOM-CC は 23 のワーキンググループを持ち、保存専門家、科学者、博物館専門職、その他の専門職に協力と文化的、歴史的に重要な作品の保存と分析を促進する機会を提供しています。会員は、役員会、及びワーキンググループのニュースレター及び3年次会議の事前資料で ICOM - CC の活動を知ることが出来ます。会員は他の専門的な国際会議にも参加できる。過去 10 年間に約 1000 の専門的な発表がなされ、出版されています。

ICOMAM

International Committee for Museums of Arms and Military History

武器・軍事史博物館国際委員会

ICOMAM は、武器、甲冑、火器、要塞、軍服や旗に関する研究を促進し、そのような武具の修復保存に携わる団体と博物館との関係を発展させ保持することを目指しています。ICOMAM は博物館学の分野において、この特定主題を包括的に扱う団体としては、唯一の国際的な組織であります。ICOMAM は3年に一度、関連する議題を掲げて会議やシンポジウムを開催しています。武具の修復と調査に対する委員会の取り組みは、科学的・客観的・人道的なものです。委員会は、設置目的の範囲内で歴史的な文脈において、世界史上の重要性に目を向けながら、兵器について考察します。ICOMAM は社会学的文脈の中で、政治、経済、社会、芸術における役割を検証しながら兵器を調べることに、等しく関心を持っています。委員会は、軍事史と軍事博物館のコレクションが私たちの文化遺産の一部であることを明らかにしたいと思っています。

ICOMON

International Committee for Money and Banking Museums

貨幣博物館国際委員会

ICOMON は貨幣博物館(独立した施設、またはより大きな一般的コレクションの一部としての)、金融・経済機関または企業の博物館、のために創設されました。ICOMON は会員の持つ博物館に関する問題を専ら扱い、収蔵資料の取得・保存、盗難、管理、教育プロジェクト、構想、プレゼンテーションと展示、環境条件コントロールなどを討議するフォーラムです。本委員会は、より広く、あるいは深く討議する機会を設けます。年次会議を開催します。

ICR

International Committee for Regional Museums

地方博物館国際委員会

ICR は世界で最も数の多い、地方博物館のために創設されました。地方博物館は不便な地域、広い地域のいずれのためにもあります。ICR は、地方博物館と地域との関係、歴史、環境、社会的発展、そして言語について関心を持ちます。特に数百万の人々の基本的なアイデンティティに影響を与えてきた、社会的、政治的変動期における地方博物館の挑戦、哲学、方法論、国際協力に関心を持ちます。ICR は、年2回のニュースレターの発行と、年次会議を開催しています。

ICTOP

International Committee for the Training of Personnel

人材育成国際委員会

ICTOP の主な目標は、博物館専門職の研修、専門性の開発、全経歴を通しての職業基準の確立の促進にあります。ICTOP は他の ICOM 国際委員会と密接に交流し、この目標達成に向けて活動しています。その活動には、年 2 回、ニュースレター『International Directory of Museum Training』の発行をすると共に、年次会議、会合を開催する事が含まれます。また、ICTOP は専門職研修のカリキュラム提案作成のアドバイザーとしても活動しています。

INTERCOM

International Committee for Museum Management

マネジメント国際委員会

INTERCOM は全世界の博物館の健全な運営管理を目指しています。本委員会の主たる目的は、管理面としての政策形成、立法、資産管理です。また、イコム職業倫理規定実行の監督も行います。

MPR

International Committee for Marketing and Public Relations

マーケティング・交流国際委員会

MPR は、博物館におけるマーケティング、コミュニケーション、開発（基本調達）部門の博物館専門職により構成されます。MPR では会員に対し、専門能力の成長、優れたコミュニケーションとマーケティング能力の向上の実施、そして専門職間のネットワークの促進の機会を提供します。ICOM が必要とする場合は、そのアドバイザーを務めます。MPR は、電子メディア、書籍の発行、ニュースレターにより、会員、または他の専門職に対し情報を提供します。本委員会は博物館のコミュニケーション、そしてマーケティングの専門職と他の分野の人々との交流会議を計画し、実施します。

NATHIST

International Committee for Museums and Collections of Natural History

自然史の博物館・コレクション国際委員会

NATHIST は、博物館のコレクションおよび自然環境での生物学的多様性の保全、世界の自然遺産の科学的研究、博物館の展示・会議・実地見学などを通じた幅広い大衆の教育に関心を持っています。ニュースレターでは、委員会の構成員間のつながりを保つようになっています。また自然とその保護へ関心の高まりにより益々求められている。この委員会では年次会議を開催しています。

UMAC

International Committee for University Museums and Collections

大学博物館・コレクション国際委員会

UMAC は学術的な博物館・美術館やコレクション（植物園を含む）で働く、もしくはその業務に関わっているすべての人々のためのフォーラムです。UMAC は高等教育機関や、それが奉仕する地域社会におけるコレクションの役割に関心を持っています。委員会は、コレクションのもつ資源的価値に関して提携の機会を確認したり、知識や経験を共有したり、コレクションへのアクセスを広げるための場をメンバーに提供します。その目的は大学の管理下にある遺産を保護することです。UMAC はその目的を遂行するために年間を通してあらゆる方法でメンバーと連絡をします。UMAC は必要があれば、その任務の範囲内で ICOM や他の職業団体へアドバイスをを行います。

3. ICOM 国際委員会年次大会報告

国際委員会名：

International Committee for Audiovisual and New Technologies and Social Media
(オーディオビジュアル及びソーシャルメディア新技術国際委員会(案))

参加者名：

渡辺 友美 (早稲田大学人間総合研究センター、お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター)

開催期日：

平成 29 年 6 月 13 日～15 日(全日程参加)

実施場所：

チェコ ウヘルスキー・ブロード
Jan Amos Comenius Museum

概要：

今年度年次大会テーマ

The Museum Audiovision International Festival - MUSAIONfilm 2017 and F@IMP 2.0.
(博物館国際映像祭)

2017 年の AVICOM 大会は、Jan Amos Comenius Museum が毎年開催しているチェコ国内の博物館映像祭 MUSAIONfilm 2017、及び AVICOM が毎年開催している博物館国際映像祭 F@IMP 2.0 の合同開催という形で実施された。AVICOM 年次大会もその一部で実施された。参加者はいずれかの映像祭への作品応募者または大会主催者が主で、最大で 50-60 名程度であった。

3 日間の映像祭における主要なパートは下記の通りであった。(資料 1.プログラム参照)

① MUSAIONfilm2017 ...6/13、6/14 午前、6/15

チェコ国内の博物館から応募された映像作品の上映～コメントのセッションを繰り返す。上映フィルム、司会、コメント共にチェコ語で、司会とコメントには英語の通訳が付いた。最終日には MUSAIONfilm Festival 20 周年を振り返るセッションや、2017 年度受賞作品の上映会が実施された。

② AVICOM 年次大会 ...6/14 午後

AVICOM 参加者による作品上映またはプレゼンテーション。全 9 名が予定されていたが、急遽筆者もプレゼンテーションに加わったため 10 名が発表した。(詳細は後述)

③ F@IMP 映像祭+MUSAIONfilm の合同授賞式 ...6/14 夕方～夜

F@IMP の受賞作品は予め選定済みで、授賞式では一部分の上映のみ行われた。応募が 32(34?)作品で、受賞が 25 作品前後であった。映像作品以外にも、ウェブやアプリケーション、AR、VR、プロジェクションマッピング、インスタレーション、教育活動など、視聴覚関連のものを全て対象としていた。なお、授賞作品及び授賞式の様子は次の URL で確認可能である。 <https://www.youtube.com/watch?v=c2A66ni3XY8>

④ 博物館見学、エクスカーシオン ...6/15

会場となった Jan Amos Comenius Museum のガイドツアーに続き、AVICOM 年次大会及び F@IMP 2.0 参加者に対しては、近隣の Buchlov 城へのエクスカーシオンが行われた。

6/14 午後に行われた AVICOM 年次大会では、特に決まった議題は設けられていなかった。内容は、視聴覚展示の取り組みに関する報告が 5 件(内 2 件はビデオプレゼンテーション)、映像作品の上映 1 件、マルチメディア作品のインターネットフェスティバル開催の報告 1 件、AVICOM 映像祭の応募システムの説明 1 件、AVICOM 映像祭の歴代受賞作品の紹介 1 件、ICOM 京都大会の紹介 1 件であった。口頭発表をした 8 名

(1) AVICOM

のうち 5 名は現在のボードメンバー、1 名は以前のボードメンバーによる発表であり、質問やディスカッションの時間も特に設けられなかった。年次大会というよりは、映像祭の 1 セッションとして各国の取り組みを紹介する意味合いが強いように感じられた。

ICOM 京都大会の PR:

パンフレット及びニュースレターの配布を行った。年次大会では現地で急遽時間を調整頂き、5 分程度のプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションは京都大会プロモーション用ビデオの上映及び補足説明を行った。

年次大会参加所見(特に ICOM 京都大会へ向けて):

AVICOM は比較的小規模な委員会のように、受賞者以外の一般参加者は筆者以外にほぼいなかったが、初参加の筆者を暖かく迎えてくれた。京都大会のプレゼンテーションは多くの参加者に好評で、大会参加への興味も高かった。しかし一方で、旅費の面では参加がなかなか難しいというのも現実であろう。ボードメンバーからは、京都大会に関して下記の相談、報告を受けた。

(1) 映像祭トロフィーデザインのアイデアが欲しい

・First prize 1 個...京都らしい(さらに、できれば AVICOM らしい)オリジナルデザインで作りたい。アイデアが欲しい。2017 年は、チェコをハンガリーから守った歴史的英雄の black john (?) がモチーフの木彫トロフィー。2016 年はブダペストの有名な人物群のモニュメントの持ち物を、AVICOM を連想させるデジタルデバイスに差し替えて、3D プリンターで造形。

・Other prizes 約 25 個...2017 年は、ガラス(チェコガラス?) 製トロフィー

(2) 京都大会の足、日程

まずは、遠い日本にどうやって行くかが問題。ボードメンバー 4 名～最大 6 名分くらい(全員は来られないと思う)の、旅費を出してくれるスポンサーがいないか、というのが Tari 委員長(Károli Gáspár 大学、ハンガリー)からの最大の相談事であった。ボードメンバーの 1 人である胡江氏(上海博物館、中国)は、京都の直前に上海にて、受賞作品等を決定するプレ会議の実施を提案。Tari 委員長曰く、その行程ならば上海までの旅費は中国が出してくれるが、旅程が複雑になるので、日本にスポンサーはいないだろうかという相談があった。

(3) 現在決まっている予定

2018 年 1 月 上海でプレ会議(Tari 委員長、胡江氏、ボードメンバー数名?)

2018 年 秋 AVICOM F@IMP 授賞式+年次大会 @ドイツ

2018 年 9 月 ICOM 日本委員会主催 各国際委員会 Chair を集めた京都会場の視察(Tari 委員長)

2019 年 9 月 京都の直前に、F@IMP 審査等のためのプレ会議?(ボードメンバー数名?)

2019 年 9 月 ICOM 総会(京都)にて、F@IMP 授賞式+年次大会

(4) オフサイト

ある程度の候補地を準備して望んだが PC 等を見て話す時間はなく、また旅程等の相談が主だったため、オフサイトについては大まかな希望を聴取した程度となった。「Film preservation も新技術も、どちらも見たい」というのが希望であった。AVICOM はもともと Film preservation 等を中心議題とした委員会として発足したが、近年議題として扱い始めた新技術についてはまだまだ知見が足りない、とのこと。Tari 委員長は、みんぱくの大森康宏先生のみ知っている(約 20 年前の話)が、他は全く知らないので相談したいと話していた。

(5) 招待講演の打診

ブダペストの Hungarian National Museum では、毎年 11 月に新技術系の Conference MUZEUM@DIGIT を開催している。AVICOM Treasurer の Ildikó Sz. Fejes 氏(Hungarian National Museum、ハンガリー)より、「今年の Conference で話をしてもらえないか。ICOM 京都の宣伝にもなって、丁度いいと思う。ホテル代、食事代は全て招待するので、旅費だけそちらでなんとかならないだろうか。」と打診があった。MUZEUM@DIGIT での講演トピックは、Film 系よりも新技術系が望まれている。日本の状況は全然知らないなので、日本における Best practice を紹介してほしい、事例研究みたいな話題でも OK とのことであった。

(1) AVICOM



写真 1. 会場遠景



写真 2. 映像祭の案内表示



写真 3. 博物館エントランスと映像祭受付



写真 4. 会場の様子



写真 5. ICOM 京都大会のプレゼンテーション



写真 6. ICOM 京都大会のプレゼンテーション



写真 7. 大会初日 Cultural evening の様子



写真 8. Buchlov 城へのエクスカーシオン

資料 1. プログラム

TUESDAY 13 JUNE

12.00

Participant registration at the museum

13.00

Opening ceremony

13.20

Presentations

Budatin Castle's New Faces / 6 min.
Preparing an Exhibition, or: What the Visitors Cannot See / 3 min.
Bishop Karel's dream / 1 min.

SHORT FILMS

13.30

Historical personalities

Henry the Woodcarver / 5 min.
Juraj Turzo – The Most Illustrious Palatine Now in the County of Zlín / 4 min.

13.40

Invitations

The Museum Night – Museum of Moravian Slovakia, 2017 / 2 min.
South Moravian Museum in Znojmo / 3 min.
Be a FUN Team / 3 min.

13.50

Discussion

14.05

Break

14.20

Exhibitions

History and Present of the Hanušovice Brewery / 16 min.
Uh. Hradiště Prison Exhibition / 13 min.

14.50

Discussion

MEDIUM LENGTH FILMS

15.05

Restoring

The preparation of an Indian elephant / 19 min.
The Art of Restoring: Tapestries and Liturgical Textiles of Decorative Arts in Prague from the Museum Emperor's New Clothes / 12 min.
Emperor's New Clothes / 14 min.

15.50 Discussion

13.30

„Continents meet through digital and social interpretation of museum projects“
The meeting of the continents through digital and social interpretation of museum projects

The ICOM AVICOM annual meeting (screenings & presentations by guests from abroad)
ICOM AVICOM ANNUAL MEETING / AVICOM Conference

1. ASIA / Mr. Hu Jiang – Shanghai Museum, China
2. Middle AMERICA / Samuel Franco Arce – ICCROM, Guatemala
3. South AMERICA / Luiz de Franco Neto – Estúdio Preto e Branco (videopresentation), Brazil
4. AUSTRALIA / John Cheeseman – Mosman Art Gallery, Australia
5. AFRIKA / Misheck Zulu – Lusaka National Museum, Zambia
6. EUROPA / Olga Kissel GEEK online festival in Russia from Germany
7. EUROPE / Ildikó Fejes, AVICOM treasurer, National Museum OMMIK, Hungary
8. EUROPE / Janos Tari chair, AVICOM Károli Gáspár University for Reform Church in Hungary
9. EUROPE / Carina Jaatinen, ICOM Executive Board member, Finland

16.00

Presenting the mila-wall exhibition on modular system
DYTEC GmbH / DYTEC, s.r.o.
In the "Informatorium" hall

16.30

Break

17.00

"The Great Moravian Empire Echoing into the Third Millennium"
HRAJČISTAN & Jiří Pavlica
A concert of a unique music band renowned for its high artistic and interpretative level, unusually wide range of genres, and unconventional repertoire, which originally stemmed from folk songs.

16.05

Portraits

The Häfiling Josef Čapek / 26 min.
György Jovánovics | Portrait of artist... / 20 min.
Ladislav Zezula – The Folk Musical Instruments Manufacturer from Skalica / 7 min.

17.00

Discussion

17.15

Archive films

The Processing of Raw Kaolin / 32 min.
Museologists from Another Perspective... / 17 min.

18.05

Discussion

18.30

Break

19.00 – 23.00

Cultural Evening

And a cocktail party in the museum | 'Olšava' Folk Ensemble & tasting of wines from Velké Bílovice – the Czech Republic's largest wine producing region

WEDNESDAY 14 JUNE

9.00

Art

Jano Koehler / 72 min.

10.15

Exhibit

The Men from the Alley of the Dead / 52 min.

11.15

Discussion

11.30

Seminar

BY PROF. Rudolf ADLER / FAMU, Department of Documentary Films

12.00

Break / MUSAIONfilm jury evaluation

13.00

Press Conference media / guests from abroad / museum

The Red Lounge of the Museum

18.00

PRIZE GIVING CEREMONY AND AWARDING FAIMP and MUSAIONfilm WINNING PROJECTS
Screening of the winning projects and films
Czech virtuoso Štěpán Rak – guitar fanfare

With the participation of Jiří Čunek, Governor of the Zlín Region; Ing. Vlastislav Ouroska, Ph.D., Deputy Minister of Culture of the Czech Republic; János Tari PhD, President of AVICOM; Mgr. Martina Lehmannová, Chairperson of the Czech National Committee of ICOM, et al.

Grand Prize / FAIMP 2.0 AVICOM

25 special awards to FAIMP 2.0 AVICOM audiovisual projects
Černý Janek 2017 / The Black Johnny 2017 / MUSAIONfilm 2017 Main Prize
3 MUSAIONfilm 2017 Certificates of Merit to a short, medium-length, and feature film, respectively

Representatives of winning institutions from abroad:
"Kulikovo Field" museum, Bank of Russia, Bible Museum, Espoo City Museum, Fundació Gala-Salvador Dalí, ICCROM, Lutheran Church Museum, Moscow Kremlin Museums, Musée d'ethnographie de Genève, Museum of Csoma, Museum-Reserve "Kremlin", NOVENA d.o.o., Rákóczi Museum of The Hungarian National Museum, The State Tretyakov Gallery, Tsarskoye Selo State Museum

19.00

DINNER PARTY

Museum atrium, Jazz music

THURSDAY 15 JUNE

9.00

20 Years of the MUSAIONfilm Festival in Uherský Brod
Retrospective screening of the most interesting films from the MUSAIONfilm festival archives

10.00

J. A. Comenius Museum
Guided tour of the Museum focused on JAC and ethnology / EN

12.00

Break

13.00

Screening of 4 awarded films – MUSAIONfilm 2017
Until 15.00 hrs

13.30

Tour of Buchtov Castle (for the AVICOM Festival participants)

The programme is subject to changes.

16.00 Ending of the festival

The programme is subject to changes.

国際委員会名:

International Committee for the Collections and Activities of Museums of Cities
(都市博物館のコレクション・活動国際委員会)

参加者名:

邱 君妮 (ICOM 京都大会準備室、総合研究大学院大学文化科学研究科)
益田 兼房 (ICOM 京都大会準備室)

開催期日:

平成 29 年 10 月 30 日～31 日 (全日程参加)

なお、10 月 28 日に「博物館、移民・新住民と受け入れ都市」ワークショップ、11 月 1 日にポストカンファレンス・ツアーを開催。日本側参加者は帰国便の都合のため、ポストカンファレンス・ツアーに参加せず、帰国した。

実施場所:

メキシコ メキシコシティ
National Museum of Cultures (国立世界文化博物館)

概要:

今年度年次大会テーマ

Museums of Cities and Contested Urban Histories (都市博物館と抗える都市の歴史)

CAMOC 2017 年次大会は、2013 年 ICOM リオ大会に次いで、再びラテンアメリカで開催された。この会議では、近年の都市をめぐる問題を取り上げ、都市に所在する博物館がその都市自体のにおける過去と現在の移民や被差別に関する歴史問題や、ポストコロニアルアイデンティティと都市の歴史の再解釈、都市にある博物館がいかに各国の移民・新住民問題を含め人類平和をいかに促進するかなどを議論し、積極的に研究発表やワークショップなどを通じて解決策を検討しようとするものであった。また、2016 年から始まった ICOM 「Committee for Museum Definition, Prospects and Potentials (博物館の定義、方向性と可能性に関する常設委員会; 略称: MDPP)」によって、新しい博物館定義を提示するプロジェクトの一環として、MDPP ワークショップが開催され、都市にある博物館の現在と未来に焦点を当て、都市の博物館はどのように使命を果たし、最終的に都市生活を向上させることができるかということを含め、都市博物館の定義を議論した。

今年の年次大会はおおよそ 23 カ国・地域から 60 名が参加した(メキシコ、カナダ、ギリシャ、スペイン、ポルトガル、アルゼンチン、ブラジル、オランダ、フランス、米国、イタリア、南アフリカ、トルコ、台湾、ロシア、エジプト、ケニア、デンマーク、ラトビア、北アイルランド、イラン、エルサルバドル、日本)。日本からは ICOM 京都大会準備室の邱君妮と益田兼房、多摩六都科学館の高尾戸美氏、京都文化博物館の村野正景氏及び展示デザイナーの赤澤香氏の 5 名が参加した。

年次大会前のワークショップを含め、各会議には英語・スペイン語の同時通訳が付けられ、多様な議論が展開された。3 日間の会議内容における主要なパートは下記の通りであった(資料 1. プログラム参照):

(1) 10 月 28 日 「Migration: Cities | (im)migration and arrival cities (博物館、移民・新住民と受け入れ都市)」ワークショップ

ワークショップは朝 8 時 45 分登録開始で 5 時半終了、夜 8 時から 10 時まではレセプションと、朝から晩までいっぱいプログラムだった。

CAMOC は、ICOM の 30 国際委員会の中でもとくに博物館の現代的な役割や課題への関心が高く、行動的な委員会である。「博物館、移民・新住民と受け入れ都市」とは、2016 年から正式に始まり、CAMOC, ICR (ICOM International Committee for Regional Museums、地方博物館国際委員会) と CAM (Commonwealth Association of Museums) によりリードされている ICOM の特別研究プロジェクトの一環で

(2) CAMOC

あった。3年にわたるプロジェクトを通じて、博物館、移民博物館とそのほかの博物館関係者、また博物館専門家が情報共有し、Doug Saunder が提唱する「Arrival Cities (到着都市・受け入れ都市)」の概念のように、現実と向き合ううえで重要な方法を共有するためのプラットフォームを構築するプロジェクトとして進められてきた。このプラットフォームは、博物館における現代都市生活の保存と再現を議論するリソースとハブになり、移住者と博物館の両方の経験、異なる洞察力、調査ツールを提供する。シンクタンクとコンタクトゾーンとして機能する専門家間の交換とメンターシップの機会を促進することが目的である。

2017 年 CAMOC メキシコ年次大会は、2015 年 11 月のグラスゴー・ワークショップと 2017 年 2 月アテネ・ワークショップを受けて、ヨーロッパへ流入するシリアなどからの大量の難民移民に、彼らが到着する各都市の博物館はなにができるか、世界各都市で近代に起きている新規住民の受け入れと定着に博物館はいかに歴史的証人たりうるか、具体的に役立つのかを問う、やや挑戦的な内容となった。今回のワークショップでは、移民難民の問題を世界中で考えようという方向で、プログラムの構成もよく準備されていた。

開会挨拶では、CAMOC 会長の Joana Sousa Monteiro、ワークショップ担当の Catherine C. Cole、メキシコ主催代表の Yani Herreman が、それぞれの立場から都市の博物館が都市移民に関する問題に向き合う重要性を指摘した。CAMOC 前会長の Marlen Mouliou は、ICOM-CAMOC としてのこのプロジェクトの取り組み状況の評価報告を行った。

カナダとメキシコからの基調講演のほか、オランダ、フランスやイランなどからの報告も、その流れに沿って選択されタイトルも付けられて、世界中の関連情報が集められていた。日本からは邱君妮、高尾戸美と赤澤香の 3 名で、「(Im)Migration & Museums Trends in Japan」というテーマで、東京都美術館や多摩六都科学館など、近年日本の博物館・美術館で行なわれている来日・在日外国人と日本社会の地域参加を促進する多様な活動等の報告をおこなった。なお、この発表は東京をベースにアートプロジェクトを行うことで移民の若者たちを支援する「一般社団法人 kuriya」から情報提供を受けた。

各国から報告のあと、「Getting uncomfortable: Working Outside your Comfort Zone (自分の快適な場所から外に出て働こう、そして不愉快になろう)」という変わったタイトルのワークショップがあった。都市の歴史のなかでの移民へのひどい扱いなどの汚点を直視するのは、博物館専門家にとっても決して快適なことでは無い。しかしあえてそこを考えようという趣旨であったが、実際にはあまり議論は深まらず散会となった。博物館専門家がいかに自分自身を変えられるか、困難な課題であるのは確かだが、そこにあえて ICOM-CAMOC が挑戦していることに、この委員会の重要性があると思われる。

ワークショップ全体プログラムが終わったあとに、都心にある 1920 年代建設のアールデコ様式になる鉄筋コンクリート構造の消防本部建物を活用して新設された「ポピュラー芸術博物館」でレセプションがおこなわれた。メキシコ現地の参加者によると、メキシコでは博物館専門家は豊かな上流社会の子弟が多い、しかしこの新しい博物館は先住民系の現代芸術活動展示に特化している。ここでは(貧しい)先住民系社会の芸術表現に発表の場を与え、また彼らの古代文化が現代メキシコの芸術活動にインスピレーションを与える、それで英語のポピュラーを使った博物館名となった。

(2) 10 月 30 日～31 日年次大会

今回の年次大会のテーマは Museums of Cities and Contested Urban Histories (都市博物館と抗える都市の歴史) ”で、4 つのセッション: 1) 博物館、移民・新住民とその受入都市、2) 都市の歴史、忘却と都市博物館、3) 論争する現代: 紛争中の都市と文化、4) 博物館で表現する語れない歴史が設けられた。

初日は朝 9 時登録開始で、開会挨拶と基調講演、2 つのセッションで 14 本の発表と円卓会議があり、夕方 7 時に終了した。第 1 セッション・テーマは「博物館、移民・新住民とその受入都市」で、メキシコ、ギリシャ、スペイン、ポーランドからの報告のほか、日本からは益田兼房が、「Migrations and museums in South Pacific island state capital cities: Samoa, Vanuatu and Fiji」として、紀元前からのモンゴロイド先住民の太平洋地域への航海拡散定住と 18 世紀以降の欧米植民地支配下での白人インド人中国人らの移住が、国家アイデンティティ形成を担う各国国立博物館展示にいかに関与しているかを報告した。またその中で、フィジー博物館が支援する世界遺産港町レブカの文化的景観がこれら諸民族の共存の結果を反映しており、博物館が有形無形多種多様な文化遺産を統合するハブ機能を強化することが、異なる諸住民共存の地域社会形成を促進し、

(2) CAMOC

2019 年京都大会のテーマ「文化ハブとしての博物館」につながると説明した。そして、第 1 セッションの後に、MDPP ワークショップが開催され、都市博物館の定義を議論した。その後、第 2 セッション「都市の歴史、忘却と都市博物館」では、ポルトガル、アルゼンチン、ブラジルからの報告のほか、日本からは邱君妮が「What about us inside City Museums?」と題して、文化尊重を基本政策とする台湾の都市博物館が、住民とともに記憶を博物館で展示する試みとその意義を語った。

2 日目は、朝 9 時開始で夜 10 時のレセプション終了まで、2 つのセッションなどで 20 本の報告が予定されたが、3 本欠席(2 本はビデオ代替)があった。第 3 セッション「論争する現代: 紛争中の都市と文化」と第 4 セッション「博物館で表現する語れない歴史」のほか、「Ignite」という発表枠があり、8 人から 5 分ずつの発表となり、日本からは、京都文化博物館の村野正景氏が、「Whose history is the museum talking about? A case of the Museum of Kyoto」と題して、京都文化博物館の取り組みを報告した。



開会式の様子



発表の様子



会場の様子



受付エントランスとコーヒープレイクの様子



博物館の屋上でランチの様子



配布資料

(2)CAMOC



メキシコシティ旧城地域



国立世界文化博物館

ICOM 京都大会の PR:

パンフレット及びニュースレターの配布を行った。年次大会の開会式で、京都大会プロモーション用ビデオの上映及び補足説明を行った。プレゼンの際、日本からの参加者全員に登壇してもらい、ICOM 2019 京都大会への参加呼びかけをおこなった。



ICOM 京都大会のプレゼンテーション



年次大会参加所見(特に ICOM 京都大会へ向けて):

日本主催側にはボードメンバー邱君妮がいるので、随時委員長と事務局と連動し、京都大会の準備を進めている。最終日(10月31日)のCAMOC年次総会において、来年の予定と京都大会におけるCAMOCの予定について、説明した。

現在決まっている予定:

2018年6月 ドイツ・フランクフルト 2018年年次大会

2018年10月 委員長が舞鶴大会に参加

2019年9月 京都大会:DEMIST、ASPACと合同会議を開催

今年度年次大会の開催にあたっては、翻訳・PC 関連・ケイタリングはローカル側が見積もりをとり、CAMOCへ予算を提示し、その予算内でローカル側が手配、CAMOCが経費負担すること、ICOM 京都大会も同じように進める。ICOM 京都大会ローカル側の役割は、大会の会場運営に関わるもののほか、業者の選定や発注などCAMOC側と連絡体制の構築を進めることと想定される。

(2) CAMOC

資料 1. プログラム

10月28日「博物館・移民・新住民と受け入れ都市」ワークショップ

WORKSHOP PROGRAMME

Migration:Cities Workshop, Mexican City - Saturday, 28 October			
Coordinadora Venet: National Museum of Cultures (Museo Nacional de las Culturas del Mundo)			
08:45-09:00	Registration		
09:00-09:10	Opening / Welcome Speeches		
	Joana Sousa Monteiro	Chair, CAMOC	
	Gloria Artis Mercadet	Director, National Museum of Cultures	
	Yani Herremán & Catherine C. Cole	Migration:Cities Workshop Organisers	
09:10-10:30	Keynotes		
	Doug Saunders	CANADA	The Museum at the Centre of Arrival
	Francisco Javier Guerrero	MEXICO	Migrations and museums. The whirlwind of the ambulatory
10:30-11:00	The Migration:Cities Project Evaluation of project results - Marian Maraziti		
11:00-11:30	Coffee Break		
11:30-12:40	Museum Presentations Chaired by Catherine C. Cole & Yani Herremán		
	Rachel Erickson	CANADA	This has to last 40 years - Future planning and community collaborations at the Manitoba Museum
	Annemarie de Wildt	NETHERLANDS	Representing Amsterdam - Music and migration
	Chunmi Chiu (Jenny), Hiromi Takao & Kaori Akazawa	JAPAN	(Im)migration and Museums Trends in Japan
	Andrea Delaplace	FRANCE	Immigration heritage in São Paulo
	Sara Kariman	IRAN	The functionality and necessity of a museum's attention to immigration with a case study Afghan refugees in Iran

53

12:40-13:00	Break		
13:00-14:00	Migration Papers by NGOs Chaired by Ery Cavazos		
	Irazú Gómez Vargas	MEXICO	Hospitality response to migration in Mexico
	Fabienne Venet Rebliffe & Inés Giménez Delgado	MEXICO	Open museums: spaces of social participation for inclusion from diversity
14:00-15:30	Lunch		
15:30-16:00	Video Presentations		
16:00-16:30	Coffee break		
16:30-17:30	Workshop: Getting Uncomfortable: Working Outside your Comfort Zone - Facilitator Linda Norma		
17:30-18:30	Guided tour: National Museum of Cultures		
20:00-22:00	Reception at Museum of Popular Art (Museo de Arte Popular)		

54

10月30日～31日 ICOM-CAMOC 2017 年次大会

CAMOC ANNUAL CONFERENCE 2017

DAY 1 - Monday, 30 October			
Conference Venue: National Museum of Cultures (Museo Nacional de las Culturas del Mundo)			
09:00-09:30	Registration		
09:30-10:05	Opening / Welcome Speeches		
	Joana Sousa Monteiro	Chair, CAMOC	
	Gloria Artis Mercadet	Director, National Museum of Cultures	
	Yani Herreman	Local Organiser, CAMOC	
	Maya Dávalos Murillo	Chair, ICOM Mexico	
	Andrés Triana	Director, National School of Conservation, Restoration and Museography (ENCRyM)	
	Maria de Lourdes Monges	Executive Board Member, ICOM	
10:05-10:10	ICOM 2019 Kyoto General Conference Jenny Chiu	ICOM 2019 Kyoto Office	
10:10-10:15	Video Presentation: "Paradox of Praxis 5" Francis Alys	Belgian artist based in Mexico City	
10:15-11:00	Network		
	Doug Saunders	CANADA	Lost Populations: Emigrants, Immigrants and the missing histories of our cities
11:00-11:30	Coffee Break		
11:30-11:30	Session 1: Museums, Migration and Arrival Cities Chaired by Irene López-Hernández		
PART 1	Marco Barrera Bassols	MEXICO	Museology and migration in the Trump era
	Marlen Mouliou	GREECE	Before the 'Arrival'... how to empower refugee communities in transitional cities through museum-like activities within the urban landscape
	Joan Roca i Albert	SPAIN	The informal city in the city museum
	Kanefusa Masuda	JAPAN	Migrations and museums in South Pacific island state capital cities: Samoa, Vanuatu and Fiji
11:30-11:30	Session 1: Museums, Migration and Arrival Cities Chaired by Yani Herreman		
PART 2	Jesús Antonio Machuca Ramirez	MEXICO	Do Indigenous groups, established in cities, have representative museum spaces?
	Hortensia Banderas Alvarez	SPAIN	Immigration and territory: postwar immigration as a structuring element of the urban configuration in the outskirts of Madrid

10

	Magdalena Wroblewska	POLAND	Where have the varsovians come from? Migrations in contemporary Warsaw
13:30-15:00	Lunch at the National Museum of Cultures		
15:00-15:30	Round-table on Museum Extension: Exports and Potentials with ICOMA (REIT)		
	Introduction: Afşin Altaylı, Member, ICOM/MDPP: Museum Definition, Prospects and Potentials Committee Round-tables		
15:30-15:45	Coffee Break		
15:45-15:55	Session 2: Urban Memory, Immigrant City Museum Chaired by Mervin Mokuau		
PART 1	Joana Sousa Monteiro	PORTUGAL	Thrones and Seeds - migrant cultures flow in Lisbon: new challenges, new perspectives
	Laura Accetta	ARGENTINA	New spaces, same challenges
	Chunni Chiu (Jenny)	JAPAN	What about us? Seeking the 'Self' in city museums
	Clint Curle & Jennifer Nepinak	CANADA	Acknowledging Ancestral Lands at the Canadian Museum for Human Rights
15:55-16:00	Session 2: Urban Memory, Immigrant City Museum Chaired by Mervin Mokuau		
PART 2	Águeda Oliveira & Ana Gomez	BRAZIL	Exceptional city, ordinary issues: three city museums in Brasília
	Annemarie de Wildt	NETHERLANDS	The biographical perspective in urban memories
	Cintia Velázquez Marrón	MEXICO	To share history? On authority issues in the narrative(s) about the past in museums

11

CAMOC ANNUAL CONFERENCE 2017

DAY 2 - Tuesday, 31 October Conference Venue: National Museum of Cultures (Museo Nacional de las Culturas del Mundo)			
09:30-10:15	Session 3: (Dis)orderly Present: Cities and pictures in conflict Chaired by Catherine C. Cole		
PART 1	France Desmarais	FRANCE	Museums on the Edge: Culture Caught in the Crossfire
	Sarah Henry	USA	Confronting New York's present and future
	Cristina Medico	ITALY	Who destroys memory can dominate the future: Memory in Art and Museums
	Bonginkosi Zuma	SOUTH AFRICA	The extent to which South African cities' museums rise(d) to political undertones: confessions from a heritage perspective
10:15-10:45	Break		
10:45-11:10	Session 3: (Dis)orderly Present: Cities and pictures in conflict Chaired by Mervin Mokuau		
PART 2	Katarzyna Jarosz	POLAND	City identity in the context of political changes and through the lens of military conflict. Armenian minority in Aleppo in the time of war as a part of city identity
	Ana Karina Puebla Hernández	MEXICO	The museum as hostage of armed conflict: rebuilding new paradigms of social transformation
	Nayat Karakose	TURKEY	Persevering through time and memory: Hrnt Dink Site of Memory - Hrnt Dink Foundation
11:50-11:45	Coffee Break		
11:45-12:00	ICOMI - Chinese city museums		
	Elka Weinstein	CANADA	A Museum for the City of Toronto
	Chao-Chieh Wu	TAIWAN	Whose history in the museum of history?
	Patricia Elsa Brignole	ARGENTINA	Urban memory, dialogues and reflections on new contents: Redesign of the script: Museum of the City of Córdoba
	Masakage Murano	JAPAN	Whose history is the museum talking about? A case of the Museum of Kyoto
	Alina Saprykina & Liliya Krygina	RUSSIAN FEDERATION	Museums of the city and their influence
	Chelsea Ridley & Jonathan Kelley	USA	Sociomuseology and Decarceration: The Unnamed North Lawndale Community Museum

12

	Shreen Mohamed Amin	EGYPT	City museums in Egypt as places of human respect
	Joyce Kinyanjui	KENYA	Creating a museum a home of belongings in age of global migrations within communities
13:00-14:00	Lunch at the National Museum of Cultures		
14:00-15:30	Session 4: Saying the Unsayable in Museums Chaired by Chunni (Jenny) Chiu		
	Jette Sandahl	DENMARK	Contested issues and museum activism
	Inga Sarma	LATVIA	To tell the unspeakable. Jumala experience
	Mingqian Liu	USA	Shijia Hutong Museum and the struggles of historic preservation
	Rosa Viviana López Ortega	MEXICO	Museum and memory: from paradox to possibility
	Chris Reynolds & William Blair	IRELAND	Reframing Northern Ireland's 1968 in a 'post-conflict' context
16:45-17:15	Coffee Break		
17:15-18:15	Panel - Turning Memory into Action: The International Coalition of Sites of Conscience Moderator: David J. Brown, Global Memory Program Director, International Coalition of Sites of Conscience		
18:00-19:00	General Assembly		
20:00-22:00	Reception at the National Museum of Cultures		

13

国際委員会名:

International Committee for Documentation

(ドキュメンテーション国際委員会)

参加者名:

西 記代子 (ICOM 京都大会準備室)

開催期日:

平成 29 年 9 月 25 日～30 日 (全日程参加)

実施場所:

ジョージア(旧グルジア) トビリシ

Georgian National Museum (ジョージア国立博物館)

Z. Tsereteli Museum of Modern Art (MOMA トビリシ)

概要:

今年度年次大会テーマ

“Documentation: Past, Present, Future...” (ドキュメンテーション: 過去、現在、未来...)

ドキュメンテーション国際委員会(CIDOC)では、ドキュメンテーションを「博物館における全ての業務、そして全ての階層に必要な不可欠なものである」というスタンスで扱っている。そこには、コレクション・マネージメントや研究、機関内での重要な意思決定なども支える役割があるとしている。時には、**Information management** (情報マネージメント)とも言われ、従来から博物館等施設で行われてきたコレクション情報を記録するだけにとどまらない包括的な情報を構築・管理する方法なども探られている。

今大会では、以下のトピックに沿って、基調講演やワークショップ、研究発表などが実施され、世界各地でのドキュメンテーションの変遷を振り返り、現在の手法を分析することで、未来への最善方法を探ろうとする試みとされた。

- How did museum documentation start in different places and how did it develop?
- Cultural heritage documentation as knowledge management
- Standards and their application in museum documentation
- Implementing best practices in museum documentation
- Challenges of the 21st century – Inter-cultural dialogue supported by museum documentation
- Documentation in excavation work
- Enabling cross-border, cross-sectoral networking of museum documentation to support research, education and presentation

大会を通じて、基調講演者も含めると 78 名の発表があり、うち 24 名は The Getty Foundation からの助成金を受けての参加であった。内容は幅広く、日本では既に一般的になっている手法の紹介から、(筆者にとっては)目新しいものまであった。中でも、**International Image Interoperability Framework**、略して **IIIF** (トリプルアイエフ) というデジタルアーカイブにおいて画像を公開し共有するための国際的な枠組みについてのワークショップは、デジタルアーカイブが増える日本のミュージアムにおいても興味深い内容であっただろう。その他、

(4) CIDOC

CIDOC が示している国際的ドキュメンテーション基準の参考にもされたイギリスのコレクション・マネージメント基準である SPECTRUM(スペクトラム)についてのワークショップも人気があったようだ。

その他、多くのセッションが同時進行で行われており、様々なトピックの研究発表があったり、丸一日かけてのワークショップもあったりで、参加者の関心に合わせて選択のうえに参加する形となり、全体像を把握することが難しくもあったが、ガイドツアー(無料)やエクスカージョン(別途 30 ユーロ)も盛り込まれ、全般的に充実している印象を受けた。

ICOM 京都大会の PR:

9 月 29 日の総会において、6～7 分の PR 時間をいただいた。京都大会前年にギリシャで開催される 2018 年年次大会が PR された流れで、続いて京都大会の PR を行った。総会参加者に京都大会にも参加したいかと問いかけたところ、ほぼ全員が挙手してくれたため、京都大会に対する関心の高さを確認できた。このプレゼンテーションの中では、PowerPoint スライド・PR ビデオを使用し、大会パンフレットは東京藝術大学から参加されていた嘉村哲郎氏の協力を得て配布した。特に、屏風仕立てになったパンフレットは好評で複数部持ち帰る方や、ビデオについてはもう一度見たいと言う方も多くおり、視覚に訴えるものの PR は効果が大きいと感じた。

年次大会参加所見(特に ICOM 京都大会へ向けて):

今大会の参加者は、186 名(うち 66 名はジョージアから)だったそう。しかし、聞くところによると、上海大会は 89 名、リオデジャネイロ大会は 53 名、ミラノ大会で 90 名と、3 年ごとの ICOM 大会では例年の年次大会の半分から 4 分の 1 程度の参加者しかいないらしい(ICOM 大会以外は例年 200 名前後)。この傾向を考慮し、京都大会では日本人参加者も増やせるよう、CIDOC でのテーマやサブテーマは日本の実情に即した内容にする案も考慮してもらっている。

京都大会での CIDOC 全般的な運営に関しては、9 月 27 日(大会 3 日目)に 30 分ほどメイン会場隣の映画館カフェで委員長・事務局・会計担当者の 3 名と打ち合わせすることができた。しかし、次年のギリシャでの年次大会について話を詰めている段階であり、京都大会については、これまでの大会開催経験に基づく傾向・京都大会での希望を聴取し、今後の大まかなスケジュールを確認するにとどまった。

その他、気付いた点を下記に記す。

ー ボランティアについて

ICOM Georgia 委員長が教鞭をとる大学などの博物館学や美術史を学ぶ大学院生から、各日最大で 12 名が会議などをサポート。最後の総会で、ボードメンバーから感謝状とプレゼントが渡された。

ー 翻訳について

基調講演や総会などの全体会では、The Getty Foundation と ICOM Georgia の助成により同時通訳が用意された。これにより、ジョージア側参加者とその他英語話者との意見交換などが充実したように思われる。

ー 登録手法について

Google フォームや Doodle という無料のアンケート実施・スケジュール調整サービスを利用して、大会登録やワークショップ及びエクスカージョンの申し込みを受け付けていた。

ー プログラム冊子について

発表者の顔写真付き冊子が大会スケジュールと共に配布され、パーティやコーヒブレイク時の交流に有効に働いた。

(4) CIDOC



ワークショップの様子



コーヒーブレイク



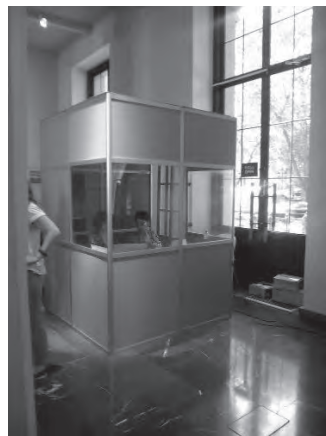
総会での京都大会 PR



「京都大会に来たいか」との問いに対する反応



通訳機器



通訳ブース



コンgresバッグ



ボランティアの面々



フェアウェルパーティーでダンスする参加者

Program structure CIDOC 2017

Time	SUNDAY 24. September	MONDAY 25. September	TUESDAY 26. September	WEDNESDAY 27. September	THURSDAY 28. September	FRIDAY 29. September	SATURDAY 30. September
09.00 - 09.30		Registration	Registration	Parallel sessions	Parallel Session	Parallel sessions	Excursion day
09.30 - 11.30		Workshop-Day and working group meetings	Opening Keynote 1				
11.30 -12.00			Coffee Break	Coffee Break	Coffee Break	Coffee Break	
12.00 - 13.00			Introduction in work of CIDOC	Keynote 2	Keynote 3	Keynote 4	
13.00 – 14.00			Lunch	Lunch	Lunch	Lunch	
14.00 - 15.30	Board meeting	Registration	Parallel Sessions	Parallel Sessions	Professional visits	CIDOC AGM	
15.30 - 16.00			Coffee Break	Coffee Break			
16.00 - 18.00			Working Groups	Working Groups		Board meeting	

Updated: 16th July 2017

国際委員会名:

International Committee for Museums and Collections of Musical Instruments
(楽器の博物館・コレクション国際委員会)

参加者名:

嶋 和彦(浜松市楽器博物館館長)

開催期日:

平成 29 年 2 月 22 日(水)～25 日(土) (全日程参加)

実施場所:

スイス バーゼル/ベルン

Bern University of the Arts (ベルン芸術大学)

The Museum for Music Basel (バーゼル楽器博物館)

Schola Cantorum Basiliensis (バーゼル・スコラカントルム)

概要:

2017 年の大会は、2016 年 7 月のミラノ大会からわずか 7 か月後の 2017 年 2 月に、スイスのバーゼルとベルンで行われた。次回の 2018 年大会は、中国の武漢・上海にて 9 月に行われる予定なので、1 年以上も間が空く。

2018 年中国大会については、すでにミラノにて日程と場所のみ中国側から説明が済まされていることもあり、スイス大会への中国側の出席はなかった。日本側にとっては、2016 年度に 2 回大会が開催され、2017 年度は大会が無しということになる。

以下、スイス大会の概要を記す。

● 大会テーマ: Presentation, Preservation and Interpretation

～ The Challenges of Musical Instrument Collections in the 21st Century ～

CIMCIM の会合は、国際委員会の中でも大変真面目と言われている。各発表は 30 分間で、毎日 9:00～17:30 まで行われた。特に今回は 80 人近くの参加者で発表も多く、15 分間のショートプレゼンテーションも取り入れて、多くの発表に対処した。嶋は初日 22 日の最後にショートプレゼンテーションを行った。

発表内容や発表以外のプログラムは以下の通り。

■ 22 日(水) バーゼル楽器博物館

◆ Panel 1 - Museums and the Contemporary I

- ・The Presentation of Electronic Musical Instruments in the Musikinstrumenten-Museum Berlin. Challenges, Concepts and Solutions in the Context of the Special Exhibition “Good Vibrations”
- ・Musical Instrument Collections in China - A Preliminary Survey

◆ Panel 2 - Museum and the Contemporary II

- ・The Solutions of the Music Museum of Iran to the Challenge of how to Collect, Present and Conserve the New Generation of Iranian Music
- ・The Beatles’ Gear and “Fast Fashion”. Collecting Inexpensive Guitars as a Symbol of Popular Culture in Modern Society
- ・From Next to Catastrophe to New Possibilities. The Fire at Ringve Music Museum in August 2015
- ・Lunchtime concert at Schola Cantorum Basiliensis “Baroque Music”

- Visiting to the special exhibition “Auf Takt! Metronome und musikalische Zeit” in the Museum

◆ Panel 3 – Wind Instruments

- Material in Music. Experiments with the Sound of Silver and Gold
- The Workshop of Angiolino Ferloni (1919- 2010), Maker and Repairer of Brass Instruments
- The Cornett of the Accademia Filarmonica di Bologna. Studies and Hypotheses for its Reconstruction
- Silver Collection - Historical Wind Instruments in a 21st Century Museum Collection

◆ Panel 4 – A Window into the 21st Century

- Music on the Disc Musical Box as Early Mass Media and Early Popular Music. On Collection Management and (Dis-)Play
- Framtids-Felemakeriet. The Norwegian Hardanger Fiddle-Making Tradition in the 21st Century

・How a Musical Instrument Museum should be in 21st-Century Society (嶋の発表)

発表要旨: Reevaluating & Telling the Great History about a Great Role of Japanese-made Reed Organ 150 Years Ago-Educational & Cultural Contributions to Making Modern Japan-と題して、西洋音楽と西洋楽器の導入、教育、生産、普及についての日本独特の歴史を紹介した。明治維新からの本格的西洋音楽教育は、今日の日本での西洋音楽の隆盛や西洋音楽演奏者のレベルの高さを生み出した。その中で浜松のヤマハ株式会社を創設し、廉価で上質な国産足踏みオルガンを製造し、日本全国の学校に普及させた山葉寅楠の社会的貢献は大きい。日本における西洋音楽と楽器の発展はこの楽器製造と不可分の関係にある。このことを浜松市楽器博物館が社会に発信することは、欧米の楽器博物館には無い、重要な使命である。

反応: YAMAHA の創設者が山葉寅楠であり、その最初の生産楽器が足踏み式リードオルガンであったこと、その普及は日本の明治維新での西洋文化の接種、新教育制度「学制」による西洋音楽の公教育化によるものであることを初めて知り、楽器博物館での「文化の紹介」について、好評を得た。

- Presentation of the reconstructed Arciorgano after Nicola Vicentino (and the research project “Studio31”) in the Predigerkirche

■ 23 日 (木) バーゼル・スコラカントルム

◆ Panel 5 – Keyboard Instruments

- The Bockisch Network, Or: How Many People it Takes to Bring Back to Life the Knowledge of One Ingenious Inventor
- From the Spirit of Place to the Spirit of Object and Back. Aspects and Viewpoints on a Working Collection of Historic Pianos
- A Toggenburg Organ in the American West. The 1786 Joseph Looser Hausorgel in the National Music Museum
- 125 years Hupfeld Piano Factory in Leipzig. What Shall we Do with so Much Different Material in the Whole Town?

◆ Panel 6 – Preservation and Presentation

- The Dilemma of Rendering Stringed Instruments Playable. A Discussion of Material Implications Based on Recent Interventions on Two 18th-Century Violins
- Harry Partch. The Importance of Conserving and Understanding his Instruments to Preserve his Music

- PM: Schloss Bad Krozingen へのエクスカーション Neumeyer-Junghanns-Tracey Collection of historical keyboards の見学。Catalina Vicens 氏による演奏解説。および Bad Säckingen Trumpet

Museum 見学。

■ 24 日（金） ベルン芸術大学

◆ Panel 7 – Information and its Preservation

- Keynote Speech: Information Preservation for Museum Instruments
- Conservation of Knowledge Beyond the Object – the Rück Example

◆ Panel 8 – Conservation and Materials

- Preventive and Interventive Conservation of The Met's Appleton Organ
- Rayhorn-O-Seven Guitar. A Case of Self-Degrading Plastic and Documentation Issues in Two Acts
- Composition Ornaments on Historic Harps. From Research to Exhibition

- Lunchtime Concert: Ernesto Molinari, CLEX, contrabass clarinet extended

・ CIMCIM 年次会議

前回のミラノにて役員改選等の重要事項の審議が終わっていることや、2017 年中国大会についてもまだ詳細が決まっておらず中国からの参加もなかったため、予算の審議と活動全般について話し合われたにとどまった。京都大会についても特に報告する材料もなく、議題にはならなかった。しかし、委員長とは個別に京都大会について話をした。内容については年次大会参加所見の項に記す。

◆ Panel 9 – To Play or Not to Play

- Angul Hammerich and the Bronze Lurs. Once Again: To Play or to Display
- To Play or Not to Play? BIAS Will Help!
- Fresh Wind – A Presentation of the Wind-Dynamic Organ I
- Fresh Wind – A Presentation of the WindDynamic Organ II
- Exhibition “C'est le vent qui fait la musique” の見学。

■ 25 日（土） ベルン芸術大学

◆ Panel 10 – To Play vs. to Display

- Keynote Old and New. Mediating Musical Experience
- Interior Corrosion in Brass Instruments
- Humidity in Regularly Played Brass Instruments. Possibilities and Limitations of Preventive Conservation

◆ Panel 11 – Preservation and Interpretation

- Aspects of Corrosion Prevention on Historical Brass Instruments
- Stravinsky's Sacre du Printemps from the Musicians' Point of View
- A View Into the Orchestra Pit at the Théâtre des Champs-Élysées, Paris, 29 May 1913

◆ Panel 12 – Analysis by Electrochemistry, XPS Surface Analysis, Endoscopy and Tomography

- Breathing New Life into Historical Instruments. How to Monitor Corrosion
- Concert of the Brass Department of Bern University of the Arts: Stravinsky's Sacre du printemps (excerpts) and other brass chamber music

以上、発表は、社会的見地からのものはほとんどなく、楽器学、音楽学、保存学等の学術的な研究発表がほとんどであった。

ICOM 京都大会の PR:

ミラノ以降新情報がないため、年次会合では特に行なわなかったが、個別に PR をした。

年次大会参加所見(特に ICOM 京都大会へ向けて)：

個別に京都大会への参加を勧めると、皆が口をそろえて参加したいと言われた。ただ、中国、日本とアジアが続くため、ヨーロッパからの旅費が 2 年続けて高額になるため、両方参加するのはつらいものがあるとも言われたが、どちらかひとつとなれば京都を選ぶという人が多かった。

委員長との話で問題になったのは、オフサイトミーティングをどうするかであった。浜松市楽器博物館はホストの用意があるし、ボードもメンバーも浜松を訪れたいと言われているが、課題は交通費と往復の時間である。これは今後プログラムの検討も含めて考えていく。また他の国際委員会とのジョイントセッションも取り入れたいとのことである。これまでの CIMCIM は欧米の西洋楽器の楽器学や音楽学の研究、展示が主流で、民族音楽学や非ヨーロッパ楽器、楽器と音楽が存在する文化、楽器博物館の社会的役割、などは話題にならなかった。しかし、若手のキュレーターは、文化や電気電子楽器、ポピュラー音楽等にも関心が深く、新しい楽器博物館像を意識している。このため京都大会は、楽器博物館のこれからの在り方について、ひとつのエポックになる可能性がある。今後ボードメンバーと協議を重ねていきたい。



24 日午後 年次会議



24 日発表（ミュンヘン・ドイツ博物館）



22 日発表（嶋）



ベルン芸術大学



23 日午後 エクスカーション



22 日夜 オルガン修復復興演奏

国際委員会名:

International Committee for Museums and Collections of Science and Technology
(科学技術の博物館・コレクション国際委員会)

参加者名:

若林 文高 (国立科学博物館 理工学研究部長)

前島 正裕 (国立科学博物館 理工学研究部科学技術史グループ長)

開催期日:

平成 29 年 12 月 5 日～8 日 (全日程参加)

実施場所:

モロッコ ラバト

Centre National pour la Recherche Scientifique et Technique (CNRST)

概要:

今年度年次大会テーマ

Technical Heritage & Cultural Identities (技術遺産と文化的アイデンティティ)

- ・第 45 回 CIMUSET 年次大会 (CIMUSE2017) がモロッコの首都ラバト市で 2017 年 12 月 5 日から 8 日まで開催され、日本からは当館の 2 名が参加した。
- ・大会参加者は 35 名で、初日は多かったが、徐々に減り、最終日 8 日は、10 数名であった。
- ・会期を通じてモロッコの意気込みが感じられた:
- ・CIMUSET2017 をモロッコに招致した動機として、博物館文化 (特に科学技術系) に薄いモロッコに博物館文化を根付かせることを意識しているように思われた。そのためのテーマ設定 (Technical Heritage & Cultural Identities) がなされ、文化的アイデンティティ形成における技術遺産の重要性を強調するものになっている。
- ・ホスト博物館は、モロッコで唯一の科学技術系博物館であるモロッコテレコム博物館で、同館の館長 (現・CIMUSET 議長) が大会委員長を務めた。同館は、モロッコの手通信会社であるモロッコテレコムが本社内に設立した通信関係の博物館である。
- ・会場は、ラバト市中央部から約 7km の研究所や最新設備を備えた国立の研究機関、病院、高等教育機関が立ち並ぶ地区にある最新の国立研究所 CNRST で行われた。
- ・開会の挨拶は、CNRST 研究所長 (Director) が行い、初日夕刻のウェルカムパーティーは、CNRST からさらに車で 20 分程度の郊外にあり広々とした敷地に立つモロッコ王立アカデミーで開催され、ウェルカムスピーチはモロッコの科学技術アカデミーの Permanent Secretary で前・科学研究担当大臣の M. Omar FASSI FEHRI 氏が行うなど、国をあげての歓迎ぶりがうかがえる。なお、同氏のウェルカムスピーチでは、博物館の重要性が指摘されモロッコでの博物館の発展を願っていることが強調されていた。

(6) CIMUSET

ICOM 京都大会の PR:

- ・パンフレット(英:100 部、仏:35 部、西:20 部)およびニュースレター(英:120 部)を配布した。
- ・プレゼンは、初日午前の部の最後に、ICOM 京都事務局提供のパワーポイントデータに CIMUSET 向け補足スライド 1 枚を加えて 10 分間行った。
- ・京都大会プロモーション映像を、初日午後のコーヒープレーク時間帯(30 分程度)に講演会場で上映した。コーヒープレークから戻ってきた参加者が熱心に眺め、時々感嘆の声を上げていた。



写真 1: 会場の CNRST



写真 2: 大会参加者記念撮影(初日)



写真 3: 講演会場



写真 4: 開会挨拶(CNRST 所長)

年次大会参加所見(特に ICOM 京都大会へ向けて):

(1) 日程概要

- 初日(12 月 5 日): 開会式、基調講演・一般講演、ウェルカムレセプション



写真 5: 一般講演



写真 6: ICOM 京都大会プレゼン

(6) CIMUSET

【午前】

- ・09:20 開始
- ・開会の辞: CIMUSET 議長 Ech cherki DAHMALI 氏 (モロッコテレコム博物館長: ホスト博物館)
- ・開会挨拶: CNRST 所長 Mohammed Khalfaoui 教授
- ・その後、基調講演 3 件 (モロッコ 2 件、デンマーク 1 件: 講演時間 20 分)、コーヒーブレイク 20 分、一般講演 2 件 (ドイツ、日本: 講演時間 15 分) が行われた。一般講演に引き続いて ICOM 京都大会の案内を ICOM 京都委員会が作成したプレゼンファイルにより行った。

【昼食】

- ・コーヒーブレイクの会場と同じ研究所内の一室に丸テーブルが設けられた。

【午後】

- ・コーヒーブレイクを挟んで、一般講演 6 件 (講演時間 15 分) が行われた。
- ・コーヒーブレイク後の一般講演 2 件と並行して別室で、Board Member 会議が開かれた (不参加)。この会議用資料として、事前に CIMUSET 議長に京都における CIMUSET オフサイトミーティング暫定案を記したペーパーを渡しておいた。

【夕刻】

- ・ウェルカムレセプション: モロッコ王国アカデミー
会場を移して、アカデミーでレセプションが行われた。
挨拶: M. Omar FASSI FEHRI 氏 (科学技術アカデミー Permanent Secretary)
氏は、前・モロッコ科学研究担当大臣で、モロッコの意気込みを感じられた。
アカデミー内のモロッコ調の豪華な装飾が施された一室で行われた。お茶とオードブル、モロッコ風のお菓子という内容だが、おごそかな室内で落ち着いた雰囲気で行われた。約 1 時間。

○ 2 日目 (12 月 6 日): 午前 講演、午後 エクスカーション

【午前】

- ・コーヒーブレイクを挟んで、9時から一般講演 8 件 (そのうち 1 件中止)。

【午後】

- ・初日と同様に研究所内で昼食後、バスでラバト市隣のサレ市に見学旅行: 陶芸工場

○ 3 日目 (12 月 7 日): 終日 エクスカーション

- ・午前 7 時集合 エクスカーション: バスで、約 150km 離れた世界遺産 Fes 市へ。
- ・武器博物館を見学後 (博物館職員の説明あり)、Fes のリヤド (旧市街) に移動し皮染色工場、旧市街見学。
- ・ホテルで昼食後、陶芸工場見学。いずれの見学場所もモロッコの特徴が良く出ている素晴らしいところ。前日のサレ市も同様で、自国の文化を誇りをもって見せていた。
- ・午後 6 時頃 ラバト市着。解散。

○ 最終日 (12 月 8 日): 午前 講演と総会、夕方 バンケット

- ・参加者は 10 数名となり、会議室に移動して実施。
- ・午前 9 時から一般講演 3 件
- ・コーヒーブレイク後、総会を開催
 - ・ミラノ大会報告
 - ・カナダ大会 (2018 年) 企画状況報告
テーマ案が 2 案示され、挙手により採択された。

CIMUSET 第 46 回大会 2018

期間 (案): 2018 年 10 月 15 日 (月) ~ 19 日 (金)

(6) CIMUSET

会議日: 4 日間

開催地: オタワ(カナダ)

テーマ(案): 「デジタル博物館」または「博物館、若者と STEM」

提案: カナダ航空宇宙博物館、ICOM カナダによる共同提案

<https://ingeniumcanada.org/aviation/index.php>

共催: IATM (International Association of Transport and Communication Museums)

国際運輸通信博物館協会

<http://www.iatm.museum/>

※多数のカナダの博物館及び関連施設が協力体制を組む模様。

※CIMUSET Board Member で、カナダ大会を仕切ることになっていた Alex Benay, 氏 (Canada Science and Technology Museums Corporation, Ottawa) は、カナダ政府の情報技術政策を担当する要職に就いたため博物館を離れた。

※説明は、カナダ航空宇宙博物館の Visitor Experience 部門 Director Ms. Audrey Vermette 氏。

-
- ・京都大会(2019 年) CIMUSET オフサイトミーティング暫定 3 案を説明
 - ・京都市内、名古屋地区、東京地区 の 3 案について説明した。
 - ・これまでの CIMUSET の運営方式に則り、具体的内容は、来年 2018 年のカナダ大会で討議して決めることになった。
(ただし、これでは遅いと思われるので、2018 年の早い時期に協議し、決める必要がある)
 - ・その他
 - ・総会后、一旦解散(昼食なし)。市内へ戻る人へは送迎バスサービス。

【午後】自由行動

【夕刻】

- ・市内から送迎バスでモロッコテレコム本社へ。
- ・モロッコテレコム博物館(ホスト博物館)見学: 館長(CIMUSET 議長)による説明。
- ・モロッコテレコム本社内のスペースを仕切った場所でパンケット
- ・市内まで送迎バス

(2) 会議を通じての印象

(ア) 京都大会への関心の高さ:

- 初日の午前的一般講演終了後に京都大会のプレゼンを行うとともに、午後のコーヒブレイク時に京都大会のプロモーション映像を講演会場で流した。
- プロモーション映像には感嘆の声も聞こえ、また、休憩時に関心のあることを話しかけられるなど、京都大会への関心の高さを感じた。
- 参加者の希望としては、日本の科学技術の伝統と最新を見聞できることに期待するということを良く聞いた。特に醸造などを含む伝統技術に関心が高く、日本的なものに期待していることを強く感じた。

(イ) テーマ設定、オフサイトミーティングの設定:

- 通常は、前年の年次大会の際に最終的に決めているようである。
 - ◇ 次のカナダ大会(2018 年)についても、今大会最終日の CIMUSET 総会(参加者十数名)で、企画準備状況の説明があり、テーマについては 2 案が示され、挙手によって決定した(詳細聞き逃した)。
- 帰国後、Ech cherki DAHMALI 氏(モロッコテレコム博物館、CIMUSET 議長)から京都大会企画について次のようなコメントをもらった。

(6) CIMUSET

- ◇ CIMUSET2019 in Kyoto については、議長及び Board Member は、科博を支援する用意がある。
- ◇ 発表・参加募集については、ICOM2019 の統一テーマである“Museums as Cultural Hubs, the future of tradition”に沿って、2019 年 5 月に行う予定。
- ◇ プログラム委員会、および基調講演者の選定については、科博とボードメンバーの協力で行うことが可能である。
- ◇ その後、もし可能であれば、科博側で、ローカスポンサーを探し始めてもよい。それは次の費用に用いる。
 - レセプションパーティー／CIMUSET ディナー
 - オフセットミーティング開催時の交通費など※モロッコも、モロッコ側が寄附を集めた。
- ◇ CIMUSET からは、3,500 ユーロ(約 47 万円:現レート)を支給する。
- ◇ 最終的な案は、来年カナダにおける CIMUSET2018 で決定する。

(3) サービス類

(ア) バス送迎サービス

- ① 会期中はマイクロバス 3 台で、市内箇所から会場へ送迎。
- ② 同じバスをエクスカーションにも使用

(イ) ランチ、コーヒーブレイク

- ① ランチ:初日・2 日目は会議で提供。3 日目はエクスカーションで提供。4 日目は、なし。
- ② コーヒーブレイク:初日 2 回、2 日目、4 日目午前の 1 回

(ウ) レセプション

- ① 初日: ウェルカムレセプション モロッコ王国アカデミー
- ② 最終日: バンケット モロッコテレコム本社ビル(博物館がある)

(4) 課題

(ア) 国をあげての実施

(イ) 日本として、また、京都での開催についてどのような特徴を出すか

(ウ) 予算の確保

- ① ウェルカムレセプション、会議中のコーヒーブレイク・ランチ
- ② CIMUSET オフサイトミーティング開催費用、CIMUSET 独自のディナー

※①については ICOM 京都大会本体で提供。②については CIMUSET は 3,500 ユーロ提供のみ。

(エ) 国内からの参加者数を確保する工夫

(オ) 連絡員の役割:どこまでするのか?

(カ) 今後のスケジュール

- ① 京都大会については、CIMUSET 理事会は 2018 年 10 月のカナダ大会で討議することを予定。

その他の写真



(6) CIMUSET



2日目:サレ・陶芸工場



2日目:サレ・陶芸工場



3日目:送迎用バス



3日目:武器博物館



フェズ市皮革染色工場



フェズ陶芸工場



最終日:会議



最終日:モロッコテレコム博物館見学

プログラム(若干の変更あり)

Day 1: Tuesday 5 December 2017 (CNRST- Morocco Academy)

- 09h00 Opening ceremony & official speeches
Keynotes:
10h00 Abdelmalek AZIZI, Mathematics Professor Mohammed I^{er} University, Oujda, Morocco
"Arabic Scientific and Technical Heritage"
10h20 Jytte THORNDAL, Curator and vice-Director, Danish Museum of Energy, Denmark
"The green changeover of industrial society towards sustainability & energy saving ways of living"
10h40 Mohammed ABATTOUY, Professor of History and Philosophy of Science, Mohammed V University, Rabat, Morocco: "Historical Clocks of Fes, vestiges of a forgotten Technical Heritage"
11h00: Coffee Break
11h45 Lüdtker HARTWIG, Director, Technoseum Mannheim, Germany
"The old steamship in Mannheim: a case study on how to manage exhibitions and events in order to safeguard the technical heritage?"
12h00 Fumitaka WAKABAYASHI, Director of Science and Engineering Department, National Museum of Nature and Science, Japan: "Brief history of the National Museum of Nature and Science in Japan and its role as a communicator of industrial and scientific heritage to the public"
12h15 Discussion
13h00 Lunch
14h00 Kai ZHONG, Software Engineer, Science and Technology Museum, China
"Cases about Taking Advantage of Modern Industrial Heritage and Science Museum Contributions to Rekindle It in China"
14h15 Mikko AHO, Museum curator, Rauma maritime museum, University of Turku, Finland
"That ship was built by us": constructing and presenting intangible and tangible industrial heritage"
13h30 Ewa WYKA, Curator, Jagiellonian University Museum, Poland
"Polish industrial heritage - its protection and interpretation"
13h45 Labuda JOZEF, Slovak Mining Museum, Slovakia
"The Slovak Mining Museum in Banská Štiavnica and its technical monuments included on the UNESCO World Heritage List"
14h15 Coffee Break
15h45 CIMUSET board meeting
15h45 STABRAWA-POWESKA Kinga, Adjunct in Art & Ethnography Department, Saltworks Museum, Cracow Poland: "Creating a cultural identity through the heritage of technology – an inseparable relationship on the example of Wieliczka"
16h00 Jie REN & Xiaojing FENG, Assistant researchers Science and Technology Museum, China
"The Advancement of Scientific Culture in Cultural Landscapes—A Study of the Pattern of Relating Scientific and Industrial Heritage with Science and Technology museums in China"
16h15 Discussion
18h00: Welcome reception in Academy of the Kingdom of Morocco
(Address: Académie du Royaume du Maroc, Km 3, Avenue Mohammed VI – Rabat)

Day 2: Wednesday 6 December 2017 (CNRST- Oulja)

- 09h00 Derek WILLIAMSON, Director of Museum of Human Disease, Australia
"Learning in a medical science collection: what and how and the evidence?"
09h15 Jacob Thorek ENSEN, Museum curator, Danish Museum of Science & Technology, Denmark: "Museums as People's Places: Making exhibition-processes based on inclusiveness and multivocality"
09h30 Dávid VITÉZY, General director, Hungarian Museum of Science Technology and Transport, Hungary: "The role of heritage in museum-branding"
09h45 Elina HOLOPAINEN, Head of Collections, Finnish Railway Museum, Finland
"Saving Today for Tomorrow - Documenting Hyvinkää Railway Workshop"
10h00 Coffee Break
10h30 Jorgen BURCHARDT, Researcher, National Museum of Science & Technology, Denmark:
"There must be money in the bank: Contemporary documentation for museums of technology"
10h45 Marušič IRENA & Cerar ESTERA, Technical Museum of Slovenia, Slovenia
"Knowledge without frontiers"
11h00 Juliette RAOUL DUVAL & Isabelle PROUX, Centre National des Arts & Métiers, France
"The French Museum of Arts & Metiers, a major player of scientific and technical culture"
11h15 Syed Aneel Ahmad GILANI, Associate Curator, National Museum of Natural History, Pakistan: "Indigenous Ethno-Medicinal Plant Diversity a source of bridge between the Indigenous culture and Technology in Cholistan Desert of Pakistan"
11h30 Discussion
12h00 Lunch
13h30 Visit of pottery workshops of Oulja, Salé



Day 3: Thursday 7 December 2017 (Excursion day- Fes City)

Fes city, a World Heritage Site

07h30: Bus in front of Rabat-Ville Train Station
11h30: Visiting *Fes Gungs Museum*
13h00: Lunch
14h30: Visiting *Old Leather Tanneries of Fes*
16h00: *Visit of old medina and a workshop of Zellige and plaster hand craft*
18h00: *Departure to Rabat City Center*



Day 4: Friday 8 December 2017 (CNRST- Maroc Telecom Museum)

09h00 Subova DANKA, Slovak Museum of Nature Protection and Speleology, Slovakia
“*New Forms and New Themes in Popularization of Scientific Knowledge Following Environment*”
09h15 Maciej KLUZA, Curator, Jagiellonian University Museum, Poland
“*Traveling exhibitions as a method of promotion of the scientific heritage*”
09h30 Jia SHUO, Engineer, Science and Technology Museum, China
“*Study on the Protection and Utilization of Technical Heritage in the Construction and Renovation of Dome Theater in Science Museum*”
19h45 Discussion
10h00 Coffee Break
10h30 General Assembly
Free Afternoon
18h30: Visit of *Maroc Telecom Museum, Maroc Telecom Tower*
(Address: Maroc Telecom, Avenue Annakhil, Hay Riad, Rabat)
CIMUSET Annual Diner



国際委員会名:

International Committee for Egyptology (エジプト学国際委員会)

参加者名:

田澤 恵子 (公益財団法人 古代オリエント博物館)

開催期日:

平成 29 年 9 月 5 日～8 日(全日程参加)

*9 月 9 日のエクスカースションは、業務上 10 日中に帰国する必要があったため不参加

実施場所:

アメリカ シカゴ

The Oriental Institute of the University of Chicago

概要:

今年度年次大会テーマ

The Role of Curators in Museum Research and Exhibits: Tradition, Change, and Looking to the Future

2017 年 CIPEG 年次大会は、米国シカゴ大学オリエント研究所プレステッドホールにて開催された。パラレルセッションは設定されなかった。参加者は、事前登録者 44 名に当日参加者数名を加え、全体で 50 名前後であった。年次大会各日のプログラムは以下の通り(詳細については、資料①参照)

【9 月 5 日】

午前: ① 受付及び参加費支払

② 参加者自己紹介及び所属ミュージアムの事業報告及び事業計画

→ このセッションにて京都大会の紹介と補足説明をおこなった(写真 5・6 参照)

午後: パネルディスカッション 「The Role of Curators in Museums and Research」

→ ガンドゥール財団 Bob Bianchi、フィールド博物館 William Parkinson、エジプト考古学博物館 Mohamed Gamal Radshid、ルーブル美術館 Vincent Rondot の四氏によるパネルディスカッション

Curator の本分は研究にあり、まずは研究が推奨されるべきであるとの議論に対し、それは、研究、教育普及、広報、展示等セクション分けが明確になされ、Curator が研究のみに没頭できる環境が整う大規模・高予算ミュージアムを背景にした議論であり、一人の Curator が全てをおこなわなければならない小規模・低予算ミュージアムのケースも念頭に入れた議論が必要とのコメントが寄せられた。

確かに、上記のパネリスト 4 名の所属機関は予算が潤沢、もしくは大規模組織のためにセクション割がしっかりなされ、Curator が個々の研究に時間と労力の大半以上を費やせる職場環境と思われ、一人の Curator が全ての責任を担い、実質的な作業はボランティアによって補われるような小規模・低予算のミュージアムとは事情が大きく異なっている。やはり本テーマは一概に語ることは難しく、またパネリストにはそのような小規模・低予算ミュージアムの Curator も含まれるべきであると思われた。

また、上記の議論に付随して、各国の Curator 資格取得事情、Curator 雇用事情、大学ミュージアム・公立ミュージアム・私立ミュージアムの各事情についても意見、報告が交わされ、大変有意義であった。

夜: 懇親会

【9月6日】

午前： 個人発表 テーマ「Curatorial Issues」

午後： 個人発表 テーマ「Curatorial Issues」(本報告者もこの午後セッションにて個人発表)

〃 「Egyptian Collections」

〃 「Egyptian Collections and Curators」

→ 午前・午後を跨いだ「Curatorial Issues」では、エジプト学及びエジプト資料にこだわらず、より広くミュージアム運営の視点からの報告がなされた。一方、残りの二つのテーマに関しては、各機関のエジプトコレクションをめぐる報告、またはその研究調査にまつわる報告がなされた。

夜： 総会

【9月7日】

午前： 個人発表 テーマ「Education and Outreach」

→主にワークショップに関する報告がなされた。予算や実際の運営ノウハウなどに関して質問が寄せられた。

昼食： CIPEG 幹部の Dr. G. Pieke 氏(委員長)及び Dr. T. Bagh 氏(事務局長)と京都大会に向けたランチミーティング(写真7参照) →打合せ内容については、後述の年次大会参加所見参照

午後： Field Museum 視察

夜： 在シカゴエジプト領事館主催 懇親会

【9月8日】

午前： 個人発表 テーマ「Egyptian Objects and Collections」

→エジプト資料研究の成果報告がなされた。

オリエント研究所公文書館及び図書館視察

午後： 総括及び閉会式

ICOM 京都大会の PR:

① パンフレット及びニュースレターの配布

② 初日(9/5)午前に 10 分程プレゼンテーション実施(京都大会プロモーションビデオ上映及び補足説明)

③ CIPEG 会員向けアンケート実施(以下の 3 件について、アンケート用紙の配布と記入依頼をおこなった)

- ・京都大会参加の意向確認
- ・エクスカージョンの希望地
- ・来日にむけての懸案事項

年次大会参加所見(特に ICOM 京都大会へ向けて):

本報告者は、2015 年のミュンヘン年次大会に続いて 2 度目の年次大会参加である。ミュンヘン年次大会以降、委員長及び事務局長とは度々メールなどで連絡を取っており、昨年 2016 年に別件で来日した事務局長とは東京で再会し、関東在住の日本人 CIPEG メンバーと共に都内のエジプトコレクションを数館案内した。また、東海・関西在住の CIPEG 会員と連携し、近畿エリアのエジプトコレクション鑑賞についても一部手配した。尚、CIPEG 会員の一部は本報告者の英国留学時代からの知己であり、個人的な交流の中で京都大会の話をすることも頻繁であった。

このような状況下で、京都大会のプレゼンテーション及びアンケート調査をおこなったところ、興味を示す会員は非常に多かった。大会参加の他に日本文化に直に触れる機会を求める声もあり、大会開催中の休憩や食事、全体エクスカージョンへの期待が高まっていると感じた。一部の会員は京都大会参加を断言し、CIPEG 会員に

(7)CIPEG

よるエクスカージョンの希望地などを明確に伝えてくれたものの、費用面で懸案事項を抱えている会員が殆どであり、助成金申請など何等かの手段を今後講じるという声が多数聞かれた。

幹部との打合せ結果は以下の通り。

① 京都大会(9月1日ー7日)全体会議中に開催する委員会毎の会議(9月2日ー4日)では、他委員会(候補:国際コレクティング委員会<COMCOL>)との共催セッションも含める。

② 5日目(9月5日)のオフサイトミーティングは MIHO MUSEUM (滋賀県甲賀市)へのエクスカージョンとする。

→CIPEG 会員たちの MIHO MUSEUM への興味は非常に高く、以前から度々 MIHO MUSEUM 鑑賞 希望を耳にしていた。事務局長は昨年実際訪問しており、2019 年に CIPEG が訪問することについて も積極的である。

③ プレポストコンファレンスは開催しないが、京都大会終了後に、全額自己負担のエクスカージョンとして東京、岡山のエジプトコレクション鑑賞ツアーを企画する。

④ ②③については、日本国内での実質的な手配を CIPEG 日本人会員がおこなう。



写真 1. 会場

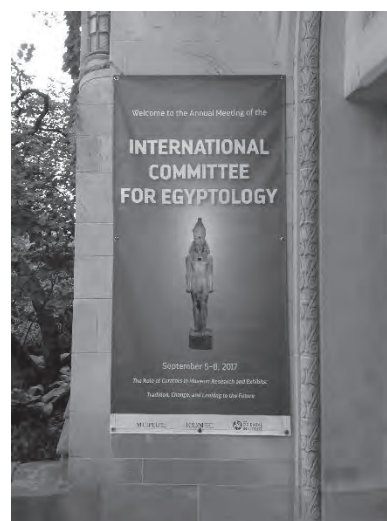


写真 2. 年次大会の案内



写真 3. 受付



写真 4. 会場の様子

(7)CIPEG



写真 5. ICOM 京都大会のプレゼンテーション



写真 6. ICOM 京都大会のプレゼンテーション



写真 7. CIPEG 幹部との打合せ(ランチミーティング)



写真 8. 参加者記念撮影

国際委員会名:

International Committee for Collecting
(コレクティング国際委員会)

参加者名:

堀内しきぶ(奈良国立博物館 学芸部)

開催期日:

平成 29 年 12 月 5 日～9 日(全日程参加)

実施場所:

スウェーデン ウメオ
Västerbottens Museum

概要:

今年度年次大会テーマ

Guardians of Contemporary Collecting & Collections –Working with (contested) Collections and Narratives

2018 年の COMCOL 年次大会は、DOSS (Contemporary Collecting Sweden), NORSAM (Nordic network for contemporary collecting and research at museums)、Västerbottens Museum の共催で行われた。

COMCOL の前身はスウェーデンの博物館約 80 館を結ぶネットワーキンググループの Samdok(2011 年に解散)であるが、今回の大会の共催者である DOSS はこの Samdok の活動を引き継ぐ団体である。また、COMCOL 委員長の Åsa Stenström 氏は今回の会場である Västerbottens Museum に勤務し、DOSS に関わる業務も担当している。

今回の大会は、現代を収集すること、歴史的なコレクションと現在をつなぐこと、コミュニティとコレクションをつなぐことに焦点を当て、博物館におけるコレクティングとコレクションに関わる実践についての議論、また下記のような疑問に答える議論が行われた。

遺産とは誰のものであるか？コレクションはどのように再考されるか？民主的なコレクションはどのように構築することができるか？博物館倫理にはどのような新しいアプローチが考えられるか？

メイン会場である Västerbottens Museum の講堂は 100 名ほどを収容する広さで、参加者はおよそ 60 名であった。

5 日間のスケジュールは以下の通りである。(プログラム:

http://network.icom.museum/fileadmin/user_upload/minisites/comcol/pdf/ny_171114_comcol_program_1_.pdf 平成 30 年 1 月 23 日閲覧)

①DOSS、COMCOL のボードメンバーミーティング・・・12/5 AM

②ペーパーセッション、・・・12/5 PM, 6, 7, 8(写真 1)

合計で 43 の発表者・グループからの発表があり、下記に示した 8 つのテーマごとに発表と質疑応答が行われた。

- ・持続可能性とコンテンポラリーコレクション(博物館間のネットワーキングを通じて)
- ・コンテンポラリーコレクティング
- ・方法論
- ・民主的なコレクティング

(8)COMCOL

- ・アイデンティフィケーションと共有された権利
- ・包括的なアートコレクション
- ・博物館、コレクション、コミュニティの関係
- ・記憶をつなぎ、収集する

③各種イベント

- ・Västerbottens Museum ガイドツアー、レセプション1(バス移動)・・・12/5 PM
- ・Västerbottens Museum ガイドツアー、レセプション 2(ホスト:ICOM スウェーデン)・・・12/6PM
- ・Bildmuseet(近隣の現代美術館)ガイドツアー(写真 2)、夕食会・・・12/7PM
- ・スウェーデン式クリスマスディナー・・・12/8PM

スウェーデンで毎年 12/13 に行われるルシア祭で歌われる歌の披露と共に、クリスマスディナーが振る舞われた。

④ICOM COMCOL 年次会合・・・12/8 PM

⑤ポストカンファレンス・・・12/9

- ・Västerbottens Museum オープンエアミュージアム ガイドツアー (写真 3)
- ・Västerbottens Museum クリスマスマーケット
- ・Women's History Museum 展示見学
- ・Guitars – the Museum 展示見学、ギター演奏鑑賞

ICOM 京都大会の PR:

パンフレット及びニュースレターの配布を行った(写真 4)。また、ペーパーセッションでは筆者の発表の際に ICOM 京都大会について触れた。ポストカンファレンスの前日にはお時間を頂き、京都大会プロモーション用ビデオを用いて、5 分程度のプレゼンテーションを行った。

年次大会参加所見(特に ICOM 京都大会へ向けて):

(1) 京都大会への参加について

上記に示した京都大会のPRを受けて、何人かの参加者からは京都大会に参加したいとお声がけいただいた。「参加するかどうか迷っていたが、プロモーションビデオを見て参加したくなった」という声もあった。

(2) 食事への配慮について

今回の年次会合では、夕食会・コーヒブレイク共に、ベジタリアン・ビーガン等へ食事の配慮がされていた。コーヒブレイクの際には、大会申し込みの際に記入した情報を元に、配慮が必要な参加者へ個人名が付された軽食が用意された。(写真 5)

(3) 現在決まっている予定

- ・2018 年 9 月 26 日～28 日

COMCOL2019

FIHRM (Federation of Human Rights Museums、国際人権博物館連盟)とのジョイントカンファレンス
於:カナダ・Winnipeg、The Human Rights Museum

- ・2018 年 9 月 30 日～10 月 1 日

舞鶴ミーティング

於:舞鶴引揚記念館、京都国際会館

※COMCOL2019 の直後であるため、COMCOL からの参加については調整中である旨、Åsa Stenström 委員長より連絡があった。

- ・2018 年 8 月 29 日～31 日

COMCOL2019 プレ・カンファレンス(於:奈良)

- ・2018 年 9 月 1 日～7 日

ICOM 京都大会

(8)COMCOL

(4) 京都大会のスケジュールについて

COMCOL2017 に参加していたボードメンバーにご参集いただき、京都大会のスケジュールについて確認したところ、以下のような希望があった。

日時		会場	予 想 参 加 人数	所要時間		
8/29(木) PM	ボードミーティング	奈良(未定)	10 名	3 時間	COMCOL プレ・カン ファレンス	
	基調講演 2名	奈良(未定)	40- 60 名	2 時間		
	ウェルカムレセプション	奈良(未定)	40- 60 名	?		
8/30(金)	奈良国立博物館見学、エクスカーショ ン(博物館、工芸の美術館、奈良周辺 の文化遺産、寺社仏閣、庭園、可能で あれば茶会に参加、コーヒブレイク)、 ワークショップ →31 日午後京都へ移動(バス)	奈良(未定)→京 都へ移動	40- 60 名	(30 日)		
8/31(土)				9 時間 (31 日) 8 時間		
9/1(日)	ICOM 大会	京都(国際会館)			ICOM 京 都大会	
9/2(月)	基調講演、ペーパーセッション、 ※うち1日をICOM CIPEG(エジプト学 国際委員会)と、もう1日を ICOM CIDOC(ドキュメンテーション国際委員 会)と共催予定 ワークショップ(4 日)、年次会合(4 日)	京都(国際会館)				
9/3(火)						
9/4(水)						
9/5(木)	オフサイトミーティング	※開催しない予 定				
9/6(金)	エクスカーション					
9/7(土)	年次総会	京都(国際会館)				

プレ・カンファレンスについては、ボードメンバーより下記のような希望があった。

・8/30(金)～8/31(土)はバス移動が望ましい

・可能であれば 8/29,30 は COMCOL メンバーが同じホテルに滞在することを希望する。難しければ、付近で推薦するホテルのリストがほしい

ボードメンバーには、奈良の案内冊子やフリーペーパーをまとめたもの数セットをお渡しした。ボードメンバーからの希望があれば調整するとともに、土地勘のないボードメンバーがプランを作成することは難しいと思われるため、いくつか可能なプランを連絡担当者から提案することが望ましいだろう。

意向調査によると、オフサイトミーティングは開催しない予定である。9 月 2 日～4 日の 3 日間については、うち1日を ICOM CIPEG(エジプト学国際委員会)と、もう1日を ICOM CIDOC(ドキュメンテーション国際委員会)と共催予定とのことであった。

上の表に示した参加予定人数については、2015 年に韓国で開かれた年次大会を参考にしたが、その後会員が増えていることから正確な人数は予測できないとのことだった。

(8)COMCOL



写真 1 メイン会場



写真 2 Bildmuseet ガイドツアー



写真 3 オープンエアミュージアム ガイドツアー



写真 4 京都大会資料



写真 5 コーヒーブレイク

(9)COSTUME

国際委員会名:

International Committee for Museums and Collections of Costume

(衣装の博物館・コレクション国際委員会)

参加者名:

本橋弥生 (国立新美術館主任研究員)

開催期日:

平成 29 年 6 月 26 日～29 日

実施場所:

イギリス ロンドン

London College of Fashion

概要:

今年度年次大会テーマ

The Narrative Power of Clothes(衣服のもつ物語の力について)

- ・参加者数は 88 人。(過去最多)前々回のトロント大会も多かったが 70 名程度の参加だった。
- ・当初開催地となっていたバンコクでの大会開催は王崩御のため、中止され、急遽、ロンドンで大会が開催された。
- ・ウェルカム・レセプションは個人経営の小さな美術館、ファン・ミュージアムで行われた。非常に小さな館のため、参加者全員が参加することはできなかった。
- ・「衣装の持つ物語」がテーマとなっていたため、誰もが参加しやすいテーマであったため、発表者も 46 人と多く、かつ聞いていても興味深い内容だった。
- ・世界の様々な地域における異なる時代の衣服についての発表で、参加者全員にとって刺激的な内容であった。主な発表は下記の通り。

➤ Alexander Palmer(ロイヤル・オンタリオ博物館)

“Telling Tales: Corrections and New Directions”

ファッションではないが、歴史を語る衣服がある。最近の収蔵作品を巡り、その所有者であったハンガリーから移住してきた男性の個人的な歴史を記録するプロジェクトについて紹介。

➤ Ildiko Simonovics(ハンガリー国立博物館)

“In Search of a Legend-life and Work of Klara Rotschild(1903-1976)”

2018 年に予定している展覧会テーマについて。Rotschild は第二次世界大戦後、共産主義時代にオートクチュールをハンガリーに導入した女性デザイナー。ハンガリー国外では知られていないが、ハンガリー服飾史において重要であった彼女が行ったことを検証する内容。

➤ Chryssa Kapartziani, Myrsini Pichou(アテネ大学)

“The Narrative Power of Dress during Trials: The Practitioners of Law at Work- A Greek Case Study”

ギリシャにおける弁護士の服装に関する社会学的な調査結果について。ギリシャでは、若い法律家はスーツを着ずにカジュアルな服装の人が多い。彼らの価値観を統計を取ることで説明した。

➤ Kirsten Toftegaard(デンマーク・デザイン・ミュージアム)

“Home Diligence Sweeps Across the Country”

第二次世界大戦後のデンマークにおけるファッションに関する考察。どのように服を作り、どのような色が好まれたのかなど。

➤ Ndam Ben Yossef

“Uzbekistan, Turkmenistan, Jewish Community”

Debora Davidoff (1887-)というタシュケント生まれの裕福な商人の妻の装いの歴史を辿りながら、同地の歴史や文化、価値観の変化を紹介。

➤ Angelika Riley (ハンブルク)

“Donation: Erika Holst (1917-1947)”

2008年に寄贈を受けた一市民の衣服を巡って、彼女の個人的な歴史を掘り下げながら歴史を探る研究。

- ・コーヒブレイクが午前中、午後と1回30分ずつ確保されていた。紅茶、コーヒー、ペイストリー、フルーツと内容も充実していて、疲れた頭を癒しつつ、参加者たちと交流する貴重な時間だった。
- ・スタジオヴィジットも、スクール・オヴ・ヒストリカル・ドレス、ヴィクトリア&アルバート・ミュージアム、ケンジントンパレスなど、ミラノ大会ほど多くはなかったが、充実していた。

ICOM 京都大会の PR:

パンフレット及びニュースレターの配布すると同時に、総会にて5分程度のプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションは京都大会プロモーション用ビデオの上映及び補足説明を行った。京都という都市への興味を持ってもらう良い機会となった。リクエストとして、現代と伝統をテーマにしたプログラムやバックヤードツアー、着物に関する知識を深めるプログラム、工房訪問、文化学園大学(東京)でのプログラム、個人コレクションの見学などが挙げた。

年次大会参加所見(特に ICOM 京都大会へ向けて):

(1)2019年京都大会開催にあたり、考慮すべきこと、期待すること

- ・3日間でのセッション開催では時間が足りないほど発表者が多い。場合によっては、発表審査を行うべきか?
- ・VISIT プログラムは人数が多いと受け入れ先との交渉が必要となる。ガイド・ツアーやバックヤード見学はたいてい人数制限をしなければならない。
- ・ついプログラムを詰め込んでしまいが、フリータイムも必要。今回、水曜日は15:30終了とした。
- ・現代のものに加え、伝統的な服飾産業や裏方の仕事を紹介するツアーをぜひ設けてほしい。

(2)理事会での京都大会への期待やアドバイス

- ・発表希望者の募集ははやめに。発表希望者が多い場合は、本格的な研究発表を20分、萌芽的研究発表は10分など時間に差をつけても良いのでは。通常の発表時間は今回と同様にこれまで15分としてきた。
- ・パワーポイントや発表原稿は早く事前に提出してもらえようであればそのようにした方が楽。
- ・構成としては、3-4セッション+ヴィジットを基本とし、それに加えてエクスカーション、ポスト・コンフェレンス・ツアーを企画してほしい。
- ・ヴィジットは一日当たり1から2か所が適当。KCIや服飾関係の工房、個人コレクター宅訪問、伝統的な着物産業の見学などがしたい。
- ・想定される参加者は40名程度。
- ・日本語が皆できない上、日本では英語が通じないため、参加者5人程度につき1人程度のボランティア(学生でよい)がついてもらえるとありがたい。
- ・テーマは総会と異なるものでよい。ただし、総会のテーマもCOSTUME 会員が発表しやすいテーマではあるため、この路線でも良い。今後、要検討。
- ・会議中、前日と後半というタイミングで2回、理事会の時間を設けること。また総会の時間も中日に設けること。

(3)ICOM COSTUME 総会

- ・新メンバー紹介
- ・2017年度年次大会について
- ・88人参加、46の発表。

協力者への謝辞: Alexandra Kim, Matteo Augello, ロンドン・ファッション・カレッジ、ファン(扇)ミュージアム、ケンジントン・パレス、ヴィクトリア&アルバート・ミュージアム、スクール・オヴ・ヒストリカル・ドレス

(9)COSTUME

・出版物について

2016 年度大会の Proceedings を 2017 年 1 月にオンラインに掲載。

ニューズレターも印刷はせず、オンラインで年に 2 回、発行予定。(コスト削減のため)

・新理事長候補の選出

⇒Alexandra Palmer (カナダ、ロイヤル・オンタリオ・ミュージアム)が他薦で選出された。2019 年の京都大会前後に現理事長と交代予定。

(4) 来年度の年次大会について(オランダ)

2018 年 6 月 10 日(日)レジストレーション

6 月 11 日(月)9:00-15:00 ペーパーセッション、夜はスタジオ・ヴィジット

6 月 12 日(火)9:00-14:00 ペーパーセッション、夕方、セントラル・ミュージアム訪問

6 月 13 日(水)9:00-14:00 ペーパーセッション、夕方、セントラル・ミュージアム訪問

6 月 14 日(木)ティルブルグ・テキスタイル・ミュージアム訪問(バス)

6 月 15 日(金)王立美術館、靴博物館訪問

オランダにあるコスチューム系の美術館、博物館が連携して開催する来年度の年次大会は、ほぼすべてのことが 1 年前の本大会で決まっているようだった。



写真 1. 会場遠景



写真 2. モーニング・コーヒーの様子



写真 3. 会場の様子

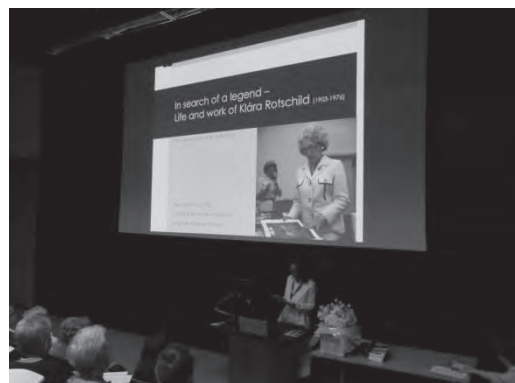


写真 4. ペーパーセッション

(9)COSTUME



写真 5. ケンジントンパレス訪問



写真 6. ケンジントンパレスでの収蔵庫見学



写真 7. ヴィクトリア&アルバート・ミュージアム訪問



写真 8. ヴィクトリア&アルバート・ミュージアムにて開催されていたバレンシアガ展担当キュレーターによるレクチャー

国際委員会名:

International Committee for Historic House Museums

(歴史的建築物の博物館国際委員会)

参加者名:

中谷 至宏 (元離宮二条城事務所／京都市美術館)

開催期日:

平成 29 年 10 月 13 日～18 日(18 日のエクスカーションのみ不参加)

International Committee for Education and Cultural Action(教育・文化活動国際委員会)と合同会議

実施場所:

イギリス ロンドン

Tower of London(ロンドン塔), Hampton Court Palace(ハンプトンコート宮殿)

概要:

今年度年次大会テーマ

Relevance 2017: Are we doing enough? Keeping heritage relevant in the 21st Century.

(関係性 2017: 文化遺産を維持していくため、21 世紀に如何に適切に関連付けることができるか?)

邸宅の歴史の背後にある奴隷制、遺産の修復に伴う破壊、遺産に蓄積する埃への着目など、遺産に関わるルールや慣習を取り払い、直面する現代社会の諸問題に如何に関連付けた経験を生み出せるかを問う、フランクリン・ヴァグノンの基調講演に始まり、「遺産は誰のものなのか?」「挑戦的な歴史」などを小テーマに、過去の負の歴史、現代の種々の差別問題等を踏まえつつ、現代の人々にとっての歴史的遺産の意味を問う多様な発表と議論がなされた。会期最後のテート美術館群館長マリア・バルショーの基調講演でも、ブレクジットによる国民の分断や性的マイノリティー問題にコミットした展覧会活動が紹介され、責任と覚悟を伴った博物館活動の実践が報告された。



ロンドン塔



ハンプトン・コート宮殿



フランクリン・ヴァグノン



マリア・バルショー

ICOM 京都大会の PR:

受付で ICOM 京都大会のパンフレット、ニュースレター、二条城のリーフレットなどを配架した。また 10 月 16 日 ハンプトン・コートでのセッションの一部として、京都大会についてのプレゼンテーションの機会を得、事務局 Jenny チョウ、CECA 理事 太田 歩、中谷の 3 名で PR を行った。

**年次大会参加所見(特に ICOM 京都大会へ向けて):**

配架したパンフレットは多くの参加者の関心を集め、また 2019 年には是非京都に行きたい、すでに渡航費の工面を始めているなど、多数の参加者から京都への期待の声を耳にした。今回は CECA との共同開催、また Historic Royal Palaces の全面協力によって実現されたことにより、ロンドン塔、ハンプトン・コート宮殿内にそれぞれのセッションに対応した快適な会場が用意され、ガラ・ディナーも宮殿内の華麗な会場で実現された。揃いのパーカーを着用した多数のヴォランティアの活動も何人かのチーフのリーダーシップのもとに良好な統制と、的確な連絡体制が取れており参考となった。また各セッションの議論をライブで描くイラストレーターが配置され、新鮮な議論の記録の手法が目をつけた。

会場間の移動は、バス移動に関しては円滑であったが、鉄道による移動は、列車運行の変更等への予測と準備が不全であり、混乱や遅滞が生じた。日本との状況の違いはあるものの、不測の事態に対する備えの重要性を感じた。

※当該委員会における ICOM 京都大会の反応や要望、大会に向けての進捗状況など、その他年次大会に参加して、得られた情報や感じたこと、今後の方向性などご記入ください。



The Great Hall でのガラ・ディナー



記録イラストレーター

国際委員会名:

International Committee for Museums and Collections of Glass

(ガラスの博物館・コレクション国際委員会)

参加者名:

土田 ルリ子 (サントリー美術館学芸副部長)

開催期日:

平成 29 年 10 月 16 日～20 日(全日程参加、ただし要移動のため、最終日の Farewell dinner には不参加)

実施場所:

フランス サール＝ポトリ ～ ベルギー リエージュ

概要:

今年度年次大会テーマ

New museums: documenting and reviving glass-making traditions

(新美術館(リニューアルも含む)について:ガラス製作の伝統の文書化と活性化)

2017 年の ICOM Glass 年次会は、Sars-Poteries にある MusVerre(ガラス美術館)を拠点(写真1)に、北フランスからベルギーのリエージュまでバス移動しながら開催された。MusVerre は伝統的なガラス作りの町に位置し、1967 年から工房の一部を美術館として開放し活動してきたが、2016 年 10 月に同市内に移転し、美しい現代建築として生まれ変わった。本年次会はこれを記念して、北フランスからベルギーのガラスの町を巡ることになり、開催された。参加者はおよそ 35 名。ほとんどがヨーロッパ圏内からの参加者で、その他は北米 2 名、ブラジル 4 名、イスラエルから 1 名、アジアからの参加は私のみだった。

5 日間の発表・見学はまさにガラス三昧、盛りだくさんで、詳細は資料1・プログラムをご参照いただきたい。レクチャーには、英語・フランス語の同時通訳が付いた。主要なパートは下記の通り。

① 10/16(月) Sars-Poteries (場所)

午前:Mus Verre にてオープニング。同美術館館長(写真2)、および ICOM Glass 総長からのご挨拶の後、レクチャー。各所属美術館の今や、現代ガラスアートの公共広場での役割などのご発表。

午後:同館企画展(現代ガラスの個人コレクション 写真3)のご案内・見学後、再びレクチャー。近年のヴェネチアのガラス企画展やベルギー・モミニーに新設された現代ガラス美術館の紹介などご報告いただいた。その後コレクション展のご案内・見学。

② 10/17(火) Sars-Poteries, Trélon

午前:Mus Verre にてレクチャー。

午後:Mus Verre にてレクチャー後、バスで移動。古くから香水瓶とシャンパン用の瓶を作っていた工房跡に作られたガラス美術館を訪問、見学。その後全体集会(写真4)にて、ICOM Glass の昨年度の活動・収支報告と、来年の年次会の予定、および ICOM 京都大会のプレゼンテーションをさせていただいた(内容、反応は次項をご参照ください。)

③ 10/18(水) Boussois, Chaliroi

午前:Boussois の AGC(旭硝子)工場訪問。高透過、低反射の板ガラスの製作工程をご案内・見学(写真5)。およびガラス記念館とガラス作家たちの手作りによる教会を訪問。

午後:Charleroi に移動。ガラス美術館で古代から現代までのガラスコレクションを見学後、同館工房内で製作中の作家の工房と、収蔵庫内のガラスコレクションを見学(写真6)。

④ 10/19(木) Lommel, Seraing, Embourg

午前: Lommel のグラスハウスの現代ガラスコレクションをご案内・見学。

午後: Seraing に移動、ベルギーのガラス会社 Val Saint Lambert 跡のガラス美術館と、工房でのガラス製作をご案内・見学(写真 8)。Embourg に移動し、Lothar Knauf 氏宅を訪問。膨大な個人コレクションである近世のヨーロッパガラスをご案内・見学(写真7)。

⑤ 10/20(金) Liege, Lille

午前:Liege の Cirtius Museum の古代から現代までのガラスコレクションをご案内・見学。

午後:Lille へ移動。

ICOM 京都大会の PR:

事務局からご提供いただいたパンフレット及びニュースレターの配布を行った。2 日目の全体集会の際、10分程度のプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションは京都大会プロモーション用ビデオの上映及び補足説明を行った。

年次大会参加所見(特に ICOM 京都大会へ向けて):

前年のミラノ大会に参加させていただいたこともあり、半数以上のメンバーと顔見知りであったため、非常に温かく迎えていただいた。京都大会のプレゼンテーションはほとんどのメンバーが来日したことがないこともあり、非常に興味も高かった。しかし一方で、高額な旅費が大きな問題でもあることも確かである。また、京都周辺でガラスコレクションが見られるのかの懸念の声も聞かれた。また、日本のガラス自体について、まだまだ海外の方には知られていないことも痛感した。ボードメンバーからは、京都大会、プレ大会に関して、下記の相談等をいただいた。

(1) 京都周辺のガラスコレクションについて

京都周辺で、どんなガラスが見られるのかの質問を受けた。これは、ICOM Glass にとって、非常に大きな問題である。その時に思いつくコレクションについて、以下のようにお伝えした。京都市内の主要美術館では京都近代美術館であろう。その他日帰りで見学に伺えそうなのは、MIHO MUSEUM、神戸市立博物館。北陸では石川県立美術館や金沢卯辰山工房や、富山ガラス美術館や研究所がある。東京ではサントリー美術館がある。これについてメンバーからは、2 泊 3 日の見学ツアーを開催してもらえないかなどのご意見も頂戴した。実際問題として、ICOM Glass の事務局側は、日本の事情、および日本でのガラスについての状況の情報があまりにも少なく、ツアーの企画が出来る状態にない。実働はこちらに負かされざるを得ない事態となっている。今後、相談、調整させていただければ幸いです。

(2) 京都大会の旅費・宿泊費をカバーする特別予算について

日本へは行きたいが、現実的に遠く、物価が高い。大会側から、特別予算などのサポートはないのかの質問をされた。(これについては再度確認してから連絡する旨お伝えし、帰国後メールにてそうした予算はないことを伝えた。)

(3) 次回年会とプレ大会について

2018 年の年次会が、以下の通り決まっているため、舞鶴でのプレ大会への参加は難しいとのこと(私も同様です。)

2018 年 9 月 24 日(月)~28 日(金) サンクトペテルスブルグ・エルミタージュ美術館を拠点にロシア訪問
なお、次回年会で、①日本のガラスについて②京都大会に参加した場合、どんなコレクションが見られるか、の 2 点についてレクチャーとプレゼンテーションを行うよう、求められた。

*プログラムの詳細は、別紙資料1-プログラムをご参照ください。

(11)GLASS



写真1. 拠点 MusVerre



写真2. 館長挨拶



写真3 MusVerreコレクション見



写真4. 全体集会



写真5. 旭硝子見学



写真6. 収蔵庫見学



写真7 個人コレクション見学



写真8 ヴァルサンランベール工場跡見学



ICOM GLASS MEETING 2017

**SARS-POTERIES
Northern France and Belgium**

**« New museums : documenting and reviving glass-making traditions »
Nouveaux musées : documenter et renouer avec les traditions verrières**

16-20 October 2017

Monday, October 16 : SARS-POTERIES

- 8.15 am ! departure by bus from Lille in front of Hotel Ibis Gares (Lille Flandres)
Départ de Lille en bus, en face de l'hôtel Ibis Gares
- 10.00-10.30 am arrival at Sars-Poteries / *arrivée à Sars-Poteries*
Registration and welcome / *inscription et bienvenue*
- 10.30-10.45 am introduction by / *introduction par* Aude Cordonnier, director /
directrice
Presentation of the MusVerre by / *présentation du MusVerre par* Anne
Vanlatum, directrice artistique
- 10.45-11.00 am opening remarks from ICOM Glass Chairman Reino Liefkes
Allocution liminaire par Reino Liefkes, président de Icom Glass
- 11.00 – 12.15 am lectures / *conférences*

11.00-11.20	Milan Hlaves	Czech Glass. What's up ?
11.20 – 11.40	Stéphane Palaude (Dr en Histoire, président AMAVERRÉ)	Le verre en grande Thiérache, le vif souvenir d'une industrie Presque passée
11.40 – 12.00	Regina Lara	Glass and light : transparency, translucity and opacity in contemporary art
12.00-12.15	Sally Fawkes,	artist in residence at the glass studio

- 12.15am -1.30 pm lunch at the MusVerre / *déjeuner au MusVerre*
- 1.30 – 2.15 pm visit of the temporary exhibition : *A Shared Passion , the Collection of Gigi and Marcel Burg./ visite de l'exposition temporaire : Une passion partagée, la collection Gigi et Marcel Burg*
- 2.15 – 3.35 pm lectures / *conférences*

2.15-2.35 pm	Manuela Divari	Le Stanze del Vetro
2.35 – 2.55 pm	Maria Luisa Martinez	Glass. why not ?
2.55-3.15 pm	Henrietta Eliezer Brunner	Issues of identity in contemporary Israeli Glass
3.15-3.35 pm	Janette Lefrancq	Momignies, du verre au rêve: retour sur 35 années de mystifications

- 4.00 - 4.15 pm coffee break / meeting with journalists // *pause café et rencontre avec les journalistes*
- 4.15 – 7.00 pm visit of the MusVerre permanent collection / *visite des collections permanentes du MusVerre*
visit of the Glass studio and meeting with the artist in residence : Sally Fawkes / *visite de l'atelier du verre et rencontre avec Sally Fawkes, artiste en résidence*
- 7.30 pm dinner at the / *diner au Château de la Motte* in Liessies
- 9.30 pm checking into the hotels / *arrivée aux hôtels*
Château de La Motte & La Forge in Liessies
Hôtel des Verriers in Trélon
Château de la Marlière in Fourmies

Tuesday, October 17 : SARS-POTERIES + TRÉLON

- 8.15 – 9.00 am transport from the hotels to Sars-Poteries by bus / *transport en bus à partir des hôtels vers Sars-Poteries*
8.30 am Fourmies
8.45 am Trélon
9.00 am Liessies
- 9.30 – 12.20 am lectures / *conférences*

9.40 – 10.00 am	Jozé Rataj	The Glass Way
10.00 – 10.20 am	Anne-Laure Carré	Georges Despret

		(1862-1952), l'aventure artistique d'un industriel verrier
10.20-10.40 am	Oxana Lopitana	Glass and stained glass coll. In the State Pushkin Museum of Fine Arts
10.40-11.00 am	Catherine Thomas	Une histoire, un musée, une collection
11.00-11.30 am	Coffee	
11.30-11.50 am	Eric Louet	Le musée du verre de Conches, sa création, ses collections, son devenir
11.50 – 12.00 am	Paloma Pastor	The royal Glass factory- Strategie plan
12.00-12.20 pm	Véronique Brumm	Le musée Lalique – 6 ans après

12.30 – 2 pm lunch at local restaurant / *déjeuner au restaurant Le Pavé de Sars*

2.00 – 3.30 pm lectures / *conférences*

14h10-14h30	Marcos Rizolli	The glass language : a curatorial question
14h30-14h50	Laurent Subra	Un musée vivant : Réactiver le patrimoine
14h50-15h10	Joana Silveira	Glass as an interface between art and the city : artistic interventions by Alex Flemming
15h10-15h30	Jan Mergl	

3.30 – 4.00 pm bus to Trélon / *départ en bus pour Trélon*

4.00 – 5.30 pm **TRÉLON** : visit of the museum / *visite du musée*

5.30 – 7.00 pm General Assembly / *assemblée générale de ICOM GLASS*

7.30 pm dinner in Trélon, offered by the *Ecomusée de l'Avesnois* / *dîner à Trélon offert par l'Ecomusée de l'Avesnois*

9.30 pm back to the hotels by bus to Liessies and Fourmies / *retour en bus vers les hôtels de Liessies et Fourmies.*

Wednesday, October 18 : BOUSSOIS + CHARLEROI

7.45 – 8.15 am	departure from the hotels by bus / <i>départ en bus à partir des hôtels</i> 7.45 am Fourmies 8.00 am trélon 8.15 am Liessies
9.00 – 11.00 am	visit of the glassfactory AGC Boussois / <i>visite du site verrier AGC à Boussois</i>
11.30 – 12.30	visit of “La Mémoire verrière” in Boussois / <i>visite de la Mémoire Verrière à Boussois</i>
12.30 – 1.30 pm	lunch in Boussois / <i>déjeuner à Boussois, offert par la Communauté d’agglomération Maubeuge Val de Sambre</i>
2.00 pm	Bus to Charleroi / <i>bus vers Charleroi</i>
3.00 – 6.00 pm	Glassmuseum in / <i>Musée du Verre : Le Bois du Cazier</i> (Marcinelle – Charleroi) Visit of the glass collections by Catherine Thomas, curator; focus on the artist Lionel Estève, visit of the glass studio and the storage / <i>visite des collections avec Catherine Thomas, conservatrice. Focus sur l’artiste Lionel Estève, visite de l’atelier et des réserves.</i>
6.00 – 8.30 pm	reception offered by / <i>réception offerte par Icom Belgium WB</i> walking dinner offered by the / <i>dîner ambulatoire offert par</i> Glassmuseum of Charleroi
8.30 pm	bus to Liège / <i>départ en bus vers Liège : Hotel Ibis Center</i>

Thursday, October 19 : LOMMEL + SERAING + EMBOURG

8.30 am	bus to Lommel / <i>départ du bus vers Lommel</i>
10.00 – 12.30am	visit of the Glazenhuis in Lommel, contemporary glass collections / <i>visite du Glazenhuis à Lommel : collections de verre contemporain</i>
12.30 – 1.30 pm	lunch in Lommel / <i>déjeuner à Lommel, offert par</i>
1.30 – 3.00 pm	bus to Seraing / <i>bus vers Seraing</i>
3.00 – 5.30 pm	visit of / <i>visite de</i> : Cristal Discovery - Val Saint Lambert
6.00 – 7.30 pm	welcome by Lothar Knauf and visit of his private collection in Embourg / <i>accueil par Lothar Knauf et visite de sa collection privée à Embourg.</i>

7.30 – 9.00 pm invitation to dinner by L. Knauf / *dîner offert par Lothar Knauf*

9.30 pm bus to Liège / *départ en bus vers Liège : Hotel Ibis Center*

Friday, October 20 : LIEGE + LILLE

10.00 – 12.30 am Curtius Museum (Liège) : visit of the glass collection / *visite de la collection verrière par Jean-Paul Philippart*

12.30 – 2.30 pm lunch by own / *déjeuner libre*

2.30 pm departure bus from Ibis Liège to Lille (Ibis Gares) / *départ en bus devant l'hôtel Ibis à Liège pour Lille (arrive Ibis Centre Gares)*

7.30 pm farewell dinner in Lille offered by the North Department / *dîner d'adieu à Lille, offert par le Département du Nord (Préfecture de Lille, Place de la République, face au Musée des Beaux-Arts)*

Overnight in Lille Ibis Gares / *nuitée à l'hôtel Ibis Lille Centre Gares*

国際委員会名:

International Committee for Architecture and Museum Techniques

(建築・博物館技術国際委員会)

参加者名:

大原 一興 (横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院)

開催期日:

平成 29 年 9 月 14 日～16 日 (全日程参加)

実施場所:

ベルギー フランダース地域

FARO - Vlaams steunpunt voor cultureel erfgoed 他

概要:

今年度年次大会テーマ

第 43 回 ICAMT 年次大会 特定テーマとして明示したものは無いが、企画の意図としては、ミュージアムの建設プロセス(既存建物との関連、ステイクホルダー間の調整、専門技術者の役割など)が委員会の関心事となっており、それに応じた事例の訪問などが中心となっている。

2017 年の ICAMT 大会は、現地の FARO(フランドル地方文化遺産交流センター)の協力で開催された。フランドル地方の最近の新しいミュージアムやプロジェクトを見学しそのプロセスなどについて考えるシンポジウムと、会場では研究発表を行った。参加者は 80 名ほどであった。ちなみに日本人は大原1名、東アジア圏内からは台湾から2名、多くはヨーロッパからの参加。

9 月 14 日 ① FARO :ベルギーICOM、主催者としての ICAMT から挨拶のあと、午前中のセッションとして研究発表が4題続いた。ミュージアムと劇場、美術館ギャラリーへの転用事例、アントワープでの scenography の事例、ブラジルにおける自然公園と一体的に構成されたミュージアム事例の紹介。それぞれのミュージアムでのプロジェクトの意図が強く見られる事例ばかりだった。この後に、2019 年京都大会の紹介をさせてもらった。
② ブリュッセル 王立中央アフリカ博物館: 午後にはバスで移動し、王立中央アフリカ博物館の工事現場を見学し、その後これまでの建設企画の関係者間のディスカッションで、共同作業によるプロジェクト遂行の難しさとその成し遂げる意義について確認された。

9 月 15 日 ③ ルーベン museum M : 駅に集合し、列車でルーベンに行き、博物館講堂において、初めに研究発表3題、ウェイファインディング、台湾の遺産の博物館化、光環境の発表。改修によるミュージアムの説明と見学をおえて、昼食後バスでメヘランに移動。 ④ メヘラン メヘランの家:

ーに続き、AVICOM 年次大会及び F@IMP 2.0 参加者に対しては、近隣の Buchlov 城へのエクスカーシオン

⑤ メヘラン ホロコースト博物館

9 月 16 日 ⑥ アントワープ MHKA:

⑦ アントワープ DIVA :

ICOM 京都大会の PR:

パンフレット及びニュースレターを配布した。年次大会初日の研究発表の枠内で、5～10 分程度の時間をいただいてプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションは京都大会プロモーション用ビデオの上映、及び建築などに関する補足説明を少し加えておこなった。ビデオについては、すでに他の IC で紹介されたときに見たとの話もあった。

年次大会参加所見(特に ICOM 京都大会へ向けて):

一般参加者が日本での開催に向けてもつ期待は大きく、何人もの人から日本に行きたいと話しかけられた。何人か直島など瀬戸内国際芸術祭に興味があるとの話だったが、これまでの会期中に行くとは非常に混んでいる上、京都からは離れているので、エクスカッション日として設定するのは難しいと答えた。まだ日程は決まっていないが、芸術祭会期中に見たい人はプレコンgres、終わってから常設の美術館などを見たい人はポストコンgresでツアーを設定するのが良いと思う。

初日の夕方から深夜にかけてホテルにおいて役員会が開かれたので、ICAMT としてのプログラムとしてその場での議論を紹介する。

(1)当面の予定

2017 年 10 月 14-18 日 シンシナティ ICMEMO とのジョイントによる年次大会、テーマは memory building で、ICAMT からは既存建物の転用改修などにより建物の記憶を継承していく方法について議論する

2018 年 1 月 28-30 日 リスボン 博物館建築技術に関するワークショップ (今年、リオデジャネイロで開催したものが好評だったので、リスボン大学など現地とのタイアップで開催する)

2018 年 9 月 6-8 日 ICAMT 年次大会 エスポーおよびヘルシンキ(フィンランド) フィンランドにおける建築と博物館をテーマに、新設のギャラリーの紹介などを含む

2018 年 9 月 ICOM 日本委員会主催舞鶴会議・京都会場視察 (HilgerssomICAMT 委員長が出席する)

(2)京都大会について

・スケジュール

一応、予定されている会場の日程はフルに活用した案を考える。発表を募り、15題くらいの個人発表を受け付けたい。3セッションくらいの時間は会場で、その他でオフサイトも歓迎する。

・京都大会の参加予定

ボードメンバーの多くは、なんとか参加したいという意志があり、おそらく5, 6名は参加すると思われる。各自渡航費を工面する努力をする。ヨーロッパ内での委員会からの旅費支援についても足りないという話題で、予算確保には苦労するが、この仕事はボランティアで「金のかかる趣味」だと半ばあきらめているという意見。

・学生による博物館設計コンペティション

今回、はじめての試みとして、学生の参加するデザインコンペをおこない、建築家や委員会メンバーなどの専門家からの批評をおこなう。募集の仕方、範囲や大会時の運営など、課題は多いが、とくに日本側の作業の負担は大きいことが不安ではあるが、皆の熱意におされて、今回試みることとなった。

・ジョイント企画

京都の町屋や伝統的建造物の博物館などをテーマにして、大原から CAMOC, DEMHIST とのジョイントを提案した。また、ICOM-CC からも博物館の収蔵環境をテーマにジョイントの誘いがあるかもしれないとの話があり、積極的にジョイント企画を立てていく。他の IC と情報をとりながら検討したい。

・オフサイトの見学候補

瀬戸内海の島を候補としたいとの意見があったが、移動に時間がかかること、瀬戸内国際芸術祭の期間中だと混雑して見たいように見られないなどの問題があり、企画としては難しいことを大原から説明した。委員会としては、既存建築のリニューアルや新築の場合でも、専門家間のコラボレーションなど、建設プロセスに関心があり、事例としては、ちょうどそのようなプロジェクトが終わる時期のものと良い。適した事例について、大原が探すこととした。



写真 1. 会場遠景



写真 2. 2019 京都大会の案内



写真 3. 国立アフリカ博物館新館(工事中)



写真 4. 本館展示室の整備の様子



写真 5. Hof von Mechelan 中庭(この地下が展示室)



写真 6. Kazerne Dossin 外観



写真 7. museumM の正面入り口の外観



写真 8. MHKA のエントランスの「ライブラリ」空間

(12) ICAMT

資料 1. プログラム(当日変更あり)

DAY 1, Thursday 14/09		BRUSSEL and REGION		
FARO	09:00 – 09:30	Registration and welcome		
	09:30 – 09:40	Opening Words	Olga van Oost, FARO Jean Hilgersom, ICAMT, president Sergio Servellón, ICOM-Belgium, president	
	09:40 – 10:00	Introduction: Museum Architecture more than building Blocks	Olga van Oost, FARO Monique Verelst, FARO	
	10:00 – 10:45	Keynote: Exhibitions: Place, Collections and Content meet the Public. From routing to details.	Terenja van Dijk, film- and exhibition designer She has a vast experience as a curator and scenographical designer of exhibitions and in the direction and production of documentary films)	
	10:45 – 11:00	Coffee & Tea break		
	11:00 – 12:00	Paper Presentations - Chris van Goethem - What If Your Museum Was My Theatre? - Nana Meparishvili - From the "Temple of Glory" to the National Gallery - Caroline Voet - Between Lecturn and Landscape. A new scenography for Museum Plantin Moretus in Antwerp		
	12:00 – 13:00	Lunchbreak		
	13:00 – 14:00	Bus from FARO to Tervuren, with a tour Brussels		
Royal Museum for Central Africa	14:00 – 14:15	Orientation Coffee and Tea	Architect: SBA Stéphane Beel Architects Scenography: Niek Kortekaas	
	14:15 – 14:30	Welcome & Introduction	Guido Gryseels, museum director Dirk Verbist, head of buildings and security Nele Breynaert, building owner and authority	
	14:30 – 15:15	Architecture & Team, discussion	Stéphane Beel, Stéphane Beel Architects	

DAY 2, Friday 15/09		LEUVEN en MECHELEN		
	08:00	Train: from Brussels to Leuven	tickets are available in advance	
Museum M	09:00 – 09:30	Registration and welcome		
	09:30 – 10:15	Introduction Museum M		
	10:15 – 11:00	Paper Presentations - Luciana Mattiello - The Wayfinding Design Perspective. Understanding Experience in Museums - Mei-Fang Kuo - Exploring the Value and Significance behind the Musealizing of Architectural Heritage - Jean Hilgersom - Strategic Plan Sustainability Inhotim, Brazil		
	11:00 – 12:00	visit the museum	New exhibition of the permanent collection	
	12:00 – 12:45	Lunchbreak		
	12:45 – 13:45	Bus from Leuven to Mechelen		
Hof van Busleyden	13:45 – 14:30	Museum Presentation	Sigrid Bosmans (artistiek directeur) Bart Stroobants (conservator infrastructuur)	
	14:30 – 15:30	guided tour with hard hat	David Driesen, dmva architecten Hans Le Compte, HLC.r architecten Christophe Gaeta, scenario Didier Geirnaert, scenario	
	15:30 – 15:45	Walking tour in the city of Mechelen		
Dossin Kazerne	15:45 – 16:00	Coffee & Tea break		
	16:00 – 16:45	Museum Presentation	Christophe Busch, Museum director bOb van Reeth AWG Architecten	
	16:45 – 17:45	guided tour in the museum		

DAY 3, Saturday 16/09		ANTWERPEN		
	09:00 – 10:00	Bus from FARO to Antwerp		
M HKA	10:00 – 10:15	Registration and welcome		
	10:15 – 10:30	Coffee & Tea Break		
	10:30 – 11:15	Museum Presentation Latest Renovation and Future Plans	Bart De Baere, algemeen & artistiek directeur	
	11:15 – 12:15	Paper Presentations - Lian The - Fire Safety: Implementing hi-fog in historical museum buildings - Steven Rosen - What Color is White Light? - Shirin Melikova - When tradition meets modernity		
	12:15 – 12:45	Museum Visit		
	12:45 – 13:30	Lunchbreak in M HKA KAFE		with the famous Keith Haring mural and the panoramic harbor view from the roof terraces
	13:30 – 14:00	Walking tour in the city of Antwerp	to DIVA, Antwerp Design: architecture: WitArchitecten/8Office and interior: Gert Voorjans/Carla Janssens Höfelt, storytelling: Frank Van Laecke and the museumteam	
DIVA, Home of Diamonds	14:00 – 14:45	Welcome and Introduction and future plans	Museum Director Jeroen Martens Wit Architecten / 8office	
	14:45 – 15:00	Coffee & Tea Break		
	15:00 – 16:00	Guided museum tour, partly hard hat	Explanation by the museum staff and architects	

国際委員会名:

International Committee for Museums and Collections of Decorative Arts and Design
(装飾美術・デザインの博物館・コレクション国際委員会)

参加者名:

マリサ・リンネ (京都国立博物館)

開催期日:

年次会議: 平成 29 年 11 月 29 日～12 月 1 日
ポストカンファレンスツアー 平成 29 年 12 月 2 日 (全日程参加)

実施場所:

米国フロリダ州マイアミビーチ市
The Wolfsonian-FIU (フロリダ国際大学 ウォルフソニアン美術館)

概要:

今年度年次大会テーマ
Art Deco in Decorative Arts and Design (工芸とデザインにおけるアール・デコ)

ICOM-ICDAD(工芸とデザイン美術館・コレクション国際委員会)の 2017 年年次大会が「工芸とデザインにおけるアール・デコ」というテーマで、平成 29 年 11 月 29 日～12 月 1 日フロリダ州マイアミビーチのウォルフソニアン-FIU にて開催されました。14 カ国から 34 名のメンバーが参加した 3 日間の会議では、毎日、各国のアール・デコに関する発表の後、マイアミビーチと周辺地域の他の美術館、個人コレクション、ギャラリー、歴史的な名所への視察がありました。

北米で17年ぶりの開催された今回の大会の特徴は、初めての参加者や久しぶりの参加者および若手研究者や北米在住の参加者が多数であったことや、各々の発表の関連性が深く、学問的なレベルが高かったことといえるでしょう。専門外の学芸員にとって発表しにくいアール・デコという比較的限られたテーマであった一方、学院生を含めてそのテーマの研究者が多く参加した結果となりました。参加者の間に大好評でした。

12月1日の総会では、ケルニグズマルコバ会長が、ICDAD 2018 年次大会を、アゼルバイジャンのバクー市にあるアゼルバイジャン絨毯博物館で開催する提案を発表した。

大部分の参加者は、会議後の 12 月 2 日にポストカンファレンスツアーに参加し、20 世紀初頭にウェストパームビーチ市でヘンリー・フラグラ(1830-1913)が建設したホテルや豪邸、その他の美術館・博物館を視察しました。

ICOM 京都大会の PR:

12月1日の総会では、筆者が 2019 年 ICOM 京都大会やそこで行われる ICDAD 年次会議の開催について発表しました。合わせて 2019 年京都大会に関するパンフレットおよびニュースレターを配布し、また京都グッズを配布しました。多くの参加者に、「今から京都大会に参加できるように予定を立てておきます」という反応をいただきました。

年次大会参加所見(特に ICOM 京都大会へ向けて):

ボードミーティングなどでは、2017 年の年次会議企画を担当したボードメンバーと実施美術館の担当者との間にはどのように情報交換や予算等について理解すべきなど、企画する難点が話題としてあがりました。スケジュール、注意事項など、ICDAD 年次会議を企画するためのマニュアルを作成すべきという意見がありました。来年の京都大会に向けて、研究発表や視察先の選択や手配とともに、ロジスティクス(食事場所・メニュー・予算、移動方法、支払いや立て替え方法など)についてもなるべく早く段階で、現実的に考える必要があるように感じました。



(左上) 年次会会議を実施したフロリダ国際大学
ウォルフソニアン美術館 (マイアミビーチ市)

(左下) ヴィラ・ビスカヤでの集合写真

(右上) 研究発表の様子

(右中上) ヴィラ・ビスカヤ学芸員による案内

(右中下) 2019 年 ICOM 京都大会に関する発表

(右下) ポストカンファレンスツアーで、ウェストパームビーチ
市のフラグラール美術館視察



ICDAD ANNUAL MEETING MIAMI 2017

November 29–December 1

Art Deco in Decorative Arts and Design

The Wolfsonian–FIU

Post Conference Tour December 2

PROGRAM

Wednesday November 29

- 8.30 Registration at The Wolfsonian, 1001 Washington Avenue, Miami Beach
Light breakfast provided
- 9.00 Opening Remarks - Presentation ICDAD
Board President Helena Koenigsmarková and The Wolfsonian Director Tim Rodgers
- 9.20 Keynote conversation with Micky Wolfson
Session 1: **National Expression**
Chair: Helena Koenigsmarková
- 10.00 *Interiors and Styles 1911 to 1925: "Bizzarrer Stil" and decorative tendencies in Germany*, Hans Ottomeyer
- 10.20 *Defining Austrian Art Deco. Josef Hoffmann, Adolf Loos, the Wiener Werkstätte and the Vienna School of Applied Arts at the Austrian Pavilion of the Exposition Internationale des Arts Décoratifs et Industriels Modernes in Paris 1925*, Rainald Franz
- 10.40 *Swiss Art Deco: French influences, vernacular, or both?*, Barbara von Orelli-Messerli
- 11.10 Coffee break
Session 2: **International Art Fairs**
Chair: Annie Carlan
- 11.40 *Czechoslovakian Participation at the Paris 1925 Exposition Internationale des Arts*

- Décoratifs et Industriels Modernes*, Helena Koenigsmarková
- 12.00 *The Polish Pavilion at the 1925 Exposition Internationale des Arts Décoratifs et Industriels Modernes: In Search of a National Style*, Katarzyna Nowakowska-Sito
- 12.20 *Art Deco in Barcelona*, Mariangels Fondevila
- 1.00 Lunch: pizza at Italymania, 1130 Collins Ave, Miami Beach
- 2.00 Visit of the Wolfsonian permanent collection, library and Julius Klinger exhibition:
<http://www.wolfsonian.org/explore/exhibitions/julius-klinger-posters-modern-age>
- 3.15 Visit to contemporary design and art collector in Miami Beach
- 4.30 Visit to design collector and Morris Lapidus house in Miami Beach (2 groups of 15 people pre-registration required)
- 5.30 Visit and cocktail at contemporary design and art collector in Miami Beach
- 8.00 Dinner and visit to Faena District, 3201 Collins Avenue, Miami Beach
<http://www.faena.com/miami-beach/>

Thursday November 30

- 8.30 Light breakfast at The Wolfsonian
Session 3: **Globalism**
Chair: Silvia Barisione
- 9.00 *Exhibiting the Amsterdam School: Evocation or Suppression?*, Ingeborg de Roode
- 9.15 *Art Deco Design between the Netherlands and Belgium: the Case of the Kuijken Family, 1918-1940*, Marjan Groot
- 9.30 *An Architect's Graphic Design Skills: Studying Two Poster Designs by H.P. Berlage*, Eliane Odding
- 9.45 *Art Deco Design at Sea at the Peabody Essex Museum*, Sarah Chasse
- 10.00 Coffee Break

- Session 4: **Three Young Curators. Three New Scholarships**
Chair: Annamarie Sandeck
- 10.20 *Beauty, Grandeur, Magnificence: Dom Martin (1889-1965) and the Art Deco Face of 1920s-1930s Liturgy*, Ko Goubert
- 10.35 *Art Deco and Folk Baroque: Reviving the „Wiener Moderne“*, Michelle Jackson
- 10.50 *Art Deco Trade Literature: Mining the Collection of the National Museum of American History Library*, Tracee Haupt
- 11.30 Departure for Vizcaya

(13)ICDAD

- | | |
|--|---|
| <p>12.00 Lunch and Vizcaya Museum and Gardens tour http://vizcaya.org/ (lunch at Vizcaya cafe)</p> <p>2.30 Lowe Art Museum visit (decorative arts collection, Michele Oka Doner exhibition: <i>Into the Mysterium</i>), University of Miami, 1301 Stanford Drive, Coral Gables</p> | <p>4.00 Drive through the planned community of Coral Gables originally settled by developer George Merrick in the 1920s, the Venetian Pool, and Biltmore Hotel by Schulze and Weaver</p> <p>6.00 ICA (Institute of Contemporary Art) Grand Opening https://www.icamiami.org/
Dinner on your own (Design District)</p> |
|--|---|

Friday December 1

- | | |
|--|--|
| <p>8.00 ICDAD Business Meeting</p> <p>8.30 Light breakfast at The Wolfsonian
Session 5: Art Deco in North America
Chair:</p> <p>9.00 <i>Quebec's Art Deco: Localizing a Global Aesthetic</i>, Alan Elder</p> <p>9.20 <i>A Hungarian in America: Geza Maroti Rintel</i>, Zsuzsanna Lovay</p> <p>9.40 <i>Ladislav Sutnar and Czech Art Deco</i>, Emily Pazar</p> <p>10.00 <i>Chicago's Art Deco Penny Scales</i>, Ruth Meyer</p> <p>10.20 Coffee Break
Session 6: Case Studies in German Craft and Design
Chair: Kai Lobjakas</p> <p>10.40 <i>Ignatz Wiemeler – A German Bookbinder in the 1920s and 1930s</i>, Rosita Nenno</p> <p>11.00 <i>Art Deco – the Hofschlosserei (court locksmith) Frohnsbeck from Munich: Ornamental Design of the Time on a Cassette in the Schell collection</i>, Martina Pall</p> <p>Coffee Break
Session 7: Calcio and Cultural identity
Chair: Rosita Nenno</p> | <p>11.30 <i>The Calcio Decade. On the Propaganda of Victorious Azzurri in Fine and Decorative Arts in 1930s Italy</i>, Przemyslaw Strozek</p> <p>11.50 <i>Srimanta Sankardev Kalakshetra: The Cultural Hub Attempts to Preserve and Promote the Exclusive Traditional Decorative Arts and Ethnic Artifacts of Diverse Ethnic Groups of Assam</i>, Deepanwita Mazumdar</p> <p>12.00 General Assembly
Melissa Rinne–Presentation on ICOM 2019 Kyoto General Conference; Helena Koenigsmarková –Presentation on ICOM-ICDAD 2018 Annual Meeting at the Azerbaijan Carpet Museum in Baku, Azerbaijan</p> <p>12.45 Finals remarks</p> <p>1.00 Lunch at The Wolfsonian</p> <p>2.30 Departure for afternoon tours</p> <p>3.00 Guided tour of the Olympia Theater by John Eberson, 1925, Downtown Miami</p> <p>4.15 Visit to Opa Locka, small city developed in 1925 by the pioneer aviator Glenn Curtiss based on a One Thousand and One Nights theme</p> <p>5.30 Wiener Museum of Decorative Art, Dania Beach http://wmoda.com/ and cocktail</p> <p>8.00 Farewell dinner in Miami</p> |
|--|--|

Saturday December 2

Post Conference tour to West Palm Beach (pre-registration required)

- | | |
|--|---|
| <p>8.30 Departure from The Wolfsonian, transportation provided</p> <p>10.00 Flagler Museum
https://www.flaglermuseum.us/ and the</p> | <p>Breakers Hotel by architects Schultze and Weaver (the group will split in two and will switch)</p> <p>1.00 Lunch at the Flagler Museum</p> <p>3.00 Visit to a private museum</p> <p>7.30 Dinner in Miami</p> |
|--|---|

国際委員会名:

International Committee for Museums and Collections of Fine Arts

(美術の博物館・コレクション国際委員会)

参加者名:

青木 加苗(和歌山県立近代美術館 学芸員)

開催期日:

平成 29 年 9 月 17 日～20 日(全日程参加)

実施場所:

デンマーク コペンハーゲン

Hirschsprung Collection

Statens Museum for Kunst

概要:

今年度年次大会テーマ

Changing rooms?! Permanent displays and their storage

2017 年の ICFA 大会は、ボードメンバーのひとりが所属する Hirschsprung Collection を前半の会場に、近隣の Statens Museum for Kunst を後半の会場として開催された。参加者は 40 名程度、開催直前にタイの The Bureau of Grand National Treasure から団体での申し込みがあったということで、9 名のタイ人が参加していた。アジアからはこれらのタイ人以外には、筆者ともうひとりフィリピンからの発表者がいただけであった。

① 基調講演 ...9/17 午後

オランダロッテルダムのボイマンス・ファン・ベーニンゲン美術館館長 Sjarel Ex 氏による基調講演。同館は、来館者が自由に見学できる新収蔵庫を建設中であり、そのプランについての紹介があった。今回のテーマであるコレクションの展示と収蔵の問題について、最も先端的な事例が基調講演として発表された。

② ICFA 年次大会発表 ...9/18～9/19(終日)

Displays in historical contexts、Displays and storages in Asian museums、From storage to display Challenges of displays、Audience, display, storage の4つのセッションに分けて、二日間にわたり 11 人の発表があった。筆者も、Would Permanent Displays Take Root in Japan? From the Historical Background of Japanese Museums to a Case Study of Contemporary Collection Usage と題して発表したが、日本特有の状況について高い関心が寄せられた。ボードメンバーの発表は1名のみ、コペンハーゲンの発表者が3名いたが、できるだけ広い範囲から発表者を募ろうとする意識が見受けられた。質疑の議論も活発に行われた大会であった。

③ Hirschsprung Collection 展示見学 ...9/18 午後

会場となった Hirschsprung Collection の企画展示を、所属するボードメンバーの解説によって見学した。

④ 総会 ...9/19 午後

会計報告に加えて、ICFA 活性化に向けての方策についてさまざまな議論が行われた。現在 ICFA は、登録者数としては最大規模でありながら、大会参加者数の減少に悩んでいる。連絡方法の見直し、大会日決定の前倒し、ワーキンググループの設立などを検討した。大会テーマ、日程決定、アナウンスの時期によって、参加できるかどうか大きく影響するため、2018 年の年次大会と 2019 年の京都大会のテーマについて、同時進行で検討されることが説明された。

また、アジアからの参加者をどうやって増やせば良いかという問題について、筆者から具体的な提案を行った。

現在、ウェブサイトにも記載されているように、対象とする美術の範囲が 1900 年以前とされている。これについて、日本ほかアジアの美術館ではほとんど当てはまらないことを問題とし、削除の検討を願った。実際、ボードメンバーたちもこの記載について認識しておらず、意図するところではなかったため、削除する方向で進めることとなった。日本委員会にも、広く美術館を対象としてメンバーを募ってほしいとのことであった。

あわせて京都大会のPRを行った(後述)。

⑤ 美術館見学、エクスカーション ...9/20

発表者が所属する館を中心に、コペンハーゲン市内美術館のガイドツアーが行われた。Thorvaldsens Museum および Statens Museum for Kunst。自由参加として Louisiana Museum へのエクスカーションが設定された。

ICOM 京都大会の PR:

パンフレット及びニュースレターの配布を行った。総会内で発表時間を与えられ、10 分程度のプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションは京都大会プロモーション用ビデオの上映及びスライドによる補足説明を行った。概して関心は高く、イメージがつかめたと好評であった。

年次大会参加所見(特に ICOM 京都大会へ向けて):

大所帯であるはずの ICFA だが、実際は大会参加者の減少に悩んでいる。今回も 40 名程度の小規模な開催となった。ほとんどの参加者はヨーロッパからで、アジアからのメンバーを増やしたいと強く考えている。そのため、日本での大会開催には高い期待が寄せられた。

総会の欄で前述したが、日本委員会から手渡される委員会説明の用紙やウェブサイトに記載されている ICFA についての説明は、適当ではないことが明らかとなった。具体的には、「古典の大家及び19世紀の油絵等を所蔵する博物館・美術館に働く専門職員によって構成されています」という記述についてで、単純に「美術の博物館に働く専門職員によって構成されています」と変更することが必要であり、日本委員会に対応を願いたい。これによって、ICFA 登録者が確実に増えるはずである。

さまざまな参加者へ京都大会についての関心を尋ねたが、やはり旅費の問題については個人の参加者が口を揃えていた。

2018 年の大会についても、他委員会と合同でスペインでの開催を検討してはいるが、まだ不透明な状況である。



写真 1. Hirschsprung Collection



写真 2. 会場の様子



写真 3. 筆者発表の様子



写真 4. Hirschsprung Collection 見学



写真 5. 夕食会の様子



写真 6. 第 2 会場 Statens Museum for Kunst



写真 7. 発表の様子



写真 8. 総会



写真 9. 京都大会 PR



写真 10. エクスカーションにて美術館見学



Copenhagen, 17 – 20 september 2017

Hirschsprung Collection

Preliminary programme of the meeting

Sunday 17 september	Hirschsprung Collection
16:45	Registration
17:30	Keynote lecture by Sjarel Ex Director of Museum Boijmans Van Beuningen in Rotterdam, Netherlands
18:30	Drinks and canapes
Monday 18 september	Hirschsprung Collection
09:30	Introduction into meeting – Welcome by Christoph Lind, ICFA Chair and Gertrud Oelsner, Hirschsprung director
10 :00	Displays in historical contexts ✓ Guillaume Nicoud Post-Doctoral Researcher, Archivio del Moderno, Accademia di Architettura, Università della Svizzera italiana, <i>Permanent displays and their storage as originally intended in the Louvre and the Hermitage</i> ✓ Karolina Alkemade Museum of King Jan III Palace in Wilanow, Warsaw, Poland <i>White Hall in Wilanow Palace: restoring historical permanent display</i> Discussions
11.00	Coffee break
11.15	Displays and storages in Asian museums: ✓ Kanae Aoki Museum of Modern Art, Wakayama, Japan <i>Would permanent displays take root in Japan :from the historical Background of Japanese museums to a Case study of contemporary Collection usage</i> ✓ Aprille P. Tijam Ayala Museums, Makati City, Philippines <i>Shared spaces for sharing collections</i> Discussions
12.15	Free Lunch (there are several cafe possibilities in the area)

13.45	From storage to display: ✓ Carolyn Vogel Reemtsma Foundation, Hamburg, Germany, <i>« Art in stock » : Alliance for hidden treasures</i> ✓ Camilla Klitgaard Laursen Hirschprung Collection, Curator <i>The Lumber room- A chapel of curiosity at the contemporary art museum</i> Discussions Coffee break
14.45	Guided tour Hirschprung Collection with Anna Schram Vejlbj
15.30	Dinner in Restaurant Madklubben Nørrebro , Sortedam Dossering
19.00	7C,
Tuesday 19 september	Statens Museums for Kunst (SMK) Coffee in the lecture room Challenges of displays: ✓ Ellen Lerberg National Museum of Art, Architecture and Design, Oslo, Norway <i>How to unite four collections of very different character in a new museum's building</i> ✓ Kasper Monrad Statens Museum for Kunst, Copenhagen, Denmark <i>The challenge of exhibiting national art at a National Gallery</i> Discussions ✓ Mohamed Gamal Rashed Daretta University, Damietta, Egypt <i>Changing the permanent display of the Egyptian Museum, Cairo</i> ✓ Jacqueline Ridge National Galleries of Scotland, Edinburgh, Scotland <i>Developing a National Collection Facility in Scotland: a mechanism to explore stored art as a creative technology</i> Discussion
11.15	
13.15	Lunch SMK Café
14.45	Audience, display, storage ✓ Nicole Moolhuijsen Universita Ca' Foscari da Venezia and Querini Stampalia Foundation, Venice, Italy <i>Telling new stories and involving audience in Fine Art museums</i> ✓ Laila Skjøthaug Thorvaldsen Museum <i>Frames for reflection</i> Discussions
15.45	ICFA General Assembly
Wednesday 20 september	Tour museums in Copenhagen Thorvaldsen Museum with Kristine Bøggild Johannsen and Ernst Jonas Bencard, curators Short outdoor tour of the Parliament Grounds Lunch break. Guided tour of the SMK with Kasper Monrad, senior curator Tour in Louisiana Museum (optional)
10.00	
11.45	
12.30	
14.15	
16.00	

諸事情により欠席

国際委員会名:

International Committee for Literary Museums

(文学の博物館国際委員会)

参加者名:

中川成美 (立命館大学)

開催期日:

平成 29 年 9 月 15 日～20 日(全日程参加)

実施場所:

ギリシャ クレタ島

Kazantzakis Museum, creta, Greece (カザンザキス博物館)

概要:

今年度年次大会テーマ

Exhibitions: New Insights (展示の新視角)

国際文学博物館会議(ICLM)の 2017 年度年次総会は、ギリシャ、クレタ島イラクリオン市郊外ミルティアにあるカザンザキス博物館に開催された。ニコス・カザンザキスは「その男、ゾルバ」によって世界的な名声を得たギリシャを代表する作家であるが、出身地であるここイラクリオンに友人で親戚でもあった舞台衣装家・アネモネイアスによって 1983 年に創立されたカザンザキス文学博物館にはその原稿や絵画、あるいは政治家でもあったカザンザキスの広範な活動の資料が収められている。

9 月 15 日の到着日にはボードミーティングが行われ、16 日 10 時 30 分からオープニング・セッションが始まった。セッション1は「天才の場所—共役的な場所の力」であり、主に作家とその生地や居住場所との相関的な関係について、発表がされた。セッション2は「違った構造、違ったアプローチ」のテーマのもと、文学博物館、および音楽家博物館における新たなアプローチのあり方が議論されたが、その中で印象的なのはアイルランドから参加したヒュー・マグアイアー氏がノーベル賞作家を輩出しているアイルランドに一つも文学博物館が無い状況を報告して、アイルランドの文学遺跡の再発見と再視角化を訴えたことである。この日は夕刻から歓迎晩さん会が、クレタ市庁の招待にてミルティアの郷土料理レストランで開催された。

翌 17 日午前にはセッション3A、3Bとして「文学展示における言語、アート、新メディアの複合的な経験」としてクロアチア、ハンガリー、アルメニア、オランダ、ロシア、イタリア、ギリシャから報告があったが、90 年代から加わった音楽家博物館は視聴覚資料を使用することから、新メディアとの対応は不可欠であることから興味深い展示方法が提示された。また午後のセッション4「アートとの対話」では、視覚資料をどのように文学資料と関連付けるかという、文学博物館にとって基本的な課題についてはが活発に話し合われた。そのなかで現在設立準備中であるマリア・カラス博物館に携わるギリシャの学芸員から、カラスがその歌声ばかりでなく、舞台衣装や舞台美術、あるいはその華麗な遍歴を示す絵画資料などとの相関的な展示についての計画を発表したのは印象に残る。この日、4 時半から基調講演としてギリシャ・アテネのキクラデス文明と古代ギリシャ美術博物館館長のニコラス・スタンポリディス氏による「詩の視覚化—カバフィスとキクラデスの博物館展示をめぐる」が行われ、示唆深い博物館展示の提言がなされた。

18 日午前にはクレタ島歴史博物館の見学が行われた。午後はセッション5A、5Bとして「コレクションとコネクション」として、主にギリシャにおける文学系博物館の現状が報告され有意義であった。ギリシャ文学に関しては、特に現代は日本ではあまり知られていないが、ギリシャの豊穡な文学的磁場の在り様を知ることが出来、収穫であった。私はこのセッションの最後に「日本の文学博物館のイメージをどのように想像するか？」と題して、2019 年に向けた日本の文学イメージ、および実情を報告した。後半に京都大会の進捗を話し、多くの参加がある事を

(16)ICLM

呼び掛けた。セッション6は「デジタル時代における博物館職員の技術研修について」として、どのようにデジタル技術を展示に役立てていくかが報告された。

この日の夜はギリシャの博物館関係者を中心とするポエット・リーディングのグループで、またパフォーマンスグループ IAMA による演奏とポエット・リーディングが開催された。土地の人たちも加わって素晴らしい夢のような閉会セレモニーとなった。

19 日は終日クレタ島の博物館見学が举行されたが、紙幅の関係上、その詳細を省く。クレタ島の東側を中心に遺跡を含めて回った、観光化が促進するクレタ島にあって古代文明と、現代の融合をはかる施設建設の現状は、観光産業と博物館の関係を考察する上にも役立った。

20 日に 2018 年度クロアチアでの年次総会での再会を約して、散会となった。

ICOM 京都大会の PR:

今回の年次大会で ICOM 京都大会に向けてアピールした事項は、パンフレット・ニュースレターの配布、PR プレゼンテーションを発表の中で行い、また閉会式場でも参加を呼び掛けた。

年次大会参加所見(特に ICOM 京都大会へ向けて):

来日経験者が非常に少なかったこともあり、大部分が多大な興味をもってくれたようだ。コミッティ・ボードのメンバーからは勿論、参加の意向が伝えられたが、そのほかに参加者からも京都の立地などについて質問があった。ただし、旅費が高額であることなどが懸念材料として伝えられた。所属する各国のイコム、或いは所属博物館からの補助の有無について質したところ、多くは補助は得られないとのことであった。ヨーロッパ内であれば、比較的動きやすいが、やはり遠隔地は旅費問題があるとのことであった。それでもこれまで憧れとして日本訪問があったとする人も多く、三島由紀夫や遠藤周作、村上春樹、カズオ、イシグロなど著名な文学者の出身国として認知も高く、これから勧誘をしていきたい。



国際委員会名:

International Committee for Museums and Collections of Archaeology and History
(考古学・歴史の博物館・コレクションの国際委員会)

参加者名:

岡村 勝行 (公益財団法人 大阪市博物館協会 大阪文化財研究所)

開催期日:

平成 29 年 10 月 4 日～6 日 (全日程参加)

実施場所:

アゼルバイジャン バクー

Administration of State Historical-Architectural Reserve Icherisheher

概要:

今年度年次大会テーマ

Museums, collections and industrial heritage (産業遺産)

2017 年の ICMAH 年次総会は、カスピ海の面するバクー旧市街(世界遺産)にある歴史建造物保存局で開催された。アゼルバイジャンでは初めての ICOM 国際委員会の開催であり、また、加盟 25 周年という節目の年でもあった。「ミュージアム、コレクション、産業遺産」という大会テーマのもと、基調講演 2 本のほか、11 か国から 26 の研究発表、ワークショップがあった。発表国の内訳はアゼルバイジャン 10、トルコ 3、ジョージア 2、フランス 3、パラグアイ 1、ベルギー2、英国1、日本1、ギリシャ1、セルビア1、セネガル1で、地元、近隣国で半分以上をしめた。

3 日間のプログラム、おもだった内容は下記の通りである(資料1参照)。

○初日(10月4日)

1) 午前:開会式・基調講演

開会式は文化観光省など政府関係者を含め、100 名ほど参加し、会場満席であった。テレビ局カメラが 6 台設置され、フラッシュも休む間もなく、賑やかなオープニングで、英語、アゼルバイジャン語の同時通訳が用意された。挨拶は会場となった歴史建造物保存局の局長、文化観光局副局長に続き、アゼルバイジャン ICOM 委員長 (Shirin Melikova)、ICMAH 委員長 (Myriame Morei-Deledalle)が行った。

基調講演の一人目は Nartgiz Akuhunorda 氏による「アゼルバイジャンの産業考古学・産業遺産の展望」。豊富なスライドを用いて、同国の状況を報告された。続くソルボンヌ大学の Paul Smith 氏の「産業遺産の型式学」は、伝統的・因習的な素材による分類(レンガ/タイル産業、繊維産業、水力発電、鉄道業などなど)ではなく、これらの現在ある社会的認知や保存などの「状況」、また「価値」の視点からの分類を提案する野心的な試みであった。現代社会と文化遺産の関係を分析する上で、斬新かつ有効な「補助線」の作り方と感じた。

2) 午後:研究発表「産業考古学」セッション

午後前半はパラグアイ1、アゼルバイジャン2の発表。前者は「石器時代からタービンまで」と題し、産業 (industry)の視点から、パラグアイの発展・歴史を扱う内容。アゼルバイジャンの報告は先史土器の始まりと近年の新石器時代の遺跡発掘調査。Industry、「産業遺産」をてっきり産業革命以降のものを対象と考えていたのであるが、かなり幅広く取らえられていた。おそらく特に開催地からの発表は柔軟に対応されたものと思われる。午後後半はアゼルバイジャン2、ベルギー1の発表。ベルギーの地域ボランティア(平均年齢 72 歳!)に Rupel 地域のレンガ産業遺産の保存の取り組み、博物館運営の発表は、日本との対比でも興味深く感じた。

3) 夕方

(17)ICMAH

陶器・織物など伝統技術継承施設、シルヴァンシャー宮殿など、旧市街を電気車でツアーしたのち、マリオネット劇を見学。その後、同劇場にて、懇親会。ICOM 加盟 25 周年も祝された。

○二日目(10月5日)

1) 午前:「産業コレクションの博物館学」セッション

午前前半は英国1、アゼルバイジャン1、ベルギー1の発表があったが、後述するように、国営テレビニュースに出演するため、参加できなかった。会場に戻って来てから、京都大会のプレゼンテーションを行った。

午後後半最後に、日本からの唯一の榊玲子さんによる「たばこと塩の博物館」の発表があった。

2) 午後:研究発表「産業コレクションの博物館学」セッション

フランス1、アゼルバイジャン2、トルコ1、ギリシャ1の5本の発表。アゼルバイジャンはオイルとカーペットという同国の2大産業、その博物館の役割に焦点を当てたもの。フランスの発表は、産業遺産の3Dモデリングに関するもので、巨大な施設、機械などのプレゼンテーション、「保存」に有効で、参加者の関心が高かった。

3) 夕方

カーペット博物館のガイドツアーの後、同博のレストランで、カジュアルな夕食会。ICMAH 委員長と事務局長、会計の三人とテーブルを共にし、京都大会の打ち合わせを行った。

○三日目(10月5日)

1) 午前:「博物館と産業関係建造物」

ジョージア2、アゼルバイジャン1、セビリア1、セネガル1、トルコ1の6本の発表があった。いずれも自国の産業関係建造物に関する発表であるが、とりわけ、オリーブオイル工場、造船所、発電所、たばこ工場など、もと工場を博物館化し、保存し、再利用するプロセスとその課題を扱ったトルコ(イスタンブール)の発表に参加者の注目が集まった。発表はここまでの、初日の午後から丸二日間当てられたことになる。発表への参加者は初日50名、二日目は35~40名であった。

2) 午後:遺跡・博物館見学とワークショップ

旧市街内で発掘された中世遺跡、国立歴史博物館見学の見学後、スポーツ博物館ワークショップと Qala 史跡公園の二手に分かれ、最終的にヘイダル・アリエフ・センターでの展示の内覧会で合流した。

ICOM 京都大会の PR:

パンフレット及びニュースレターの配布のうえ、2日目午前の最後に、10分のプレゼン時間をいただいた。

そのほか、同日朝に、急遽、今回の ICMAH 年次総会、ICOM について、アゼルバイジャン国営放送ニュース番組で紹介されることとなり、ICOM アゼルバイジャン委員長、ICMAH 委員長とともに生放送出演し、京都大会の PR を行った(写真参照)。

年次大会参加所見(特に ICOM 京都大会へ向けて):

もともと海外からのゲストに対して、非常にホスピタリティの高いお国柄である、今回は先述したようにアゼルバイジャンにとって、初めての ICOM 国際委員会ということもあり、過去2度の大会(2015 アテネ、2016 ミラノ本大会)に比べ、宿泊関係、地域情報など事前段階から、本番当日のスケジュールまで緻密に準備、計画されていた。発表要旨とともに発表者の顔写真プロフィールを掲載した立派なプログラムが作成され、発表の理解、交流に非常に有効であった。セッションは90分を一単位、午前2午後2の1日4セッション。1セッションは3本の発表と質疑応答とゆったり組まれていた。学生ボランティア10数名が公募され、私には日本語を学ぶ大学生がアテンドしてくれた。また、今回初めて体験し、なかなか良いな、と思ったのは最後の参加証明授与式である。一人一人名前を呼ばれ、現地 ICOM、ICMAH の両委員長との記念撮影もあり、大会を締めくくるにふさわしいセレモニーに思えた。なお、今回の発表は PDF 媒体でまとめられる予定である。

そのほか、英語が堪能で、日本語を学ぶ熱心な学生からは、国際ボランティアの募集はないか、尋ねられた。現地の日本(文化)への関心は非常に高く、実現すれば、きっとよい働きをしてくれるだろうと思う。

大会の成否は、現地実行委員会の熱意、能力にかかっていることを再認識し、その具体的な方法、アイデアを多く得ることができた。なお、来年の大会はイスタンブールで、会場の都合もあるが10月10~12日、

"Museums and Collections of Companies and Institutions"のテーマで開催される予定である。

[京都大会についての要望など]

ICMAH の運営は、実際には委員長(フランス)、事務局長(トルコ)、会計(セネガル)の 3 名で運営しているのが実態のようだ。今回は大会前日から同じホテルであったこともあり、その 3 名と京都大会での ICMAH のイメージを話し合うことができた。以下、箇条書きする。

- ・発表者は、できれば半分、少なくとも 1/3 は日本から欲しいという、ローカル、開催地重視が基本的な考えであり、大会テーマについては、大枠を「考古学」とし、日本からできるだけ多くの参加者が集まる内容を提案して欲しいとのこと。

- ・会場は 60 名規模の小さな部屋で十分である。

- ・日程は、2019 年 9 月 2、3 日の二日間が研究発表、4 日がエクスカージョンと具体的に設定された。

- ・エクスカージョンの候補地は、大阪の考古／歴史系博物館で、ワークショップを行いたいという。

- ・京都からの方法は公共交通を用いるか、バスを手配するか、経費によって判断するとのこと。

以上の要望を受け、それぞれについて検討を進めているところである。

なお、2018 年のプレ会議については、ICMAH では予算がなく、参加は難しいとのことであった。



写真 1. 大会前日の打ち合わせ



写真 2. 会場となった歴史建造物保存局



写真 3. 開会式



写真 4. ICMAH 委員長挨拶



写真 5. 国営 TV 放送朝のニュース出演



写真 6. ICOM 京都大会のプレゼンテーション



写真 7. 参加証明書授与式



写真 8. Qala 史跡公園エクスカーション

資料 1. プログラム

CONFERENCE PROGRAMME

Day 1: October 4th 2017

09.00-10.00 Registration and welcome coffee

10.00-11.30 Welcoming speeches

Asgar Alakbarov, Chief of the Administration of State Historical Architectural Reserve "Icherisheher"**Sevda Mammadaliyeva**, Deputy Minister of Culture and Tourism, The Republic of Azerbaijan**Shirin Melikova**, President of ICOM Azerbaijan**Myriame Morel-Deledalle**, President of ICMAH

11.30-12.30 Keynote speakers

"Prospects of Industrial Archaeology and Industrial Heritage in Azerbaijan". Nargiz Akhundova, Academician, Azerbaijan.

16.00-17.30 Session 1: Industrial Archaeology

"Industrial Heritage of the Past on the Modern Landscape of Gala village (on the base of funds of Gala State Historical-Ethnographic Reserve)", Malahat Farajova, Qala State Historical-Ethnographic Reserve, Azerbaijan**"Local Volunteers Acting as Community Curators: the Rupel Experience", Bruno de Corte**, Historian, Belgium**"Archaeology in the Modern Society of Azerbaijan" (based on the Neolithic village project) Farhad Guliyev**, The "Scientific exposition" department of Institute of Archaeology and Ethnography, The Azerbaijan National Academy of Sciences.

17.30-19.00 Walking tour in Icherisheher, the Old City

19.30-20.30 Performance in "Marionette Theater"

20.30-22.00 Welcome cocktail on the terrace of Marionette Theater.

Day 2: October 5th 2017

9.30-11.00 Session 2: Museology of Industrial collections

"Intangible Industrial Heritage: the Collections of Architecture, Audio Technologies, and Transport at the Museum of Portable Sound". John Kannenberg, University of Arts London, UK.**"What Will Our Future Collection Look Like?", Pieter Nelirincx**, Museum of Industry, Labour and Textile, Belgium**"Museums and Development of Production Relations", Fikrat Abdullayev**, Gobustan National Historical Artistic Reserve, Azerbaijan

11.00-11.15

The presentation about the General Conference of ICOM in Kyoto 2019 by **Katsuyuki Okamura**, Japan

11.15-11.45 Coffee Break

11.30-13.00 Session 2: Museology of Industrial collections

"The Companies and their Industrial Collections", Florence Hachez-Leroy, CILAC, France**"Studying and Preserving Cultural Heritage Application of Modern Technologies", Kamil Farhadoglu**, The cultural heritage research sector of Administration of State historical-architectural reserve of Icherisheher, Azerbaijan**"Attempt of a Corporate Museum that Owns Industrial Collections About Tobacco and Salt". Reiko Sakaki**, Tokyo Tobacco and Salt Museum, Japan.

13.00-14.00 Lunch

14.00-15.30 Session 3: Museography of Industrial collections

"3D Modelling and the Industrial Heritage", Jean-Louis Kerouanton, Nantes University, France.**"Museography of the Carpet Weaving Know-how", Yalchin Salimov**, Azerbaijan Carpet Museum.**"Museums and Industrial Heritage in 21st Century, What Are the Challenges for the Museums of Tomorrow? Anne-Catherine Robert-Hauglustaine**, University Paris 1 Pantheon Sorbonne, France.

15.30-16.00 Coffee Break

16.00-17.30 Session 3: Museography of Industrial collections

"Reconstruction Greece's Industrial Prime in Museum Exhibitions: 4+1 Examples", Erato Koutsoudaki Yerolymbou, Designer, Greece. Video presentation**"Villa Petrolia-Nobel Brothers Heritage in Baku", Amina Melikova**, Azerbaijan National Museum of Art**"Challenges in Preparing the Museographical Programme of Industrial Buildings to Use for Museum Spaces", Burçak Madran, Zeynep Toy**, Tetrazon Design, Turkey

17.30-19.00 Azerbaijan Carpet Museum guided tour

19.00-22.00- Free time - Paid dinner in the restaurant of Azerbaijan Carpet Museum

Day 3: October 6th 2017

9.30-11.00 Session 4: Museums and industrial buildings

"Tsinandali Museum and Local Communities", Irakli Pipia, Tsinandali Museum, Georgia**"Post-medieval Agsu Town Industrial Heritage", Fariz Khalilili**, "MIRAS" Social Organization in Support of Studying of Cultural Heritage, Azerbaijan**"Industrial Heritage in Central Serbia and Its Museum Repurposing", Dordje Milovanovic**, Cultural Heritage Preservation Institute

In the afternoon there are optional workshops and visits that we expect your participation.

Option1: Sports Museum WorkshopModerator: **Burçak Madran******Important note:** The Sports Museum Working group is a newly launched project of ICMAH. Due to a special international participation meeting hours will be between 2 PM and 6 PM. It is however open to all participants.

Presentation of themes and discussions moderation by Burçak Madran, General secretary of ICMAH

- Presentation of **Javid Garayev**, Director of National Stadium, Azerbaijan
- Presentation of **Ioannis Papaioannou**, Specialist, Qatar Olympic and Sports Museum, Qatar
- Presentation of **Canan Curgun**, Director of Beşiktaş JK Museum, Turkey

Option 2: Icherisheher (Old City) heritage re-use WorkshopPresentation: **Idris Aliyev**Moderator: **Myriame Morel****Option 3: Stone Chronical Museum Visit**

Guided tour

Option 4: Archaeological and Ethnographical Reserve of Qala VisitPresentation and free-discussions moderation by **Malahat Farajova**, director of Qala Reserve.

国際委員会名:

International Committee for Museums and Collections of Ethnography

(民族学の博物館・コレクション国際委員会)

参加者名:

飯田卓(国立民族学博物館)

開催期日:

平成 29 年 10 月 17 日～19 日(会議後のエクスカーションを除き、全日程参加)

実施場所:

アメリカ ワシントン D.C.

National Museum of the American Indians (NMAI)

概要:

今年度年次大会テーマ

Migration, Home, and Belonging(移動と故地、そして所持品)

民族誌博物館は、文化の問題が深刻な人々で露呈する場であり、ときには政治的な対立にまで発展することもあります。残念ながら文化は、今のところ、すべての人々を幸福にしているわけではありません。そうした現状を少しでも改善するため、民族誌博物館は、モノを展示するという従来の役割を超えて、さまざまな試みをおこなっていると言ってよいでしょう。2017 年度の ICME 年次大会でおこなわれていた議論は、そのことをよく示していると思います。「文化をつなぐミュージアム」をテーマに掲げる京都大会の関係者も、ぜひとも民族誌博物館の議論に耳を傾けていただきたいと思います。

民族誌博物館の置かれた現況をもっともよく示しているのは、今年の大会テーマのうち「故地」に関わる資料返還(repatriation)の問題でしょう。今年の ICME 大会では、北欧 4 ヶ国にまたがって居住する先住民サーミの自治体に対して博物館がおこなった資料返還に関して、2 件の発表がありました。その背景にはいくつかの問題が横たわっているのですが、もっとも重要な点は、博物館では価値がよくわからない資料を「故地」の人びとがよく理解しており、活用できるということでしょう。逆にいえば、価値もわからずに死蔵されているような資料は、返還要求の対象となりやすいということです。

このため多くの民族誌博物館は、さまざまな関係者とコンタクトをとりながら資料の情報を集めています。年次大会の発表のなかでは、国立民族学博物館の「Info-Forum Museum」や大英博物館の「Objects Journeys」、ミシガン州立大学博物館の「Great Lakes Research Alliance for the Study of Aboriginal Arts and Cultures」がそれに当たります。デジタル画像で情報を集める場合も、モノを手にとってもらって情報を集める場合もありますが、いずれの場合も、民族誌資料とゆかりのある文化的背景を持つ人を相手にしないと意味がありません。とはいえ、そうした博物館活動はあらたな情報収奪につながるのではないかと考える人々や、古い情報の誤りを指摘するのをためらう人々もおり、対等な協働の実現にむけて民族誌博物館はまだまだ努力していかなければなりません。

じっさいにモノの情報を集めるのでなくとも、資料をよく知る人々(ソースコミュニティ)との関係を維持することは、それ自体として民族誌博物館の存在意義となりつつあります。ある発表では、博物館の活動を説明するさいに「展示(Exhibits)」「文化公演(Programs)」「研修(Training)」「記念物管理(Site enhancement)」「関係構築(Partnership)」という分類を用いていました。最後の関係構築というのが、民族誌博物館の活動で次第に重要性を増してきているわけです。たとえば、上記の「展示」はもちろんのこと「文化公演」や「研修」、「記念物管理」でも、ソースコミュニティの人々を優先して企画することが、近年の民族誌博物館では一般化しつつあります。たんにモノを保管するだけでなく、文化的実践を支援することにより、生きた文化を化石化させずに活性化

させるのだということが、複数の発表で強調されていました。

会場となったアメリカンインディアン博物館や、同じスミソニアン協会の傘下で昨年開館したアフリカンアメリカン歴史文化博物館なども、建物のつくりからしてそうした多目的の活動を想定しています。これらの博物館が対象とするのは、国家を中心とする歴史のなかで軽視されてきた人びとです。これらの博物館は歴史博物館と呼ぶこともできますが、多くの歴史博物館は政治的マジョリティによって作られたので、社会参画をうながすような活動はそれほど盛んでないかもしれません。アメリカンインディアンやアフリカンアメリカンの博物館は、モノだけでなくマイノリティの生きた声を反映させる役割を担うという意味で、多くの民族誌博物館と共通するといえます。

ICOM 京都大会の PR:

パンフレットとニュースレターを配布しました。年次大会では、理事の黒岩啓子氏が京都国際会議場のようすを紹介し、飯田が持参した京都大会プロモーション用ビデオの上映をおこないました。また、オフサイトミーティングは、飯田の所属する国立民族学博物館で開催する予定であると理事から発表がありました。

年次大会参加所見(特に ICOM 京都大会へ向けて):

「概要」の冒頭に書きましたが、「文化をつなぐミュージアム」というテーマを掲げた京都大会にとって、ICME の議論は看過しがたい論点を多数提起しています。ミュージアムにかぎらず、文化的なことによって人びとは繋がることもできるし、逆に分断されることもあります。人類共通の遺産という意味の文化ならばよいのですが、われわれはそうした文化を築く途上にありますし、そうでない意味での「文化」を濫用しすぎると、偏狭なエリート主義に陥ったり反発を招いたりしてしまいます。きわめて多様な文化的背景をもつ人たちと正面から向きあっている民族誌博物館の活動に、ICOM 京都大会の参加者の皆さんも注目していただきたいと思います。

なお、ICME 年次大会では、京都大会でのポストカンファレンス・ツアーについても要望が出ました。国際委員会ごとにツアーを組織するよりも、大会がいくつかのオプションを呈示して、参加者が行きたい場所を選べるようにしてほしいということでした。



写真1 会場となったスミソニアン協会国立アメリカンインディアン博物館



写真2 参加者記念撮影(ICME 理事会提供)



写真3 国立アメリカンインディアン博物館のホール



写真4 報告者の発表

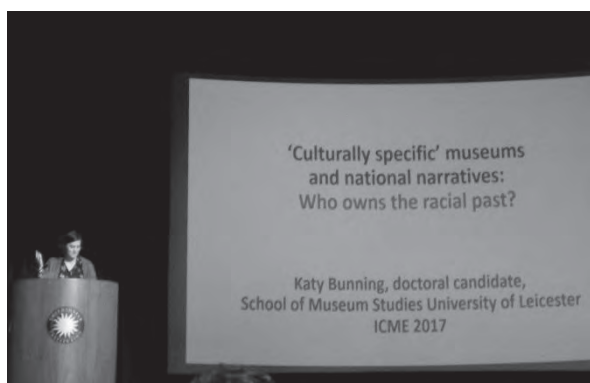


写真5 挑発的なタイトルの発表もおこなわれた

国際委員会名:

International Committee of Memorial Museums in Remembrance of the Victims of Public Crimes
(公共に対する犯罪犠牲者追悼のための記念博物館国際委員会)

参加者名:

東 自由里 (京都外国語大学)
大原一興 (横浜国立大学)

開催期日:

平成 29 年 10 月 14 日～18 日 (東 14～17 日参加;大原 15～18 日参加)

International Committee for Architecture and Museum Techniques (建築・博物館技術国際委員会)と
合同会議

実施場所:

アメリカ シンシナティ

メイン会場:

National Underground Railroad Freedom Center、(奴隷解放フリーダムセンター)

大会開催期間中にレセプション、シンポジウム、討論が行われたその他の会場:

Jacob Rader Marcus Center of the American Jewish Archives,

Cincinnati Museum Center at Union Terminal (ユニオン・ターミナル・シンシナティ博物館センター)、

Holocaust and Humanity Center,

Contemporary Arts Center (現代美術センター).

Cincinnati Art Museum (シンシナティ美術館)

概要:

今年度年次大会テーマ

Memory Building: Engaging Society in Self-Reflective Museums

オハイオ州シンシナティは ICOM2019 年総会開催地候補地としても名乗り上げていた都市である。京都が開催地となることが決定した後も、シンシナティの博物館関係者は積極的に誘致活動を 2016 年 ICOM ミラノ大会で行っていた。そのため、ICMEMO は初めて米国での開催となる 2017 年度年次大会をシンシナティで開催することになった。参加者を増やすために ICAMT と共催となったものの、テーマの設定の関係、ICMEMO 会員の参加者数の方が多かったといえる(合わせて最大約 70 名)。シンシナティは南北戦争中、奴隷解放運動が盛んな地域であったことから、奴隷解放の歴史を中心に語る National Underground Railroad Freedom Center (別名フリーダム・センター) が 2005 年に開館した。フリーダム・センターの常設展示は、米国における奴隷制度とその解放の歴史だけではなく、館長の説明によると最近では世界中に起きている人身売買に関係する教育事業も繰り広げているという。尚、本年次大会にはスアイ・アクソイ ICOM 会長に年次大会期間全日(14 日～18 日)まで参加していただくことができた。

10 月 14 日: 午前中から ICMEMO 役員会議の後、会員の全体会議が開催され、2018 年度年次大会の候補地とその準備について話し合った。午後は、奴隷解放運動に因んだ名所をバスで巡る半日ツアーが実施された。夜は、シンシナティ市が主催している 4 日間の「光の芸術祭、BLINK」を楽しむことができた。2019 年京都大会で ICMEMO のホスト博物館となることが決定している広島平和記念資料館の小山亮学芸員が文科省の「学芸員等在外派遣研修」制度を利用して、初日の半日ツアーから参加することができ、年次大会が本格的に始まるまにに会員たちと有意義な交流ができた。

10月15日：午前中は大会メイン会場のフリーダム・センターで館長による「歓迎スピーチ」と意見交換を行った。その後、ドーセントの案内によって館内常設展示をグループに分かれて視察した。フリーダム・センターのドーセント(所属博物館が予め定めた専門知識を習得する研修をおえたボランティア)の話によると、かれらの研修の一環として実施されている「読書会」が楽しかったとのことだ。ドーセントになるには、100冊にも及ぶ南北戦争と奴隷制度に関する書物よむことが課されていたらしい。100冊の本のタイトルは、ピューリッツァー賞を受賞した歴史家エリック・フォーナー氏に依頼してリストアップしてもらったそうだ。

午後はスアイ・アクソイ ICOM 会長による最初の基調講演が行われた。アクソイ会長はイスタンブール(トルコ)の事例をもとに都市の記憶を保存するために、NGOと博物館の協力関係が必要であることを力説した講演の内容であった。二人目の基調講演は「米国ホロコースト博物館」、サラ・ブルームフィールド館長によるもので、博物館の入館者に実施されるアンケートの新活用方法などが紹介された。ブルームフィールド館長の講演を受けて、その後は3名のホロコースト教育関係者がスカイプを利用して、討論を繰りひろげるように設定されていたものの、スカイプを利用した討論は基本的に困難であると感じた。同日の夜は、シンシナティ美術館主催のレセプションに参加した。

10月16日：本大会のテーマである Memory Building についての講演が行われた。最もタイムリーな話題となった「米国史の記憶と南部同盟：奴隷制度と向き合う」と題された講演では、米国南北戦争博物館の最高責任者 Christy Coleman による迫力に満ちた報告があった。2017年にロバート・リー将軍(南部同盟)の銅像の撤去が決定してから、ヴァージニア州で過激な反対運動がくりひろげられていたことは日本のメディアでも話題になっていたが、人種差別主義を肯定するような動きについてについて、Coleman氏と参加者との全体会議で活発な意見交換が行われ、博物館のミッションを明確に打ち出していたのが印象的であった。

10月17日：Jacob Rader Marcus Center of the American Jewish Archives (AJA)で開催。「今後のホロコーストミュージアム」という題のもとで、シンシナティ(米国)、マケドニア、テレジン(チェコ共和国)、ダラス(米国)各都市にあるホロコーストミュージアム所属の関係者による報告が行われた。午後からはAJA敷地内のアーカイヴスコレクションの視察を行った。さらに米国公園局の Mary Case と Joan Bacharach によるヨハネスブルク(南アフリカ)「憲法裁判所」の建造物デザインの特徴を紹介するフィルム上映が行われ、民主主義の象徴としての建築について報告があった。その後は二つの分科会が同時開催され、スライド20枚が自動的に映し出される「ペチャクチャ形式」で5名による報告が、それぞれの部屋であった。夜はアメリカ建築家協会シンシナティ(他)の主催で「博物館と持続可能性」のテーマで、エコな博物館に関する発表・討論会が行われた。

10月18日：午前中に1930年に建てられたアールデコ建築のホテルの見学ツアー、残りの研究発表を行った後、ユニオン鉄道駅を改修建設しているミュージアムセンターの工事現場で Hard Hat tour。自然史、歴史、こども科学館等と、ホロコースト&ヒューマニティセンターが移転され、巨大な複合施設となる。これまで地域の学校と同居していた地域密着型の良さが損なわれていないかむしろ心配にもなった。昼に解散。

ICOM 京都大会の PR:

スペイン語・フランス語、英語のパンフレット及びニュースレターの配布を行った。事前に大会運営委員会役員にお願いしていた通り、5分程度のプレゼンテーションをメイン会場ホールで行った。プレゼンテーションでは京都大会プロモーション用ビデオの音を消した状態で上映し、代わりに準備した原稿を読みながら補足説明を東が行った。

年次大会参加所見(特に ICOM 京都大会へ向けて):

ICMEMO 会員は他の国際委員会と同様に欧州中心の会員が多く、どうしてもホロコーストに関連するテーマを取り上げることが多かった。だが、2017年度年次大会のように、米国の「奴隷制度の記憶」に焦点をあてることによって、米国博物館協会(AAM)の会員とのネットワークを強化することにも繋がったといえる。東欧出身者は米国までの旅費を準備することができないところを見ると、京都大会に参加することはさらに困難であろうと思えてならない。今回の年次大会では広島平和記念資料館の小山学芸員が、現在進行中のリニューアルプロジェクトについて簡単に報告をしていただき、国際委員会の会員たちが日本にくるように促してくれるように事前に手配をしたが、は京都大会で ICMEMO とコラボができる国際委員会に積極的に声をかけていきたい。



写真 1. Freedom Center での館長挨拶



写真 2 Skype 利用のディスカッション (Freedom Center)



写真 3. Art Museum でのレセプション



写真 4. ICOM2019 京都大会の紹介



写真 5. Holocaust and Humanity Center



写真 6. AJA の図書室の見学



写真 7. Contemporary Arts Center



写真 8. ユニオン駅 Museum Center の Hard Hat

資料 1. プログラム (一部変更もあり)

Saturday, October 14			
Memory Building		DAY 6	
Hilton Cincinnati Netherland Plaza	09:30 – 11:00	ICMEMO Board Meeting	Mayflower 1&2
	11:30 – 12:30	ICMEMO Membership Meeting	Mayflower 1&2
	13:00 – 17:00	City Tour Highlighting local stops on the Underground Railroad	Registration limited See registration page for details Meet in Hilton lobby bus departure at 17:00
	evening	Experience Blink Cincinnati	http://www.blinkcincinnati.com/ Experience our
Sunday, October 15			
Memory Building			
National Underground Railroad Freedom Center	09:00 – 10:00	Registration and Coffee/Tea	
	10:00 – 11:00	Tours in the Freedom Center	
	11:00 – 12:00	Presentation and Feedback	
	12:00 – 13:00	Lunch	
	13:00 – 13:30	Welcome Words	
	13:30 – 14:15	Keynote session 1: Memory Building and Identity	Suay Aksoy - ICOM President
	14:15 – 14:30	Coffee/Tea Break	
	14:30 – 16:15	Keynote session 2	Sara Bloomfield - director of the United States Holocaust Memorial Museum
	16:15 – 17:00	International Respondents	Natalia Indrimi, Primo Levi Center Linda Norris, International Coalition of Sites of Conscience Thomas Lutz - Session chair
	17:00	Bus departs to Cincinnati Art Museum	Bus
Cincinnati Art Museum	17:30 – 19:30	Opening Reception	

Wednesday, October 18			
Memory Building			
Hilton Cincinnati Netherland Plaza	09:30 – 10:30	Session ICMEMO TBA	
	09:30 – 10:30	Session ICAMT Adaptive Reuse-Challenge and Chances for Museums	
	11:00	Bus departs to Cincinnati Museum Center	Bus
	11:15 – 12:45	HARD HAT Tour of this \$212 million repair and restoration project	
	12:45	Bus departs to Hilton	Return Bus from Hard Hat Tour
Cincinnati Museum Center at Union Terminal	12:45	Adjourn	
Hilton Cincinnati Netherland Plaza	12:45 – 13:30	Lunch	On your own
	13:45	Bus departs promptly for CVG Airport	
	16:30 – 18:00	Farewell Drinks in Hilton Cincinnati Netherland Plaza, on your own	Informal meeting

Tuesday, October 17			
Memory Building			
Jacob Rader Marcus Center of the American Jewish Archives	08:45	Bus departs to Jacob Rader Marcus Center of the American Jewish Archives	Bus
Jacob Rader Marcus Center of the American Jewish Archives	09:00 – 09:30	Registration and Coffee/Tea	
	9:30 – 11:00	The future of Holocaust Museums: Cincinnati, Macedonia and Dallas	Michael Berenbaum & International respondents
	11:00 – 11:15	Break	
	11:15 – 12:45	Hebrew Union College Library Rare Books Collection, American Jewish Archives, Skirball Museum and Architectural tour of the recently-opened HUC Library	Tours and visit
	12:45 – 13:30	Lunch	
	13:30 – 14:45	AJA Tour and Talk	Dr. Gary P. Zola, Executive Director of the American Jewish Archives Sarah Weiss, Moderator
	14:45 – 15:00	Coffee/Tea Break	
	15:00 – 16:30	Pecha Kucha	These themes will be presented in Pecha Kucha style by Museum professionals.
	16:30 – 16:45	Pick up goody bags from AJA	Bottled water and snacks for bus
	16:45	Bus departs for Plum Street Temple	Bus
Plum Street Temple	17:00 – 18:00	Plum Street Temple	Tour and Visit by Rabbi Karen Tomashow
Plum Street Temple	18:30	Walk to Hotel or Reception	On your own
Contemporary Arts Center	18:30 – 20:30	Reception and Panel on Museum Sustainability Hosted by Executive Director Raphaela Platow of the Contemporary Arts Center Thank you to our presenting sponsor Gallagher & Associates and our local sponsor AJA for your contribution to this event!	 Panelist include: Chad Edwards of emersion DESIGN, Cybelle Jones of Gallagher & Associates (GA), Raphaela Platow of the Contemporary Arts Center and Jamie Thompson of the Contemporary Arts Center. Moderated and sponsored by Kelly Kolar. The panel will begin around 7pm and last until 7:30. The gallery will be open to tour afterwards.

Monday, October 16			
Memory Building			
National Underground Railroad Freedom Center	09:00 – 09:30	Registration and Coffee/Tea	
	09:30 – 12:15	Memory & The Confederacy: America Confronts its History of Slavery	Christy Coleman, CEO of the American Civil War Museum Commentator: John Fleming
	12:15 – 13:30	Lunch	
	13:30 – 15:00	Constitutional Court building in Johannesburg, South Africa film & discussion	Joan Bacharach Mary Case
	15:00 – 16:30	Design of the Collection Center United States Holocaust Memorial Museum	Christopher Wood, SmithGroupJJR
	16:00	Bus departs to The Holocaust & Humanity Center	Bus
	16:30 – 17:30	The Holocaust & Humanity Center	Tour and Visit
The Holocaust & Humanity Center	17:30 – 18:30	Reception	

国際委員会名:

International Committee for Museum Security

(博物館セキュリティ国際委員会)

参加者名:

前田裕美 (浦賀ドック野外船舶技術博物館設立推進会議)

開催期日:

平成 29 年 8 月 20 日～25 日(全日程参加)

実施場所:

アメリカ ケンブリッジ

Harvard Art Museum

概要:

今年度年次大会テーマ

Sensitivity to Cultures in Museum Security(博物館セキュリティにおける文化的配慮)

2017 年 ICOM/ICMS (博物館セキュリティ国際委員会)の年次大会が米国・ケンブリッジのハーバード大学美術館にて 8 月 20～25 日(6 日間)の日程で開催された。会議のテーマは、「博物館セキュリティにおける文化的配慮」で、参加者は、(同伴者 11 名を含め)70 名であった。内、米国を除いた最多数参加国は中国で(同伴者を含め)14 名であった。日本からの参加は本報告者 1 名であった。尚、執行役員メンバー6 名中、田氏(中国)と事務局長 Hekman 氏(カナダ)は欠席であった。

会議は、主に、プレゼンテーション、博物館美術館見学、エクスカージョン、博物館セキュリティ実地分析及び結果報告で構成されている。プレゼンテーションでは、議題に沿った米国、モンゴル、ケニヤ、ナイジェリア等からの報告とその他、博物館セキュリティに関係し文化遺産保護・自然災害被災事例及び対策・戦争時盗難文化財の返還・城郭防火訓練事例、博物館事件事故年報等が報告された。それらに加えて、2018 年、2019 年の ICOM/ICMS 大会の PR 映像とプレゼンテーションも行われた。また、執行役員会と ICMS メンバーによるビジネス・ミーティングが行われ、ICSM の今後の活動計画や監査報告の承認が行われた。

日 程(プログラム詳細は資料参照)

【第 1 日目】登録、執行役員会及び夕食会

【第 2 日目】歓迎の辞・レセプション、集合写真、ハーバード大学美術館見学、プレゼンテーション(含・事例及び 学術報告、スポンサー企業)、参加者昼食会及び夕食会

【第 3 日目】プレゼンテーション(含・ICOM KYOTO 2019、事例及び学術報告、スポンサー企業)

【第 4 日目】セキュリティ・ツアー(4館4グループ)、ハーバード大学美術館内施設視察、プレゼンテーション(事例報告)、ハーバード大学キャンパス見学

【第 5 日目】ボストン市内観光(フリーダムトレイルを歩く)、セキュリティ・ツアー結果報告(4館4グループ)

【第 6 日目】ボストン市内観光(ボストン・パブリック・ガーデン)、プレゼンテーション(含・ICMS NAIROBI 2018 (ケニヤ)、事例報告)、ビジネス・ミーティング、閉会の辞・レセプション

ICOM 京都大会の PR:

会議、第 3 日目プログラム内でプレゼンテーション「ICOM Kyoto 2019」を行った。内容は、ICOM 京都大会のテーマとその意味を解説し、日程・会場についての情報を提供し、最後に大会 PR 用の動画映像を上映した。

パンフレットとニュースレターは参加者全員の手元に配布した。執行役員会のミーティングに参加し、今後配布される事前アンケートや京都大会での費用分担や今後の計画について話す機会を設けた。また、できるだけ多数の参加者と積極的に話をし、京都大会への要望を聞き、参加を促す活動を行った。

年次大会参加所見(特に ICOM 京都大会へ向けて)：

執行役員会のミーティングにて日本側の要望と博物館セキュリティ分野の専門家が日本には数が少なく、ほとんどいない現状を説明した。前者については DRMC、ICOM-CC、INTERCOM、Blue Shield とのジョイント・セッションの可能性について話をした。後者に関しては、博物館にセキュリティの専門家がいなければ、博物館のセキュリティ部門を管理する責任者、または、委託元企業のセキュリティを計画する責任者を紹介して欲しいとの要望があった。2019 京都大会での ICMS 年次大会のプレゼンテーションでは、狭義の意味でのセキュリティの問題だけではなく、広義の意味で博物館を守るという観点から過去の災害事例や自然災害に対する最新の技術・対策・計画等を、特に日本では多くの事例があると思われる地震・津波・洪水に焦点を当てて報告を聞きたいとの強い要望があった。英語圏において日本の情報が少ないという現状において、民間企業、IT などの情報管理専門家、危機管理学研究者等のプレゼンテーションを含めて、博物館職員及び学芸員の報告が大いに期待される。残る問題は、分野別発表者の決定・発表者数・英語力を考慮の上、どのような方法で日本側の発表者を早い段階で依頼・募集するかである。発表や視察の際に日⇄英同時・逐次通訳は不可欠である。Hekman 事務局長は、2016、2017年の両年次大会に欠席しているが、京都大会 ICMS プログラムについては、Hansen 議長並びに日本側とメールにてどのような相談にも応ずると連絡があった。

ビジネス・ミーティングや交流の場で、京都大会に参加することを楽しみにしている人が多くいることがわかった。ICMS ウェブサイト担当者から ICOM KYOTO リンク先を教えてほしいとの質問があった。近々英語サイトが開設されると回答した。今後、ICOM KYOTO のサイト更新時には、その旨委員会ウェブサイト担当者へ報告することが、アクセス促進及び情報の周知に効果的と思われる。参加者からは、セキュリティだけではなく、人的及び収蔵品マネジメントについて知りたい、宿泊先について予約はいつどのようにするのか教えてほしい、家族で京都に来られるようにしたいので同伴者 3~4 人は登録できるようにしてほしい、ポスト・コンフェレンス・ツアーで富士山や東京を訪れたい等の要望があった。また、本大会中グルテンフリー食の人がいたので、食事面での配慮も必要と考えられる。

次年度の ICMS2018 は、2018 年 9 月 17~19 日にケニア・ナイロビに於いて、災害対策・計画をテーマ行われる予定である。また、大会終了後にケニア国内の博物館職員を対象に 2 日間(20、21 日)のワークショップを ICMS 主催で行う予定である。



写真1 会場遠景



写真2 開会の挨拶
(ハーバード大学美術館・セキュリティ部長)



写真3 集合写真



写真4 ICOM 京都大会のプレゼンテーション



写真5 ICOM 京都大会のプレゼンテーション



写真6 ICMS 執行役員(右)、ICMS 議長(中央)、拙者(左)



写真7 会場の様子



写真8 セキュリティ・ツアー



写真9 セキュリティ・ツアー



写真10 ボストン市内観光(フリーダム・トレイル)



写真11 フェアウェル・レセプション
(ハーバード大学美術館 Adolphus Bush Hall)

(20) ICMS

1:15 pm to 2:00 pm	"Security in Historical Sites in CZ" - Pavel Jirasek
2:15 pm to 3:00 pm	"Protecting a Nations Collections - Sensitivity to Cultures in Museum Security" - William Brown
3:15 pm to 4:00 pm	"Involving Communities in the Preservation and Protection of Monuments and Sites. A Case Study of Government Museums in Nigeria" - Louisa Onuoha & ONUOHA KELVIN
4:15 pm to 5:00 pm	"Sensitivity to cultures in Museum security: An eye witness account" - Cecilia Ngugi
6:00 pm to 8:00 pm	Free Time
Wednesday, August 23, 2017	
10:00 am to 12:00 pm	Security Tours - MFA/Museum of Natural History/Boston Arboretum/HAM - Meet at assigned location
12:00 pm to 1:00 pm	Lunch - On your own
1:00 pm to 2:00 pm	HAM Art Storage tour
2:15 pm to 3:00 pm	"Preventive fire drills at noble houses and medieval castles" - Rudolf Pohl
3:15 pm to 4:00 pm	"Security Issues Amid Extreme Weather Patterns in the Tropics" - Ana Maria Theresa Labrador
4:00 pm to 5:00 pm	Tour of Harvard University - Ahmed Ibrahim - HAM
6:00 pm to 8:00 pm	Free time
Thursday, August 24, 2017	
8:30 am to 12:00 pm	Boston Freedom Trail Walking Tour - Park St. MBTA Station @ Tremont St, Boston
12:00 pm to 1:00 pm	Lunch - On your own
1:30 pm to 5:00 pm	Security Audit Findings Presentations - HAM MLH
6:00 pm to 8:00 pm	Free time
Friday, August 25, 2017	
8:30 am to 12:00 pm	Boston Public Gardens Tour & Swan Boats - Meet at Ducklings Statue near the Charles and Beacon St entrance to the Boston Public Gardens
12:00 pm to 1:00 pm	Lunch - On your own

1:15 pm to 2:00 pm	Presentation - ICMS 2018 - TBD
2:15 pm to 3:00 pm	"Terrorist threats change museum security?" - Willem Hekman
3:15 pm to 4:00 pm	ICMS Business Meeting - HAM MLH
4:15 pm to 5:00 pm	Closing Remarks - HAM MLH
6:00 pm to 8:00 pm	Farewell reception - Adolphus Busch Hall @ HAM

ICMS 2017 Meeting Program for Delegates	
Sunday, August 20, 2017	
10:00 am to 5:00 pm	Registration Open - HAM Lower Level
3:00 pm to 5:00 pm	ICMS Board Meeting - HAM Naumburg Room
6:00 pm to 8:00 pm	ICMS Board & Organizing Committee Dinner - HAM Naumburg Room
Monday, August 21, 2017	
8:00 am to 9:00 am	Coffee - HAM Calderwood Courtyard
9:00 am to 9:30 am	"Welcome Remarks" - HAM Calderwood Courtyard - Stephen St. Laurent, Martha Tedeschi
9:30 am to 10:00 am	Group Photo - HAM Calderwood Courtyard
10:30 am to 12:00 pm	HAM Tours - Meet at MLH
12:00 pm to 1:00 pm	Lunch- Grafton St. Restaurant - 1230 Massachusetts Avenue, Cambridge
1:15 pm to 2:00 pm	"Securing Human Connections: Displaying Empathy and Cultural Competency in and beyond the Galleries" - Celine Ibrahim
2:15 pm to 3:00 pm	"Art Incident Monitoring: A Collaborative Process" - Angela Chang
3:15 pm to 4:00 pm	Presentation - Fortecho - Rob Greene - HAM MLH
4:15 pm to 5:00 pm	Presentation - "Heritage at War: A Long Recovery" - Paulina Florjanowicz - HAM MLH
6:00 pm to 8:00 pm	Reception/Dinner - Grafton St. Restaurant - 1230 Massachusetts Avenue, Cambridge
Tuesday, August 22, 2017	
8:30 am to 8:45 am	Coffee - HAM
8:45 am to 9:00 am	"ICOM Kyoto 2019" - Hiromi MAEDA
9:00 am to 9:15 am	"ICOM-US Welcome" - Thomas J. Loughman, PhD, ICOM-US Co-Chair
9:15 am to 10:00 am	"Keeping the Balance: Empathy and Cultural Sensitivity in Security Operations" - Ahmed Ibrahim
10:15 am to 11:00 am	Presentation - Viakoo - John Gallagher - HAM MLH
11:15 am to 12:00 pm	"Engaging the Public in Museum Security" - Mercy Kinyua (Kenya)
12:00 pm to 1:00 pm	Lunch - On your own

参考資料 ICMS2017 プログラム (ICOM KYOTO 2019 プレゼンテーションを含む)

国際委員会名:

International Committee for Museology
(博物館学国際委員会)

参加者名:

栗原 祐司(京都国立博物館副館長)

開催期日:

平成 29 年 9 月 25 日～28 日(全日程参加)

実施場所:

キューバ ハバナ

Palacio del Segundo Cabo Habana



概要:

今年度年次大会テーマ

The politics and poetics of museology (博物館学の政治性と詩韻性)

ICOM Latin America & Caribbean Alliance (ラテンアメリカ・カリビアン地域連盟)と合同会議

キューバの首都・ハバナで開催された第 40 回 ICOFOM シンポジウムは、第 25 回 ICOFOM-LAC 会合及び ICOM-LAC 年次大会との同時開催で、およそ 100 名の参加者のうち、過半数は中南米の方で、日本及びアジアからは出張者のみであった。世界遺産にも登録されているハバナ旧市街地 (La Habana Vieja) の旧館で開催され、英語・スペイン語・フランス語の同時通訳が付き、多様な議論が展開された。

Alissandra Cummins ICOM 前々会長ら 4 人が基調講演を行い、8 つのセッションの他、ポスターセッションなどが行われ、栗原は、ブルーシールドに関するセッション (Round Table “The Importance of Blue Shield for heritage protection in the Latin America and Caribbean”) で日本の文化財防災の取り組みを紹介した。カリブ・中米諸国は、ハリケーンの常襲地域であり、つい最近もメキシコで大地震があり、火山、水害等の災害も多い。ICOM-LAC 委員長の Smuel Franco 氏は、栗原と同じ ICOM-DRMC (災害対策委員会) のメンバーであり、2017 年 3 月に東京国立博物館で開催した文化遺産防災国際シンポジウムで基調講演者として招へいた経緯がある。今回の会議の共催者代表の一人である Franco 氏は、開会式のあいさつの中でも日本の防災取組に学ぶべきところは多いと触れ、今後の連携方策を提案した。また、Alissandra Cummins ICOM 前々会長もバルバドス出身であり、カリブ諸国は文化財防災に関して日本ともっと連携すべきであると主張した。

会期中には、キューバの故 ICOM メンバーの追悼式や、教会でのコンサートなども行われた。

来年度は、イラン・テヘランで開催予定。今回もそうだったが、次回もビザの取得が難しい国であり、それほど多くの参加が見込まれないことが予想される。

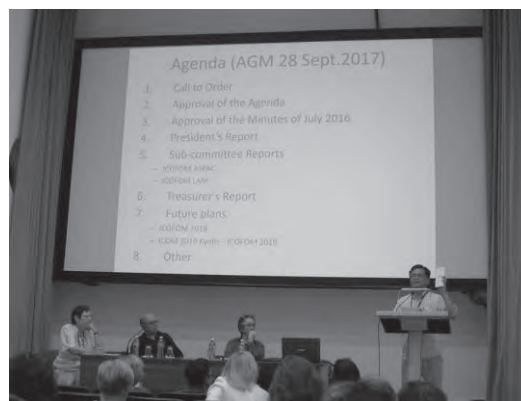
ICOM 京都大会の PR:

最終日 (9 月 28 日) の ICOFOM 年次総会において、5 分ほど京都大会プレゼンテーションの時間をいただき、プロモーション用ビデオを上映し、説明した。

また、リーフレットの英語版及びスペイン語版を配布した。



ブルーシールド・セッションで、日本の文化財防災の取組について説明。
(右は、ICOM-LAC 委員長の Smuel Franco 氏。)



ICOFOM 年次総会で、ICOM 京都大会についてアピール。



Alissandra Cummins 元 ICOM 会長



大会用トートバッグ等

年次大会参加所見(特に ICOM 京都大会へ向けて):

ハバナ大会開催時点で ICOFOM の窓口担当者が決まっていなかったため、運営委員長である栗原が、文化財防災に関する調査を兼ねて参加した。

François Mairesse 委員長からは、担当者は、早めに、できれば京都の大学で博物館学を教えている専門家が望ましい、との話があった。また、ICOM 京都大会では、今のところ他の委員会とオジョイント・セッションは考えていないけれども、ボードミーティングの結果、クエスチオネアーで 3 日と 4 日を 1 部屋で回答したけれども、ワークショップをやりたいので、20 人程度の小部屋を 5 つ用意してもらいたい、との話があった。オフサイト・ミーティングについても、博物館学を教えている大学の博物館等があれば、教えてほしいとのことであった。

なお、会議自体は比較的シンプルで、4 日間を通じて特にツアー等はなかったが、3 日目の午後にフリータイムがあり、ハバナ旧市街の博物館等を見学することができた。

ICOFOM は、2013-2016 年に水嶋英治氏がボードメンバーとなり、2015 年に筑波大学で年次大会(シンポジウム)を開催しているが、ICOM 日本委員会役員の参加はなく、日本からの ICOFOM メンバーも増えることなく終わっている。そもそも同大会そのものが、あまり学芸員養成課程の教員等に十分周知されなかったという問題があったが、ICOFOM での議論は、日本の博物館学の発展にも寄与する質の高いものであり、2019 年の ICOM 京都大会の開催を機に、日本の博物館学研究者から ICOFOM への多数の参加が望まれる。

国際委員会名:

International Committee for Conservation
(保存国際委員会)

参加者名:

榎 玲子 (たばこと塩の博物館)

開催期日:

平成 29 年 9 月 4 日～8 日(全日程参加)

実施場所:

デンマーク コペンハーゲン
The Tivoli Congress Center

概要:

今年度年次大会テーマ

The 18th ICOM-CC Triennial Conference – Linking Past and Future (ICOM-CC 第 18 回大会)

2017 年の大会は、ICOM-CC が 3 年ごとに開いている大会に加え、1967 年の ICOM-CC 創設から 50 年ということで ICOM-CC 50 周年を祝う記念大会でもあった。そのためもあるのか、参加者数は 1,000 名を超える大規模な大会であった(うち日本からの参加者は 17 名)。

大会では 2 本の基調講演、合計 150 本の発表・報告および 100 件のポスター発表が 21 の working group に分かれて行われた他、毎日夜には social event が催され、また大会 3 日目の午後には Technical Visits という名目で、コペンハーゲン市内だけではなく、近郊も含めた 26 の見学研修プログラムが用意されており、ながら小 ICOM 大会という様相を呈していた。また、ICOM-CC のボードメンバーおよび各 working group の coordinator の選挙が大会開催に合わせて行われ、2017-2020 期の新メンバーが決定した。ボードメンバー数人の入替はあったが、委員長については 2016 年の ICOM ミラノ大会より連絡を取り合っている Strætkvern 委員長の再選となった。

なお本大会に対しては、さまざまな形でのサポートがあったと思われるが、Dronning Margrethes og Prins Henriks Fond、AUGUSTINUS FONDEN、Aage of Johanne Louis-Hansens Fond、The Getty Foundation、the Agency for Culture and Palaces が主要スポンサーであったようだ。また、大会会場のホールでは 22 の企業による展示ブースが設けられており、それぞれプレゼンが行われていた。(うち 1 社は、日本の株式会社森木ペーパー Moriki Paper Company, Ltd.)

5 日間の大会プログラムの概要は下記の通り。

大会 1 日目: 2017 年 9 月 4 日

オープニングは、マルグレーテ 2 世デンマーク女王陛下のご臨席をはじめ、デンマーク文化省大臣、ICOM Suay Aksoy 会長が出席するなか、盛大に開催された(女王陛下によるスピーチはなし)。また、それぞれのオープニングスピーチのあと、ICOM-CC 50 周年を記念して、50 年を振り返るプレゼンテーションも行われた。女王陛下の臨席はここまでで、ご退席にあわせて coffee break となり、その後は、2014-2017 の ICOM-CC および各 working group の活動が報告された。ランチタイムの後は、5 つの会場に分かれて working group によるセッションおよびポスター発表が行われた。なお、期間中は、会場のホワイエに数種類のサンドイッチ(ベジタリアン、ハラールやカロリー表示あり)、フルーツ、各種ドリンク(コーヒー、各種ティー、ソフトドリンク)がランチとして準備されており、ほとんどの参加者はそこで済ませていたようである。

セッション終了後は、“ブラック・ダイヤモンド Black Diamond”と呼ばれている王立図書館にて、合唱あり、バレ

(22) ICOM-CC

エありのウェルカム・レセプションが開かれた。ちなみにこのレセプションへの参加費用は大会参加費に含まれているため、軽食とドリンク1杯は無料であったが、ドリンクの2杯目からは有料であった(事前予約制)。

大会2日目:2017年9月5日

大会二日目は、午前・午後を通じて一日 **working group** のセッションとポスター発表が行われた。

セッション終了後の19時からは、**Copenhagen City Council** 主催のレセプションが、**Copenhagen City Hall** にて開催された(パンケーキ・レセプション)。このレセプションへの参加費も大会参加費に含まれていたが、事前予約は必要であった。

大会3日目:2017年9月6日

午前中は **coffee break** をはさんでの二本の基調講演とディスカッションが開催された。ディスカッションでは、ふたりの **keynote speaker** に対してフロアから多くの質問や意見が出され、活発な討議が行われた。ランチの後には、**Technical visits** が実施され、それぞれが事前に申し込んでいた見学コースに分かれて参加した。見学コースは26プログラム用意されていたが、二つのプログラムはキャンセルとなっていたので、実際には24コースであったが、大会会場から徒歩で参加できるコースだけではなく、バスを使つての郊外へのお見学コースも準備されており、充実した内容の **Technical visit** となっていた。

18時からはナショナル・ギャラリー **National Gallery of Denmark** にてレセプションが行われたが、これは特にセレモニ的なものが用意されているわけではなく、ドリンクを飲みながら **National Gallery** を見学する、という趣旨のものであったようである(不参加のため、参加者からの聞き取りによる/事前予約不要)。

大会4日目:2017年9月7日

大会4日目は2日目同様、午前・午後を通して一日 **working group** のセッションとポスター発表が行われた。予定していた全ての発表が終了した **working group** では、最後に **working group** 内ミーティングが開催されていた。

セッション終了後は、ICOM-CC 主催の **ICOM-CC Conference Dinner** がデンマーク国立博物館 **National Museum of Denmark** で開催された(要事前予約)。なお、大会期間中に準備されていた夜の **social event** のなかで、本 **Dinner** のみが大会参加費用に含まれておらず、別途参加費用が必要であった。

大会5日目(最終日):2017年9月8日

大会最終日の午前中は、最後の **working group** セッションとポスター発表、および **working group** ミーティングが行われた。

午後は総会が開かれ、総会の第1部は“The conservation profession; achievements and challenges”というテーマで、ICOM-CCの前委員長たちによるセッションが行われた後、会場からの質問・意見などを受けて、会場一体で活発な討議が行われた。総会第2部では、2014-2017期で目覚ましい活動をしたICOM-CCメンバーに対する表彰、各 **working group** リーダーへの慰労に続き、2017-2020期の新 **working group** リーダーおよび新ボードメンバーの発表となった。そして、最後に次回2020年のICOM-CC Triennial Conference開催地の発表となったが、地名が伏せられたままでスクリーンに映し出されていく開催地に関連するさまざまな映像を見ながら、会場内のメンバー同士がどこなのかを推測し合っている中、最後に「北京」であることが発表されて大会が幕を閉じた。

なお、**Lapidarium of Kings** で開かれた **farewell party** では、ビールやソフトドリンクを飲みながら、大会期間中に知り合った仲間同士、3年後の再会を約束しながら語り合っていた。

ICOM 京都大会の PR:

残念ながら、大会のプログラムは詳細にスケジュールが組まれており、また、次大会の開催地の発表に力が置かれていたため、京都大会のプレゼンは行えず、パンフレットおよびニュースレターの配布のみとなった。

年次大会参加所見(特に ICOM 京都大会へ向けて):

ICOM-CC メンバーにとっては、ICOM-CC Triennial Conference に比重が置かれている、ということは常々言われており、また、実際に参加してみるとそのことが実感されたが、レセプション横で配布した京都大会のパンフレットやニュースレターを手にとっている姿を見ると、興味がないわけではないことがわかった。しかし、京都大会の 1 年後の次回大会開催地が北京となると、やはり 2 年続けてアジアへ来るというのは、アジア地域以外のメンバーにとってはかなりハードルが高いことが容易に想像される。ただし、大会期間中に京都大会の進捗状況などを説明するための時間を割いてくれた Strætkvern 委員長は、ICOM-CC として京都大会には期待されているようで、密に連絡を取り合いながら準備を進めていくことを確認し合った。

Strætkvern 委員長・ICOM-CC 事務局からの質問・提案等

- ① 地理的な質問: 京都大会会場と京都市内の位置関係に始まり、関西全般、あるいは東京など他の都市との位置関係など、一般的な情報について。また、それにあわせて京都市内外の交通手段等について。
- ② 物価についての質問: 特に宿泊費、交通費について。
- ③ 京都大会でのプログラムについての提案: ICOM-CC はボードメンバーの入替のための選出や総会は ICOM-CC Triennial Conference で行っているため、京都大会では board meeting は行わず ICOM-CC の単独セッションを半日、ジョイントセッションを半日実施する方向で検討するという意向を伺った。なお、打ち合わせ時には、ジョイントセッションについては、現在、ICOM-CC と共同プロジェクトを組んでいる ICAMT (International Committee for Architecture and Museum Techniques) の名前が上がっていたが、大会終了後、ICAMT と連絡を取り合って、ジョイントセッションを行う方向で調整始めた旨、連絡があった。
- ④ オフサイトについて: Strætkvern 委員長からは、奈良文化財研究所での東日本大震災での被災文書資料等のレスキュー作業についてのヒアリングをしたいとの希望が寄せられた。また、post conference tour などで、希望者を募って東北地方を訪れて東日本大震災後の文化財レスキューあるいは現状についての視察を行いたいとの希望が出された。
- ⑤ その他: ICOM-CC は、今回の大会後は 2020 年の次回大会まで年次大会の予定はなく、京都大会までは各 working group での研究会などが開催されるだけであるので、京都大会に向けての進捗状況の報告などを含めた PR は、ICOM-CC が出しているニュースレターを通じて行うことを提案された。
- ⑥ 今回、9 月 4 日から始まる ICOM-CC Triennial Conference に参加するため、前日の 3 日に現地に到着する直行便のフライトを予約していた。しかし、出発直前になって機体不良のために予定のフライトがキャンセルになるというアクシデントが発生。そのため、他の便へ振り替えて、当日早朝、現地入りすることになった。初日のホテル宿泊を不泊せざるを得なかったが、今回の宿泊については大会参加申し込みと一緒に大会 PCO の The Meeting Planners ApS を通じて行ったため、ここを通じてホテル他に連絡を入れてもらうことができた。京都大会でも今回のようなトラブルをはじめ、さまざまなトラブルが発生する可能性は十二分にあるので、そうした場合の対処法や連絡網の確立など、トラブルに対して万全な態勢で臨めるような準備が肝要であることが痛感された。

参考資料① 大会プログラム(全体)

Program At A Glance

	Mon. 4 Sept		Tue. 5 Sept	Wed. 6 Sept	Thu. 7 Sept	Fri. 8 Sept
From 07:30	Registration	08:10 to 08:50		Copyright and Publishing with ICOM-CC		
9:00 to 11:00	Welcome, ICOM-CC 50th anniversary lecture Kathleen Dardes room: Congress Hall	9:00 to 10:30	WORKING GROUP PARALLEL SESSIONS	Keynote: Eske Willerslev: "Our Genetic Past" Moderator of discussion: Jean Brown	WORKING GROUP PARALLEL SESSIONS	WORKING GROUP PARALLEL SESSIONS
11:00 to 11:30	COFFEE / TEA	10:30 to 11:00	POSTER SESSIONS	COFFEE / TEA	POSTER SESSIONS	POSTER SESSIONS
11:30 to 12:45	ICOM-CC General assembly I: Activities and projects in the triennium	11:00 to 12:30	WORKING GROUP PARALLEL SESSIONS	Keynote: Salvador Muñoz Viñas: "Heritage, Museums, Conservation and the World Outside: a Darwinian Approach" Moderator of discussion: Tannar Ruuben	WORKING GROUP PARALLEL SESSIONS	WORKING GROUP PARALLEL SESSIONS
12:45 to 13:45	LUNCH	12:30 to 13:30	LUNCH	LUNCH	LUNCH	LUNCH
13:45 to 15:15	WORKING GROUP PARALLEL SESSIONS	13:30 to 15:00	WORKING GROUP PARALLEL SESSIONS	Technical Visits (start at 13:00)	WORKING GROUP PARALLEL SESSIONS	Round table discussion with former ICOM-CC chairs: Visions for ICOM-CC and the conservation profession; challenges and changes
15:15 to 15:45	POSTER SESSIONS	15:00 to 15:30	POSTER SESSIONS		POSTER SESSIONS	COFFEE / TEA
15:45 to 17:15	WORKING GROUP PARALLEL SESSIONS	15:30 to 17:00	WORKING GROUP PARALLEL SESSIONS		WORKING GROUP PARALLEL SESSIONS	ICOM-CC General assembly II; ICOM-CC medal (s), New Directory Board and Working Group Coordinators, 2020 Venue, Closure
Social event	Welcome reception at The Black Diamond*	Social event	Reception, Copenhagen City Hall*	Reception, National Gallery of Denmark	Conference Dinner at the National Museum*	Closure Party*

* With limited capacity and pre-registrations are required.

参考資料② 大会詳細プログラム(例)

MONDAY 4 SEPTEMBER (09:00 - 15:15)

From 07:30	CONFERENCE FOYER, Registration				
9:00 to 11:00	PLENARY SESSION, CONGRESS HALL Welcome, Opening, and Presentation of the ICOM-CC 50th Anniversary Lecture (by Kathleen Dardes).				
11:00	TEA/COFFEE (11:00 - 11:30)				
11:30 to 12:45	PLENARY SESSION, CONGRESS HALL ICOM-CC General assembly I: Report from the triennium, Financial report, Report on projects and WG activities (ICOM-CC Directory Board)				
12:45	LUNCH (12:45 - 13:45)				
	PREVENTIVE CONSERVATION chair: Anna Bülow room: Congress Hall	PAINTINGS chair: Elisabeth Ravaud room: Harlekin	DOCUMENTATION chair: Ruven Pillay room: Columbine	METALS chair: Claudia Chemello room: Blomstersalen	TEXTILES chair: Christine Müller-Radloff room: Ballonsalen
13:45 to 14:05	Team up and Re-group, Re-use and Re-live! Lessons learnt from Re-Org workshops around the world <i>Catherine Antomarchi</i>	Investigation Vynol: Australia's first artist's acrylic emulsion paints <i>Raymonda Rajkowski</i>	Layers upon layers – Integrating an image-based mapping tool for object condition documentation with a collection management system <i>Maria Franzon</i>	Roman luxury: The conservation of the Berthouville Silver Treasure and four Late Roman missoria <i>Susan Lansing Maish</i>	Paracas textiles - colour and condition. Investigation of mordants and degradation state of Paracas textile collections in Peru and Sweden <i>Anna Javér</i>
	PREVENTIVE CONSERVATION chair: Anna Bülow room: Congress Hall	PAINTINGS chair: Elisabeth Ravaud room: Harlekin	DOCUMENTATION chair: Ruven Pillay room: Columbine	METALS chair: Claudia Chemello room: Blomstersalen	TEXTILES chair: Christine Müller-Radloff room: Ballonsalen
14:15 to 14:35	Towards the 'collectively subjective': the challenges of estimating value loss during collection risk assessments <i>Alice Cannon</i>	Softwoods, tendons, double grounds: panel supports for painting in Late Medieval Nuremberg <i>Beate Fuecker</i>	The aim of documentation: micro-decisions of the documentation process of performance-based artworks <i>Rita Macedo (Hélia Marçal)</i>	The conservation of the 'Merkelsche Tafelaufsatz', created by the German goldsmith Wenzel Jamnitzer <i>Joosje van Bennekom</i>	Evaluating transmission electron microscopy (TEM) as a method for assessing the condition of archaeological wool <i>Annemette Bruselius Scharff</i>
14:45 to 15:05	Direct Preventive Conservation – using information from the past to prevent small issues in the present from becoming big problems in the future <i>Helen Lloyd</i>	Miracle Mystery: research and treatment of the Mirakeldoecken, a 16th century tuchlein by Jacob Cornelisz van Oostanen <i>Gwendoline Fife</i>	Post disaster damage assessment of cultural heritage: Are we prepared? <i>Aparna Tandon (Catherine Antomarchi)</i>	Assessment of the protective properties of patinas of contemporary sculpture made out of weathering steel <i>Emilio Cano</i>	Analysis of textiles dyes– What do we see? <i>Maj Ringgaard</i>

参考写真



写真 1. 18th ICOM-CC Triennial Conference 会場正面



写真 2. オープニングのようす



写真 3. Coffee break



写真 4. 京都大会のパンフ、ニュースレター配布コーナー



写真 5. ポスター発表の会場



写真 6. Lunch に出されたさまざまなサンドウィッチ



写真 7. 各 working group によるセッションのようす



写真 8. 大会 2 日目に Copenhagen City Hall で開かれた
パンケーキ・レセプション



写真 9. 大会 3 日目午後の Technical visits



写真 10. 大会最終日の総会



写真 11. 大会終了後に Lapidarium of Kings で開かれた
フェアウェル・パーティー

国際委員会名:

International Committee for Money and Banking Museums

(貨幣博物館国際委員会)

参加者名:

川仁央

開催期日:

平成 29 年 9 月 3 日～6 日(全日程参加)

実施場所:

インドネシア ジャカルタ

Museum Bank Indonesia(インドネシア中央銀行博物館)

概要:

今年度年次大会テーマ

Money and Banking Museums: From Display to Engagement(貨幣・銀行博物館——展示から参加へ)

今回の年次大会はインドネシア中央銀行が主催し、会場は同中央銀行博物館であった。関係者の話では、インドネシアでは自国の PR になる催しには公的資金が積極的に充てられるそうで、大会と関係イベントの企画運営・資金提供はすべてインドネシア中央銀行によるものと聞いた。同中央銀行の広報部門職員、業務委託先であるコンベンション企画業者、旅行代理店、オフサイト・ツアーの受け入れ先など、様々な準備組織の人員(大会参加者数の倍に上るといふ)が打ち合わせを重ねて実現したとのことで、その歓待ぶりは一貫していた。また、大会には、ジャカルタの博物館関係者や ICOM インドネシア、観光局職員など多くの現地関係者も参加していた。

2 日間に渡って 13 名による研究発表があり、それぞれモデレーターによるコメント、会場からの質疑応答があった。特に中央銀行が運営する博物館では、経済のメカニズムや金融制度といった概念、社会における中央銀行の役割といった、抽象的で一般にわかりづらい内容を公衆に伝える必要がしばしばある。そのため、それをいかに博物館の展示や活動に積極的に関わってもらうことで成し遂げるかという課題からのテーマである。こうした問題意識から、研究発表は 3 部のセッションに分けられ、それらは「コミュニケーション・ツールとしての博物館」、「公共教育における貨幣・銀行博物館の役割」、「博物館のコミュニケーションを支える展示とテクノロジーの発達」と題するものであった。具体的には、博物館を情報センターにするためのシステムの構築、子供向けのゲームの設計による金融教育の試み、貨幣博物館によるブログや SNS の利用、貨幣博物館の展示方法の歴史などについての発表があった。シンガポールに拠点を置く展示設計業者による特別発表もあった。

ジャカルタ市内の博物館施設見学は、2 日目は午後にタマン・ミニ・インドネシア・インダー(他民族国家であるインドネシアの様々な建築様式、衣装、舞踊などの文化を紹介するテーマパーク)、3 日目は午後にジャカルタ旧市街のジャカルタ歴史博物館などであった。4 日目は、丸 1 日、ジャカルタからバスで 2 時間程のリゾート地であり、戦後に独立したアジアとアフリカの国々が参加した「バンドン会議」(1955 年)の開催地でもあるバンドンへの遠足に行き、当地の博物館施設などを見学した。毎晩、中央銀行主催の夕食会があった。

ICOM 京都大会の PR:

閉会式のさいに、来年の年次大会が開催されるギリシャ(アテネ)の代表者による告知と、筆者による 2019 年に開催する ICOM 京都大会 2019 の告知(PR プレゼンテーション)がなされた。パンフレット及びニュースレターの配布を行い、プロモーション用ビデオの上映とパワーポイントを使ったプレゼンを合わせて 15 分を割り当ててもらい、京都大会の PR を行った。アテネの告知が簡潔であったため、筆者のプレゼンは少々派手に映った感があり、「京都大会の準備は万全ですね」といった声を掛けられた。

年次大会参加所見(特に ICOM 京都大会へ向けて):

年次大会の参加者に京都大会に参加するか聞いたところ、「内容による」、「研究発表のテーマによる」といった答えがあった。オフサイトミーティングなどの内容を充実させることは、参加者を増やすために重要であると感じた。

初日には、歓迎晩餐会が催された。そのさい、参加者は主催者からインドネシアの伝統的なバティック・シャツと ICOMON のロゴ入りのポロシャツを贈呈され、その他にも、大会開催期間中に様々なお土産をもらった。

当初渡されていた参加者リストは 48 名参加予定だったが、実際に参加したのは 39 名だった(キャンセル者の出身国: ナイジェリア、ケニア、ウガンダ、ロシア、オランダ、カナダ)。また、中国からは 2 つの施設の参加者に 1 人ずつ通訳が追加で参加した。京都大会でも、大会直前や当日になって参加予定の変更がありうると思われるので、それに対応できるよう計画を立てる必要があると感じた。

ミラノ大会のさいはヨーロッパからの参加者が多かったが、今回はジャカルタが開催地であったため、通常よりもアジア圏からの参加者が多かったようである。その合計は 22 名で、インドネシア(3 名)、シンガポール(1 名)、マレーシア(1 名)、タイ(4 名)、インド(2 名)、中国(9 名)、韓国(1 名)、日本(1 名)からの出席であった。その他は、ヨーロッパ圏から 16 名、ブラジルから 1 名であった。京都大会にもアジアから多くの参加者があるのではないかと感じた。

ICOMON の会員構成を反映して、今回の参加者も半数近い 18 名が中央銀行の運営する博物館の職員だった(国数にすると 16 か国中の 10 か国だが、その中には中央銀行以外の博物館や個人研究者も参加している国が複数ある)。

インドネシアは人口の 9 割がイスラム教徒であり、食事はハラール食であったと思われる(お酒は一切出なかった)。また、インドからの参加者に、おそらく宗教的な理由(おそらくヒンズー教)で肉を一切食べないかたがいた。京都大会でも、提供する食べ物に注意が必要だと感じた。

年次大会終了後、インドネシア中央銀行から拙宅に大会参加への感謝状(Thank You Letter)が送られてきた。大会終了後の年末には、やはりインドネシア中央銀行からシーズンズ・グリーティングが E メールで送られてきた。



写真 1 開会式



写真 2 オープニング・パーティー



写真 3 研究発表の風景

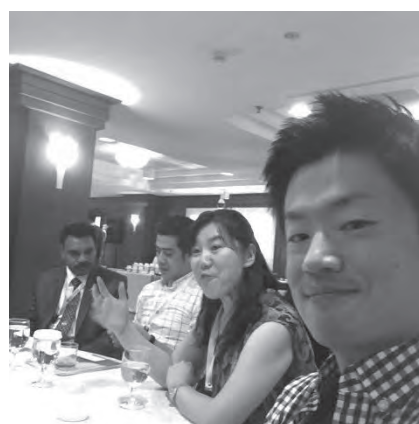


写真 4 ランチ風景



写真 5 歴史テーマパーク視察



写真 6 地学博物館視察



写真 7 バンドンへの遠足



写真 8 年次大会参加者への提供品

(24) ICOMON



資料 1 年次大会スケジュール



資料 2 年次大会パンフレット



資料 3 年次大会参加証書

国際委員会名:

International Committee for Regional Museums

(地方博物館国際委員会)

参加者名:

五月女 賢司(吹田市立博物館 学芸員)

開催期日:

平成 29 年 8 月 28 日～9 月 1 日(27 日の理事会と初日(28 日)午前のみ参加)

実施場所:

フィンランド

- ・ ヘルシンキ (Helsinki City Hall, Helsinki City Museum, World Heritage Site Suomenlinna)
- ・ ハメーンリンナ(Hämeenlinna City Museum, Hämeenlinna Medieval Castle)
- ・ タンペレ (Vapriikki, The Industrial Heritage of Tampere, The Finnish Labour Museum Werstas, Lenin Museum, Adopt a Monument –project, Archaeological Site Tursiannotko, Iron Age Village)

概要:

今年度年次大会テーマ

TOGETHER! Regional Museums Engaging with the “New Reality”

今回の年次大会は、本務の関係で、初日の午前中しか参加できず、全体像を語ることはできないが、フィンランドでの開催ということもあって、落ち着いた、しかし、ヘルシンキというやや都会的・観光地的な雰囲気の中で、充実した大会となった。

まず、大会前日の 27 日には丸一日、ヘルシンキ市立博物館で ICR の理事会を行った。議題の一つとして京都大会のことも話した。夜は ICOM フィンランド委員長の Eero Ehami 氏からの招待による夕食会が開催された。

年次大会は、ヘルシンキ市役所のホールでの開会式から始まった。参加者は約 50 名。ヘルシンキ副市長 Nasima Rasmyar 氏、ICOM フィンランド委員長、ICR 委員長 Irena Žmuc 氏による挨拶の後、フィンランド博物館協会事務局長 Kimmo Levä による基調講演が行われた。「A Museum is a Service. New professional practices – customer orientation and networking(博物館はサービスである: 新しい職業上の実践 - 顧客指向とネットワーキング)」で氏は、現在の博物館が直面するサービス施設としての“new realities”について、やや強めの口調で力説した。

その後、第 1・2 セッションが共に「Collections and collection policies(コレクションとコレクションのポリシー)」というテーマのもと実施され、計 6 名の発表があった。筆者もこのセッションで「Peace Memorial Museums in Japan Engaging with the New Reality(新しい現実に向かう日本の平和記念資料館)」と題して発表した。また、第 2 セッションの後には、再び筆者が時間をいただき ICOM 京都大会の PR を 30 分間行った。引き続き行われたフィンランドのミュージアム・オブ・ザ・イヤーを 2017 年に受賞したヘルシンキ市立博物館の紹介プレゼンテーションと簡単なガイドツアーまで参加し、帰国の途についた。

ICOM 京都大会の PR:

今回の年次大会では、ICOM 京都大会のパフレット、ニュースレターを配付し、京都大会プロモーション用ビデオの上映及び PPT によるプレゼンテーションを行った。

年次大会参加所見(特に ICOM 京都大会へ向けて):

京都大会については、ICR 独自の大会テーマや国内団体との共催セッション、訪問候補地等、すでに筆者が ICR の secretary として検討しはじめているものの、まだ十分に共有・検討できていないことも多いため、今後メール審議等で内容を詰めることになった。

資料 1. 写真



写真 1. 会場(ヘルシンキ市立博物館)



写真 2. 年次大会の掲示(ヘルシンキ市立博物館)



写真 3. ヘルシンキ副市長 Nasima Rasmyar 氏による挨拶(ヘルシンキ市役所ホール)



写真 4. ICOM フィンランド委員長の Eero Ehami 氏による挨拶(ヘルシンキ市役所ホール)



写真 5. フィンランド博物館協会事務局長 Kimmo Levä による基調講演(ヘルシンキ市役所ホール)



写真 6. 筆者による発表(ヘルシンキ市役所ホール)

資料 2. プログラム



ICOM – International Committee for Regional Museums

Conference in Helsinki – Hämeenlinna – Tampere

27th August – 1st September 2017

TOGETHER

Regional Museums engaging with the new realities

Program

Monday 28 August

8:00 Registration starts at **Helsinki City Museum**, Aleksanterinkatu 16

Venue: **Helsinki City Hall, Auditorium, Katariinankatu 2 B, Helsinki**

9:00 Opening

Nasima Rasmyar, Deputy Mayor, Helsinki City Culture and Leisure Division

Eero Ehanti, President of ICOM Finland

Irena Žmuc, President of ICR

9:30 1. Keynote Speaker: **Kimmo Levä**: A Museum is a Service. New professional practices – customer orientation and networking.

10:00 Session 1 **Collections and collection policies**

Moderator: **Sue Hanna**

Havatzelet Yahel: Shibli: Establishing a Bedouin Regional Heritage Center in the Galilee.

Andrej Chilikin: Peasant uprising in the Tambov region (1920-1922).

Jaana Kataja: How can Museums Preserve Collections Together?

Kenji Saotome: Peace Memorial Museums in Japan Engaging with the New Reality.

- 11:00 Coffee
- 11:15 Session 2 **Collections and collection policies**
Moderator: **Tuulia Tuomi**
Irena Žmuc and Barbara Savenc: New Reality – New Collection?
Blanca Gonzalez: From one century to another. Four museums in Merida.
- 11:45 **Kenji Sotome:** Presentation of ICOM General in Kyoto 2019
- 12:15 Discussion
- 12:30 **Tiina Merisalo:** The New Helsinki City Museum – The Museum of the Year in Finland 2017
- 12:45 Lunch
- 13:45 Helsinki City Museum guided tour
- 15:00 Session 3 **Topographies of Fear, Hope and Anger**
Moderator: **Jane Legget**
- 15:00 2. Keynote Speaker: **Jette Sandahl:** Topographies of Fear, Hope and Anger
- 15:45 Round Table Workshop
The ICOM Committee of Museum Definition, Prospects and Potentials is running a series of round-tables across the world to explore the future of museums and the shared, but also the profoundly dissimilar conditions, values and practices of museums in diverse and rapidly changing societies.
Coffee
- 17:15 Discussion
- 18:30 – 20:30 Welcome Party at Courtyard of Helsinki City Museum
After party at Sea Pool and Sauna

Tuesday 29 August

- 8:00 Registration starts at **Helsinki City Museum**, Aleksanterinkatu 16
- Venue:** **Helsinki City Hall, Auditorium, Katariinankatu 2 B, Helsinki**
- 9:00 Session 4 **New Realities of Museum Work After Political Change**
Moderator **Orit Shamir**
Jane Legget: Responding to new political realities – New Zealand museums and bicultural action.
Metka Fujs: Story of a Monument

Arnold Tóth: Once there was a stadium... Sports and identity, local community and museum roles in a post-industrial society.

Katarina Bušić: Ethnographic Museum in Zagreb in the context of the political changes of the nineteen-nineties: Tradition, Heritage and Challenges of Modernity

10:00 Coffee

10:15 Session 5 **Exhibitions – Why are some issues presented and others neglected?**

Moderator: **Irena Žmuc**

Wesam Mohamed: Revolution and the Sense of National Identity

Sahida Quadri

Swosti Rajbhandari Kayastha: Museums fulfilling a Political Cause.

Pashupati Nyaupane: Possibility of Regional Museums in Nepal.

Orit Shamir and Robert Kool: Together? Display a Gold Treasure in a religious Shrine, a National Museum and a regional Gallery – Some Reflections on the Power of Archaeological Exhibitions.

Yael Wiesel: All Together Now.

11:45 Discussion

12:15 Final Words

12:45 Lunch in Empiresali

14:00 Time to visit Museums etc.

16:30 Ferry to the World Heritage Site Suomenlinna

17:30 Guided walking tours at Suomenlinna (good shoes!!!)

19:00 – 21:00 Dinner Café Chapman Mastovaja at Suomenlinna

Wednesday 30 August

8:00 Departure from the Hotel Katajanokka, Helsinki

10:30 Hämeenlinna City Museum

Coffee and traditional Häme region refreshments

Guided tour at Museo Skogster, Hämeenlinna City Museum

12:00 Birthplace of Composer Jean Sibelius, a short Matinee

13:00 Lunch at Hämeenlinna town hall

14:30 Hämeenlinna Medieval Castle

16:00 Coffee at naafi in Museo Militaria, The Artillery, Engineer and Signals Museum

16:30	Departure from Museo Militaria
18:00	Hotels in Tampere
19:00	Dinner at Restaurant Plevna

Thursday 31 August

Venue:	Vapriikki, Museum Centre and Regional Museum of Pirkanmaa
9:00	Plenary Meeting in the auditorium of Vapriikki
10:30	Toimi Jaatinen: Presentation of Museum Centre Vapriikki
11:15	Vadim Adel and Anu Salmela: Presentation of the working concept of Regional Museum of Pirkanmaa
11:45	The Postal Museum guided tour in Vapriikki
12:15	The Finnish Museum of Games guided tour in Vapriikki
12:45	Lunch in Vapriikki
13:45	Visiting Exhibitions in Vapriikki
14:45	A short walk to Werstas, the Industrial Heritage of Tampere
15:00	Coffee in The Finnish Labour Museum Werstas
15:30	Exhibitions of Werstas
16:15	Bus to Lenin Museum
16:30	Guided tour in Lenin Museum
17:15	Bus back to Hotels
19:00	Farewell Dinner at Finlayson Palace

Friday 1 September

8:00	Bus arrives to Lapland hotel Tampere
c. 8:15	Departure from Lapland Hotel Tampere by Bus
c. 8:30	Departure from Scandic Tampere Station by Bus
Venue:	Vapriikki, Museum Centre and Regional Museum of Pirkanmaa
9:00	Presentations in the auditorium of Vapriikki
	Vadim Adel: Archaeological Site of Tursiannotko Iron Age Village
	Miinu Mäkelä: Adopt a Monument –project
9:40	A short walk to the Cellar of Olga

9:50	Cellar of Olga, Adopt a Monument –project
10:30	Bus to Pispala
	On the way stops at the Pulteriaita and Kalkku Mustavuori trench
12:15	Lunch at Reippi farm
13:00	Visit to Reippi open-air museum and co-operation of Pirkkala Municipality and the Regional Museum of Pirkanmaa
14:00	Bus to Tursiannotko
14:10	Visit Archaeological Site of Tursiannotko Iron Age Village.
c. 14:45	Bus leaves from Tursiannotko
c. 15:05	Tampere-Pirkkala Airport (if needed)
c. 15:30	Tampere Railway Station
	Bus continues to Helsinki Airport (c. 18:00).

Useful Phone Numbers

Helsinki City Museum

Eija Niskanen	+358-40-752 34 07
Kati Selänniemi	+358-40-334 70 22

Hämeenlinna City Museum

Tuulia Tuomi	+358-40-541 27 71
--------------	-------------------

Vapriikki, Tampere

Anu Salmela	+358 500 830 130
-------------	------------------

Hotel Katajanokka, Helsinki

+358-9-686 450
Merikasarminkatu 1

Lapland Hotel, Tampere

+358-3-383 00 00
Yliopistonkatu 44

Scandic Hotel Station, Tampere

+358-3-339 80 00
Ratapihankatu 37

国際委員会名:

International Committee for the Training of Personnel
(人材育成国際委員会)

参加者名:

江水是仁(東海大学課程資格教育センター博物館学研究室准教授)

開催期日:

平成 29 年 10 月 11 日～13 日(全日程参加)

実施場所:

ナミビア ウィントフック
Safari Court Hotel and Conference Centre
National Art Gallery of Namibia
University of Namibia
Windhoek, Namibia

概要:

今年度年次大会テーマ

Curators and Communities: Training for Collaboration

2017 年 10 月 11 日(水)午前 9 時 30 分より、サファリコートホテル会議場にて、ナミビア、南アフリカ、アメリカ、フィンランド、スロベニア、クロアチア、日本などからの参加者約 35 名で初日を迎えた。使用言語はすべて英語である。

初日の最初のセッションは、ICOM ナミビアの会長、ICOM-ICTOP 会長、ナミビア博物館協会副会長があり、ナミビアの民俗舞踊パフォーマンスの上演、Skype を用いて、前ヴィクトリア&アルバートミュージアムの国際取組に関する長(Head of International Initiatives)からのキーノートレクチャーがあった。

次のセッションでは、4 件の発表(アメリカ、日本、スロベニア、南アフリカ)があった。このセッションは、大学で博物館学や大学博物館で勤務をする研究者からの発表であり、各国の人材育成に焦点を当てた内容であった。

昼食ののちのセッションでは、「アフリカおよび世界各国の博物館学教育」というテーマに基づくラウンドテーブルが開催された。パネリストには、アメリカ、スロベニア、日本、カメルーン、ナミビア、南アフリカより、合計 7 名であった。各国の博物館学教育の実態についての討議を行った。

ラウンドテーブルののち、ICOM 京都 2019 大会紹介 VTR と、事務局からいただいたパワーポイントを用いたプレゼンテーションを行った。合わせて同大会のパンフレットやニュースレターを会場にいる参加者に 1 部ずつ、またナミビアの博物館関係者に数十部配布した。

次のセッションでは、アパルトヘイトによって囚人とされた人たちの資料に関する発表があった。

最後のセッションでは、ICTOP 年次総会が開催された。総会では、予算及び決算、年次活動計画などの説明が会長よりあり、今後 UMAC との連携の強化などの活動予定の報告があった。議題にあがったものはすべて承認された。

10 月 12 日(木)、午前 9 時 30 分より、ナミビア国立アートギャラリーにて 2 日目を迎えた。

まず同ギャラリー職員より、展示物のガイドツアーがあった。

ツアー後の最初のセッションでは、3 件の発表(ドイツ、ナミビア)があった。このセッションは、地域連携に係る人材育成に関する発表が中心であった。

次のセッションでは、3 件の発表(スロベニア、ナミビア、南アフリカ)があった。このセッションは、博物館と地域との連携に関する発表が中心であった。

昼食ののち、バスでウィンドフック市内を巡検。1959 年のウィントフックの虐殺を追悼する施設や公設市場、女性の就業トレーニング施設を視察ののち、11 月に開館予定のウィンドフック市立博物館(フィンランド博物館協会との協力により設立)を学芸員のガイドと共に見学。同館の庭で、ウェルカムパーティが開催された。

10 月 13 日(金)、午前 9 時より、ナミビア大学にて最終日を迎えた。

最初のセッションでは、フィンランドにおける、地域の歴史に働きかける人材育成に関する発表が 2 件あった。昨日視察したウィンドフック市立博物館とのかかわりを強く認識できる内容であった。

そののち、同大学の図書館エントランスのスペースを展示スペースとし、1920 年代から 1960 年代のナミビアの都市・Usakos の写真展示を見学。同館学芸員からのガイドがあった。

昼食前の最後のセッションは、UMAC との共同セッションとして、「等教育における博物館の職業化:グローバルなアプローチ」をテーマにしたウォークショップがあった。大学博物館と博物館学(学芸員養成課程)の関係が世界各国でどのようになっているのかを把握することの重要性が指摘された。

昼食ののち、建国のために活動された政治家などを追悼する施設「Heroes Acre」および国立独立記念博物館を視察した。両者ともプロパガンダ的な展示手法が多く取り入れていた。

ICOM 京都大会の PR:

上記概要初日に記載した通り。

年次大会参加所見(特に ICOM 京都大会へ向けて):

まず、参加者数が 40 名に満たない小規模な会議であった。また、ナミビア、南アフリカからの参加者が多かった。ナミビアや南アフリカからの発表内容も、植民地時代や独立に向けての活動を博物館として扱うか、といった人文系ー特に近現代史中心ーものであり、ナミビアの気候や天然資源といった自然史系・理工系の視点での博物館活動の報告が皆無であった。

京都大会に関しては、ナミビアや南アフリカからの参加者から、大変興味はあるものの、あまりにも距離があること、日本の物価が高いことなどから、行きたくても行かないのでは、という不安が多く聞かれた。遠方からの参加者には、渡航費用の一部負担や宿泊費の無料(学生寮などを使わせてもらう)など、アフリカ諸国からの参加者には一定の支援は必要であるかもしれない。

・ICOM-ICTOP で現在決まっている予定

2018 年 8 月 ICTOP 会長による学芸員養成課程研究会(全国大学博物館学講座協議会主催予定?)

2018 年 9 月 ICOM 日本委員会主催 各国際委員会プレ委員会(舞鶴)

2018 年 10 月 ICTOP 年次総会(ニュージーランド開催予定)

・京都大会への要望、オフサイトミーティング・エクスカーションに関して

ICTOP 会長副会長ともに、今のところ京都大会開催に関して、現在のところ特段要望はない(井上と江水を通して、日本委員会の状況を適宜会長副会長に伝えている)。来年舞鶴で開催予定のプレ大会に関しても参加予定(日本までの交通費のみの負担をお願いし、了承された)。ICTOP では、プレ大会前日に、学芸員養成に関する研究会(主催:全国大学博物館学講座協議会予定)を開きたいと考えており、研究会での講師引き受けを会長から了承いただいている。

ICOM 京都大会 2019 のエクスカーションとオフサイトミーティングの件は、京都を離れ 1 泊がかりで、博物館サイドからの養成教育に関する実態を把握するための事前案を話したが、会長副会長ともいい案であるというコメントをいただいた。また会長からは追加料金はなるべく発生させないようにしてほしい、とのコメントをいただいた。エクスカーションやオフサイトミーティングに関しては、UMAC との兼ね合いなどを考慮に入れなければならないものの、当初の案(三重県立博物館を事例に、博物館側からの人材育成、伊勢神宮、伊賀甲賀での忍者などに関する博物館見学など)を軸に進めていきたい。



写真 1 開会のあいさつ



写真 2 地元の歓迎の舞踊

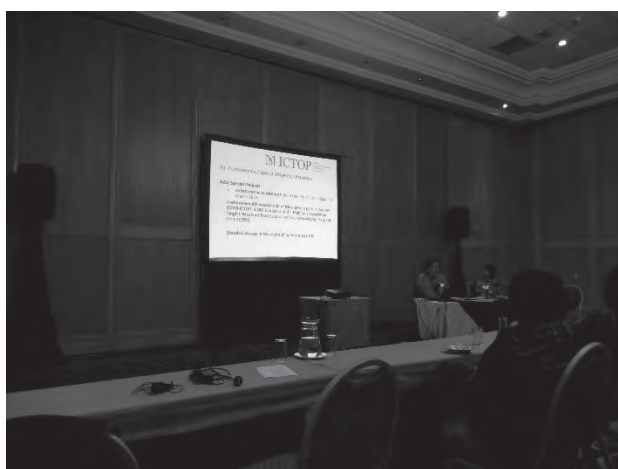


写真 3 ICTOP 年次総会



写真 4 ウィントフック市立博物館



写真 5 Heroes' Acre



写真 6 独立記念博物館



INTERNATIONAL COMMITTEE OF TRAINING OF PERSONNEL (ICTOP)

ANNUAL CONFERENCE,

WINDHOEK, NAMIBIA, 11th – 13th October 2017

Conference Theme:

Curators and Communities: Training for Collaboration

PRE-FINAL PROGRAMME

Tuesday, 10th October

Arrival of participants

DATE /TIME	ACTIVITY
Wednesday 11th October	
Safari Court Hotel and Conference Centre	
09:00 – 09:30	Registration
09:30 – 10:15	Welcome
	Ms Naitsikile Iizyenda, ICOM Namibia Chairperson & Editor, University of Namibia Press
	Dr Darko Babić, ICOM-ICTOP Chairperson & Chair of Museology, University of Zagreb, Croatia
	Dr Martha Akawa, Vice-Chairperson, Museums Association of Namibia & Deputy Dean, Faculty of Humanities, University of Namibia
	Cultural Performance
10:20 – 11:00	Key-note address/lecture
	Ms Anaïs Aguerre, Founder and MD, Culture Connect (former Victoria & Albert Museum, Head of International Initiatives)
11:00 – 11:30	Coffee break
11:30 – 13:00	Session I / Chair: Ms Naitsikile Iizyenda (ICOM Namibia)
	Paper 1: Dr Barbara Rothermel (Daura Gallery & Lynchburg, USA): "Curatorial collaboration between the University Museum, Faculty and Students"
	Paper 2: Dr Tadahito Emizu (Tokai University, Hiratsuka, Japan) & Dr Yuka Inoue (Bunkyo University, Chigasaki, Japan): "Curator (Gakugei-in) training programmes in Japanese Universities"
	Paper 3: Dr Verena Vidrih Perko (Regional Museum Kranj & University of Ljubljana, Slovenia): "Quality of life of the elderly, as an international museum program"
	Paper 4: Dr Jesmael Mataga (Sol Plaatje University, Kimberly, South Africa): "Building from the Group UP – Museum and HeritageStudies Training in a new University in South Africa"

	Discussion
13:00 - 14:00	Lunch
14:00 - 15:00	Session II / moderator: Dr Darko Babić (ICOM-ICTOP Chairperson & Chair of Museology, University of Zagreb, Croatia)
	Round table: "Teaching Museum Studies in Africa and in others parts of the World" Invited panellists: Dr Barbara Rothermel (USA) Dr Verena Vidrih Perko (Slovenia) Dr Tadahito Emizu (Japan) Mr Christian Tchuisseu Nana (Cameroon) Mr Goodman Gwasira (Namibia) Dr Jesmael Mataga (South Africa) Dr Jeremy Silvester (Namibia)
15:00 - 15:15	ICOM Kyoto 2019 (by Dr Tadahito Emizu - Japan)
15:15 - 15:45	Coffee Break
15:45 - 16:30	Session III / Chair: Ms. Leena Tokila (Finnish Museums Association & ICTOP)
	Paper 5: Mr Tuuda Haitula (Namibia): "Enriching the Role of Curators" Paper 6: Mr Ephraim Mwaita (Zimbabwe): "Robben Island: Representation and Interpretation of material culture objects of apartheid political imprisonment" Discussion
16:30 - 17:15	ICTOP Annual General Meeting (open to all)
17:15 -	Free evening

Thursday, 12th October National Art Gallery of Namibia	
09:00 – 09:30	Tour of Triennial Art Exhibition (a competition to identify the best contemporary artists in Namibia) at National Art Gallery of Namibia
09:30 – 11:00	Session IV / Chair: Dr Verena Vidrih Perko (Regional Museum Kranj & University of Ljubljana, Slovenia)
	Paper 7: Mr Christian Jarling (University of Hamburg, Germany): "Can collections make connections? - The ethnographic Namibia collection from the German colonial period at the Übersee-Museum, Bremen"

	Paper 8: Ms Kileni Fernando (Namibian San Council) & Dr Jeremy Silvester (Museums Association of Namibia): "Re-viewing San Culture: Reflections on the dynamics of community engagement in exhibition-making" Paper 9: Mr Siyayo Obyster (National Museum of Namibia): "The National Museum of Namibia and Community Collaboration" Discussion
11:00 – 11:30	Coffee break
11:30 – 13:00	Session V / Chair: Dr Jeremy Silvester (Museums Association of Namibia) Paper 10: Ms Aleksandra Nikolić (Central Institute for Conservation, Serbia): "Learning to teach & Learn globally" Paper 11: Mr Goodman Gwasira & Dr Martha Akawa (University of Namibia): "Community/Stakeholder engagement in museum development: The case of Tsandi Royal Homestead, Omusati, Namibia" Paper 12: Mr Wandile Kasibe (Iziko Museums of Cape Town, South Africa): "Museums and the Construction of Race" Discussion
13:00-14:00	Lunch
14:00-16:00	Windhoek City Tour
16:30-17:30	Tour of the Windhoek City Museum (under development)
18:00-20:00	Welcoming reception hosted by the City of Windhoek (with music from the Old Jazz Masters)

Friday, 13 th October	
University of Namibia	
09:00 – 10:30	Session VI / Chair:
	Paper 13: Ms Sanna Valoranta-Saltikoff (Finland): "Facilitating communities producing information, developing educational programmes and increasing the consciousness of history: Espoo City Museums project Espoo in Civil war – what happened 100 years ago in Espoo" Paper 14 / Workshop 1: Ms Annina Ylikoski (Finland): "Engaging the community with the Time Travel method"



10:30 – 11:30	Guided Exhibition Tour. Mr Chalden Sabab (Usakos Museum Committee); "Guided Exhibition Tour: Usakos - Photographs beyond Ruins: The Old Locations Albums, 1920s – 1960s" (Foyer – UNAM Library)
11:30 – 12:00	Coffee break
12:00 – 13:00	Session VII/ Workshop: Workshop 2: ICOM UMAC & ICOM-ICTOP Special project: "Professionalising museum work in higher education: a global approach" Moderators: Dr Barbara Rothermel (UMAC) Ms Leena Tokila (ICTOP) Dr Darko Babic (ICTOP)
13:00 – 14:00	Lunch
14:00	Departure visit to Heroes Acre
15:30	Visit to Independence Memorial Museum
17:30	Closing Reception

国際委員会名:

International Committee for Museum Management
(マネージメント国際委員会)

参加者名:

栗原 祐司 (京都国立博物館副館長)、渡邊 淳子 (ICOM 京都大会準備室)

開催期日:

平成 30 年 2 月 22 日～25 日

実施場所:

インド コルカタ
Kolkata Centre for Creativity

概要:

今年度年次大会テーマ

Entrepreneurial Management (企業家的なミュージアムマネージメント)

今大会テーマは、柔軟性や革新性、反応性、競争性を持って組織をマネージメントするためのコンセプトやスキル、枠組みを用いることで、文化、観光、博物館、遺産の Entrepreneurial(企業家的な)マネージメントを描くという主旨のものであった。当初は昨年 11 月に同じインドのアーンドラ・プラデーシュで開催する予定であったが、度重なる発表募集の延長の末に、今年 2 月に場所を変えての開催となった。ICOM は歴年会計であるため、結果的に今大会は 2018 年の年次大会となり、次回は ICOM 京都大会となる。

今大会では、大会直前までプログラムが分からず、当日配布されたプログラムのインド側の発表者には数人の欠席者が見られた。また、各プレゼンテーションに対する発表要旨等の資料が全くなく、スライドを使用せず口頭のみでの発表も多々あるなど、発表依頼・原稿の取りまとめが計画的になされなかった様子が見て取れた。大会運営は、開催国であるインド側が主体となって進めたが、インドの INTERCOM 所属会員は、大会運営者である Reena Dewan 氏 (ICOM インド委員長)のみであるため、Amareswar Galla 氏 (ICOM 元副会長、ASPAC 元委員長)が運営する International Institute for the Inclusive Museum が共催となり、Saroji Ghose 氏 (ICOM 元会長、ASPAC 元委員長)も基調講演を行うなど、ICOM インド委員会総出で、大会運営をしているようであった。INTERCOM ボードメンバー 7 人のうち、Ole Winther 委員長を含め 4 人しか参加しておらず、委員長自らがプレゼンテーションの座長を務めるなど、運営は必ずしも十分ではなかった。

大会参加者は、会期中最も多い時で 100 人弱だったが、およそ 8 割はインドからの参加者で、アジア諸国、欧米からの参加がそれぞれ 1 割という内訳であった。インドからの参加者は、博物館関連職員、大学の研究者の他、それら参加者の学生・大学院生が 20～30 名程おり、大会に参加するとともに受付や会場係など運営アシスタントも兼ねていた。

ICOM 京都大会の PR:

ICOM 京都大会パンフレットを、会議場の受付に設置した。また、会議 1 日目に、栗原がビデオ、パワーポイントによる ICOM 京都大会のプレゼンテーションを行い、京都大会の概要説明と参加を呼びかけた。

年次大会参加所見(特に ICOM 京都大会へ向けて):

プレゼンテーション・セッションでは、やや現状報告に終始してしまったきらいがあり、各発表者の事例から出てきた Entrepreneur 的な要素を抽出し、Entrepreneurial Management とはどういうものなのか、じっくりとテーマを議論するところまでは到達できなかった。今回の大会では、プレゼンテーションや施設見学を通じて、イ

(27)INTERCOM

ンドの博物館や文化団体が、伝統舞踊など無形文化財の保護や普及を重要視していること、子どもへの教育活動や、障害者に対するアクセシビリティの充実、ジェンダーやコミュニティへのアプローチなど、インドの博物館や文化政策の最新動向を窺い知ることができた。

発表要旨等資料がほとんど用意されていなかったのは、INTERCOM では今回に限ったことではなく、開催国の体制にもよると思われるが、京都大会においては、特に発表要旨に関しては、英語に不慣れな日本人の参加を想定すると、参加者がより発表を理解し有意義な議論に繋げるためには、事前にボードメンバーが中心となって資料の準備をしっかりとしておくことが必要であろう。

ICOM 京都大会に向けた議論・検討は、大会テーマやオフサイト候補地を含めまだまだこれからという状態であり、日本側からの働きかけも重要であろう。INTERCOM 委員長・事務局長には、2018 年 9 月 30 日・10 月 1 日舞鶴ミーティングでの INTERCOM 代表の出席を促した。

一方、参加者の京都大会に対する関心は一様に高く、ロ々に「京都大会へ行きたい」といった声が聞かれ、日本や京都の文化などに関する興味・関心の高さも窺えた。インドの大学生・大学院生からは、「自分も京都大会に行きたいが、旅費助成はあるのか？」といった質問が多く聞かれた。

なお、今大会の参加費は、Reena Dewan 氏が所属する Emami Art のご厚意で無料(ヘリテージ・ウォークのみ有料)であったが、スポンサー獲得の成果と言えば聞こえはよいが、国際委員会の運営としては必ずしも健全ではないと思われる。

大会記録写真:



開会セレモニー



ベンガル絵巻のデモンストレーション



ICOM 京都大会の PR



各発表者のプレゼンテーション

(27) INTERCOM



ラウンドテーブル



受付スタッフ



スタディーツアー(インド博物館)



ヘリテージウォーク

プログラム:

2月22日(木)

PM INTERCOM Board Meeting, ICOM India Board Meeting
16:30-18:00 Arrival and Registration
17:30-18:30 Welcome Address

2月23日(金)

9:30-18:00 Registration, Refreshments and Networking
10:00-10:30 Inauguration of the Conference
10:30-12:15 Opening Addresses, Keynote Addresses
12:15-14:00 Working Lunch, Cultural programme-Patachitra
14:00-14:30 Heritage & Democracy
14:30-16:00 Paper Presentations Session A (Room1) / Session B (Room2)
16:00-16:30 Tea Break
16:30-17:30 Steven Weil Memorial Lecture
17:30-20:00 Paper Presentations Session C (Room2) *ICOM Kyoto Presentation (10min.)

2月24日(土)

- 8:30 – 9:30 Travel to Indian Museum, Kolkata
- 9:30 – 13:00 Welcome Addresses
- 13:00 – 14:00 Working Lunch
- 14:00 – 15:30 Workshop –Development of Indian Museum
- 15:30 – 17:00 The Round –table Question
- 17:30 Free to visit the heritage market near Indian Museum

2月25日(日)

- 7:00 – 9:00 Heritage Walk
- 11:00 – 13:00 User Studies and Active Citizenship in Management Transformations and Museums
- 13:00 – 14:00 Lunch
- 14:00 – 15:00 Round table: Museum Management–Curriculum and Pedagogy
- 15:00 – 17:00 Paper Presentations Session D (Room1) / Session E (Room2)
- 17:00 – 17:30 Closing Plenary

国際委員会名:

International Committee for Marketing and Public Relations

(マーケティング・交流国際委員会)

参加者名:

関谷 泰弘 (東京国立博物館総務部総務課係長 サンフランシスコ・アジア美術館にて長期研究中)

開催期日:

平成 29 年 10 月 1 日～5 日 (全日程参加)

実施場所:

オランダ アムステルダム

Rijksmuseum (アムステルダム国立美術館)ほか

概要:

今年度年次大会テーマ

Museums and the city: Marketing and Beyond

2017 年の MPR 大会は、2017 年 9 月 30 日から 10 月 5 日にかけて、ミュージアムと都市をメインテーマとして、サブテーマを3つ設けて発表、レセプション、エクスカージョン等が実施された。

10/1 歓迎レセプション(アムステルダム博物館カフェ)

受付、ミュージアム見学及び歓迎レセプションが実施され、50名程度が参加した(写真1)。同日にボードメンバーによる会議及び食事会もあった。

10/2 Museums and Digital (Rijksmuseum 講堂)

日中:国立美術館行動においてキーノートスピーチ及び研究発表が行われた。(写真 2,3,4)基調講演はニューヨーク・ニュース博物館のソニヤ・ガヴァンカー氏「Museums and the Media」とオランダを中心としたコンサルタント・ヤスパー・ヴィッセル氏「Museums and Communities in a digital age」、ミュージアム・オブ・トゥモロウのアレクサンドレ・フェルナンデス氏とリカルド・ピケット氏による「Museums and their causes」。ソーシャル・メディアの拡張など、デジタル化が進んだ現代でミュージアムはどのような役割を果たすべきか、社会的なミュージアムの役割を中心として議論が交わされた。

夜: 国立美術館見学及びレンブラント「夜警」前にて集合写真撮影が行われた。(写真 5)

10/3 Museums and Digital (Artis Zoo /Jewish Historical Museum)

午前:2グループに分かれて発表が行われた。

グループ1:ARTIS 動物園にて行われた。デジタル・マーケティングのケース・スタディとして、台湾、ロシア等の事例が紹介された。また、昼食前に隣接する細菌ミュージアムの見学があった。

グループ2:ユダヤ歴史博物館で行われた。(写真6)デジタル・マーケティングのケース・スタディとして、アメリカやアフリカの事例が紹介された。

午後:2グループに分かれてアムステルダム市内ミュージアムの見学が行われた。

グループ1:アムステルダム・レジスタンスミュージアム、レンブラントハウスの見学及びティーテイスティングだった。会場ではそれぞれ教育部長や学芸部長による解説をいただいた。

グループ2:コンテンポラリーアートミュージアムの見学会だった。

夜:ヴァン・ゴッホ・ミュージアムにおける歓迎レセプション及びガイドツアーが行われた。

10/4 Museums and Community /Museums and Causes (EYE Film Museum)

午前:アムステルダム市のフランス・ヴァン・ダーヴァルト氏による「Museums and the city」の基調講演が行われ、コミュニティや大義に関連したケース・スタディが発表された。(写真7)筆者はサンフランシスコ・アジア美術館の事例を同僚のアリソン・ワイコフ氏と行なった。また、次年度のシカゴ大会及び 2019 年の京都大会の紹介がされた。

午後:2グループに分かれて市内ミュージアムの見学会が行われた。

グループ1:アムステルダム運河沿いの小規模ミュージアム・バッグと財布ミュージアム及び写真美術館の見学を行なった。

グループ2:サイエンスミュージアムの見学を行なった。

夜:アムステルダム・アート・アカデミーにて、お別れパーティが行われた。

10/5 エクスカーション

3グループに分かれてエクスカーションが行われた。ロッテルダム、ハーグ、ユトレヒトである。それぞれミュージアムや歴史的施設を視察した。(写真8)

ICOM 京都大会の PR:

パンフレット及びニュースレターを配布資料に封入してもらった。また、10 月 4 日に 5 分程度のプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションは京都大会プロモーション用ビデオの上映及びプレゼンテーションを行った。

年次大会参加所見(特に ICOM 京都大会へ向けて):

非常によく組織化された年次総会だった。ただし、下記の通り、数点気になることがあった。

- (1) 参加登録:参加登録は銀行で参加費を振込後に、指定の申し込み用紙に記入し、PDF をメールで送付する という方法であった。大会の規模が大きくないので仕方がないのかもしれないが、非常に煩雑な上、時間もコストもかかり、利用者への負担が大きい。また、早期割引などあり自分で計算するため、料金も間違えやすい。過去の大会では、オンライン登録、オンライン決済が多かったため、不便に感じた。
- (2) スケジュール:配布されたスケジュール通り進行されていなかった。知らないうちにスピーカーがキャンセルされていたり、順番が変更されていたりした。本大会ではこのような事態は避けるべきであるし、もしそうってしまったら事前にアナウンスしてウェブ等で告知すべきだろう。あるいは、スマホ向けアプリなどでスケジュールが日々更新されていけばさらに良い。最終日のプレゼンが急に新たに変わったため、時間が足りなくなり、会場の使用予定もあったため、延長もできず後半のプレゼンが短くなった。
- (3) 入場料金:期間中他のミュージアムは通常通り有料であった。ICOM カードが使えない施設もあったため、不便に感じた。市内エクスカーションもあったため、ある程度は鑑賞できたが、個人的に訪れることも多いので、無料等の対応があれば嬉しかった。
- (4) 会場:会場が市内に点在していたため、移動が大変だった。毎日会場が変更されるため宿泊地を決めるのも難しかった。ただし、同時にいろいろな施設が公式なスケジュールをこなしているだけでも楽しめるため、有意義ではあった。
- (5) 全体として:スケジュールも詰め込みすぎでならず、安心して参加できた。全体的に会場の移動で歩くことが多かったため、疲れる大会であった。



写真 1. レセプション風景(アムステルダム博物館カフェ)



写真 2. 1 日目の様子(国立美術館講堂)



写真 3. 1 日目の様子(国立美術館講堂)



写真 4. ボランティア(国立美術館ロビー)



写真 5. 集合写真(夜警の前で)



写真 6. 2 日目の様子(ユダヤ博物館会議室)



写真 7. 3 日目筆者発表(EYE フィルムミュージアム)



写真 8. エクスカーションの様子(ハーグ)

資料 1. プログラム

SPEAKERS             Ricardo Piquet Jasper Visser Sonya Gavankar Eunice Baerz Marijke van Dorst n Lemmens Adele Magnelli Ana Paula Pontes Iclia Martins Ursula Vodopivec Carolyn Mwenda Deborah Ziska	WELCOME WORD Dear colleagues, Welcome to this year's ICOM MPR conference. Museums and the City: Marketing and Beyond. We look forward to a dynamic conversation this week about the role of modern museum marketing and public relations professionals. We will speak of museums and their evolving relationships with the community, the media and the role of museums in social causes. This is an exciting opportunity for our committee to meet and learn from each other, and to explore Amsterdam's dynamic museum scene. We have learned much over the years from our colleagues in The Netherlands, and we are thrilled to have the opportunity to have our conference in this great city. On behalf of ICOM MPR, I'd like to thank our hosts for their efforts to plan this meeting and you all for attending. We are grateful that you are here, and I look forward to learning from you all. Best regards, Meghan Curran	PROGRAM SUNDAY, OCTOBER 1 Location: Amsterdam Museum 14:00-17:00 Registration and Museum visit on your own. All attendees 15:00-17:00 ICOM MPR Board Meeting (Amsterdam Museum) 17:00-18:30 Welcome Drinks (Welcome word by Judith Kiers) 19:00-21:00 ICOM Board Dinner	MONDAY, OCTOBER 2 Location: Rijksmuseum 09:00-10:00 Registration 10:00-10:30 Welcome by officials and representatives (Hendrikje Crebolder, Meghan Curran, Michel Buchet, Siebe Weide, Luc Eekhout and Arjen Uijterlinde) 10:30-11:15 Keynote Speech 1 by Sonya Gavankar - Museums and the Media (via video) followed by a discussion facilitated by Meghan Curran 11:15-11:45 Coffee/Tea Break 11:45-13:00 Museums and the Media: case studies (3 papers) 11:45-12:05 Eunice Baerz - Curiosity and contemporary art: a program for media outreach 12:05-12:25 Linda Volkers - The New Newsroom 12:25-12:45 Frederike van Dorst - Welcome to the world of photographer Ed van der Elstken 12:45-13:00 All - Q&A 13:00-14:00 Lunch 14:00-15:00 Keynote Speech 2 by Jasper Visser - Museums and Communities in a digital age 15:00-15:30 Linda Volkers and Marijke Zekveld - Digital Media: Case Study: Rijksmuseum 15:30-16:00 Coffee/Tea Break 16:00-17:00 Keynote Speech 3 by Alexandre Fernandes and Ricardo Piquet - Museums and their Causes 17:00-18:00 Guided Tour 19:30-20:30 Canal District Boat Tour	TUESDAY, OCTOBER 3 - A Location: Jewish Historical Museum 09:00-09:15 Welcome by officials and representatives (Elinor Schijf) 09:15-10:30 Digital Marketing Case Study: Kucha Sessions (7 min per paper) 1. Pepijn Lemmens - Online donations: storytelling and content marketing 2. Adele Magnelli - Enhancing reality: artworks using augmented and virtual reality 3. Simona Jurackova - We go social: Patricia Martins and Ana Paula Pontes - Connecting Museums 4. Ursula Vodopivec - Enriching Communications Forms by Computer Vision and Intelligent Robots 10:30-11:15 Breakout Discussion 11:15-11:45 Coffee/Tea Break 11:45-12:45 Marketplace of Ideas : Pecha Kucha Sessions + Q&A 1. Peter Stohler - My Museum isn't working 2. Carolyn Akeriza Nduka-Mwenda - The African oral history tradition 3. Deborah Ziska - How the National Gallery of Art inspired a citywide celebration of African American heritage and culture 12:45-13:00 Information about Museum visits 13:00-14:00 Lunch 14:00-18:00 Joined museum excursions on several topics 19:00-21:00 Drinks and guided private tour at the Van Gogh Museum (Welcome word by Adriaan Donszelmann)	TUESDAY, OCTOBER 3 - B Location: B. Arts Zoo 09:00-09:15 Welcome by officials and representatives (Helen Roux) 09:15-10:30 Digital Marketing Case Studies (20 min per paper) 1. Joy Chih-Ning Hsin - Adventure of reality and imagination: The Mobile Museum of NMH 2. Patricia Schierho - Now I want to buy a ticket to India - immersive media 3. Irena Ruzh - People Smart Sculpture - AD virtual urban arts - art in museum community using digital 10:30-11:15 Breakout Discussion 11:15-11:45 Coffee/Tea Break 11:45-12:45 Marketplace of Ideas : Pecha Kucha Sessions + Q&A 1. Marijke van Dorst - The Museum as an intersection: The city of Mannheim celebrates the birthday of the bicycle 2. Dr. Davit Poghosyan - Expanding Museum: Working at different public spaces and designing different public spaces as museums: Case studies from Armenian museums and cities 3. Clement Mbugua Kura - National Museums of Kenya's digital transformation as a case study 4. Mojibeh Ebadati Fain - Marketing of war museums to say the unspeakable (Case study: Holy defense museum of Tehran) 12:45-13:00 Information about museum visits 13:00-14:00 Lunch 14:00-18:00 Joined museum excursions on several topics 19:00-21:00 Drinks and guided private tour at the Van Gogh Museum	WEDNESDAY, OCTOBER 4 Location: EYE Film Museum 09:00-09:15 Welcome by officials and representatives (Ido Abram and Peter Ernst Coolen) 09:15-10:30 Museums and their Cause(s): case studies 09:15-09:35 Dr. Carol Scott - The next challenge: Marketing the social agenda of museums 09:35-09:55 Fyona Das - 'Pracht' event: 'Beautiful night' event 09:55-10:15 Dr. Mathias Henkel - Museums as places of truthfulness 10:15-10:30 All - Q&A 10:30-10:45 Coffee/Tea Break 10:45-11:15 Keynote Speech 4 by Frans van der Avert - Museums and the City 11:15-12:30 Museums and the Community: case studies (3 papers) 11:15-11:45 Allison Wycoff/Yasuhiro Sekiya - Transforming public space through Arts Participation 11:45-12:05 Thomas Amey-Ooststraal - Living in a Museum 12:05-12:25 Yu-Chien Chang - Yilan as a Living Museum 12:25-12:30 All - Q&A 12:30-13:00 Business Meeting and information about museum visits 13:00-14:00 Lunch 14:00-18:00 Museum excursions focused on several topics 18:00-23:00 Farewell party at Reinwardt Academy THURSDAY, OCTOBER 5 Excursions to Utrecht, the Hague and Rotterdam	SPEAKERS             Patricia Schierho Marijke van Dorst Joy Chih-Ning Hsin Irena Ruzh Clement Kura Dr. Carol Scott Dr. Mathias Henkel Allison Wycoff Thomas Amey-Ooststraal Yu-Chien Chang Fyona Das Yilan	WELCOME TO AMSTERDAM Yasuhiro Sekiya Tokio National Museum USA
---	---	---	---	---	--	--	--	--

国際委員会名:

International Committee for Museums and Collections of Natural History

(自然史の博物館・コレクション国際委員会)

参加者名:

亀井 修 (独立行政法人国立科学博物館産業技術史資料情報センター)

矢部 淳 (独立行政法人国立科学博物館地学研究部)

開催期日:

平成 29 年 10 月 23 日～29 日

(10/23 のプレミーティングと 10/24 のボードミーティング, 10/25～10/29 までの全会議日程に参加, 10/30～ポストカンファレンスツアーは不参加)

実施場所:

米国ペンシルバニア州ピッツバーグ市, カーネギー博物館 (Carnegie Museum of Natural History)

概要:

今年度年次大会テーマ

The Anthropocene: Natural History Museums in the Age of Humanity

ICOM-NATHIST の年次大会に出席した。合わせて、スミソニアン協会傘下の博物館で大会テーマに関わる調査を行った。ボードミーティング (BM) 冒頭に、今回の大会テーマ「アントロポシーン (The Anthropocene)」を提案した科博側への謝辞があり、共有された。新しい展示のオープニング、ソーシャルインクルーシブ的な活動のイベント、社交の夕食会、一般を対象とした有料のハロウィンパーティー、一般対象で無償の映画上映会、出版記念式典など複数の内容をうまく組み合わせて、全体として「豪華」に見える ICOM-NATHIST 年次大会が演出された。Web 上で公開されたプログラムからの変更が多く、当日のプログラムを記載したシート(きれいな印刷物)が毎日配布された。

ICOM 京都大会の PR:

京都大会の案内と準備の進捗状況の報告を、BM 及び年次総会 (AGM) で亀井が行った。

大阪でのオフサイトミーティングについて佐久間氏が AGM で補足プレゼンを行った。このことにより、既定路線の雰囲気を作られた。

年次大会参加所見(特に ICOM 京都大会へ向けて):

- 京都への関心は高く、参加についても前向きな反応が多く寄せられた。
- 国外から参加人数は200人程度が期待されている。
- 大会テーマや分科会、エクスカッション等の案は開催国側が決め BM に諮る流れとなる。
- テーマは「アントロポシーン」の発展(バリエーション)がよい。来年の年次大会(2018 年 10/8-10/11 イスラエル)にて京都大会のテーマやプログラムについて BM の了承を得て、AGM で案内できれば理想的である。

(29)NATHIST

- 2016 ミラノ大会でのエクスカーション, オフサイトミーティングへの NATHIST からの予算支出はなかったことを確認。大会本部がバスやボランティアなどの現物で手配。
- 公式会議報告: <https://icomnathist.wordpress.com/2017/12/30/2017-conference-report/>

記録写真(公式ページより):









プログラム(内容の詳細)【20171109 版】

10/23 会議下打合せ及び環境下見(終日)

The Anthropocene : Natural History Museums in the Age of Humanity

October 25-30, 2017 Pittsburgh, Pennsylvania, USA

The Anthropocene is the concept that human activity has had a profound and pervasive impact on the planet, such that its effects will be present in the fossil record millions of years from now. This warrants a dedicated geological era, the Anthropocene. The concept of humanity's impact on and interaction with the global environment touches on science, conservation, artistic expression, philosophy, and even recreation. Natural history museums are at the nexus of these considerations, researching arcane ecological and evolutionary concepts, interpreting them for the public.

10/24 Board Meeting 等(終日)

8 a.m. – 5 p.m. ICOM Board Meeting

議長 Eric Dorfman,

会場 Wyndham Pittsburgh University Center

9 a.m. – 5 p.m. Trade Fair Exhibitor Load In

1 – 9 p.m. Registration

7 – 9 p.m. RSVP REQUESTED Pre-conference Soirée

議事次第

1. Apologies (Knowles)
2. Proxies recorded (Knowles)
3. Board Members present (Knowles)
4. Approval of the minutes of the 2016 Board meeting (Dorfman)
5. President's Report (Dorfman)
6. Secretary's Report (Knowles)
 - a. Approval of bylaws
 - b. Approval of Conference Manual
 - c. Membership
7. Treasure's Report (Rodriguez)
8. Working Group Reports:
 - a. Ethics (Dorfman)
 - b. Wildlife Trafficking (Dorfman)
 - c. Platform 2022 (Hung / Kuo)
 - d. Anthropocene (Koster)
9. Future and Prospective Conferences Planning and Discussion (Dorfman)
 - a. Tel Aviv 2018 (Wolenitz)
 - b. Kyoto 2019 (Kamei)
 - c. Raleigh 2019 (Koster)



d. Edinburgh 2020 (Dorfman)

10. Other business

Species 360 (Knowles)

11. Next Meeting

12. Close

(以下に議事詳細)

10/25

7 a.m. – 5:30 p.m. Registration

8:30 – 9:00 a.m. EXHIBITION OPENING Kwel' Hoy! We Draw The Line Blessing Ceremony

9 – 9:15 a.m. Welcome Remarks

9:15 – 10:15 a.m. KEYNOTE PRESENTATION

“Blurred Boundaries: The Anthropocene
as a Challenge to Disciplines, Museums,
and History” Dr.Helmuth Trischler

10 a.m. – 7 p.m. Trade Fair Open

10:15 – 11 a.m. Refreshment Break

11 a.m. – noon PLENARY SESSION The Age of
Humanity at the Carnegie

Noon – 1:45 p.m. Lunch

2 – 3 p.m. SESSION Collections to Study Environmental Change

SESSION Development Models for Natural History Museums

3 – 3:45 p.m. Refreshment Break

4 – 5:30 p.m. SESSION Ways of Knowing the Anthropocene: Connections to Indigenous Cultures

WORKSHOP Monetizing Our Collections

WORKSHOP Museum as Convener: Building and Bene



10/26

7 a.m. – 7:30 p.m. Registration

8:30 – 9:45 a.m. Continental Breakfast with Exhibitors

8:30 a.m. – 4 p.m. Trade Fair Open

10 – 11 a.m. KEYNOTE PRESENTATION “The Missing
Museum: Excavating Wonder and Curiosity”
Richard Pell

11:15 a.m. – 12:15 p.m. PLENARY SESSION Exhibiting
the Anthropocene: Visitor
Experiences and Global Change I

12:15 – 1:45 p.m. Lunch Free Time in Trade Fair

12:30 – 1:30 p.m. ICOM NATHIST Annual General
Meeting

2 – 3 p.m. SESSION Nature, Ecology, and Psychology



SESSION Exhibiting the Anthropocene:

Visitor Experiences and Global Change II

3 – 3:45 p.m. Refreshment Break

4 – 5:30 p.m. SESSION Discovering the Anthropocene:

Teaching and Learning About Global Human Impacts

WORKSHOP Resolving the Disconnect between What You Think and What You Do

WORKSHOP Evolving Collections Concepts: Expanding

5:45 – 6:45 p.m. BOOK LAUNCH Pittsburgh Arts and Lectures

The Future of Natural History Museums

7 – 10:30 p.m. TICKETED EVENT ICOM NATHIST Dinner



10/27

7 a.m. – 5:30 p.m. Registration

8:30 – 9:30 a.m. We Are Nature Preview

9:30 – 11 a.m. PANEL DISCUSSION Engaging the Public in Natural History Conservation

11:15 – 12:15 a.m. PLENARY SESSION Urban Diversity: Connecting Locally to Nature I

12:15 – 1:45 p.m. Lunch Free Time in We Are Nature

2 – 3 p.m. SESSION Urban Diversity:

Connecting Locally to Nature II

3 – 3:30 p.m. Refreshment Break

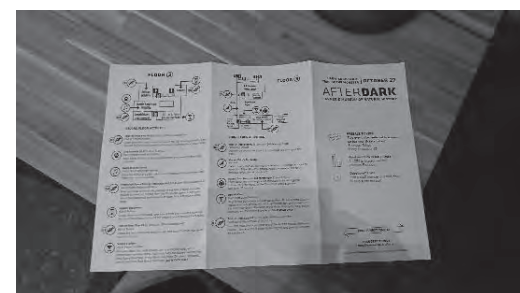
3:30 p.m. – 5 p.m. WORKSHOP 21st Century Naturalist
WORKSHOP Beyond Art and Science:

Transdisciplinary

Thinking in the Age of Humans

5:15 p.m. – 6 p.m. PANEL DISCUSSION Putting it all Together: What Have We Learned?

6 – 10 p.m. After Dark Haunted Museum: Year of the Monster



10/28 (Public Day)

10 – 11:30 a.m. PANEL DISCUSSION Natural History in a World after Truth?

Noon – 5 p.m. EXHIBITION We Are Nature: Living in the Anthropocene

Noon – 5 p.m. EXHIBITION Kwel' Hoy: We Draw the Line!

Noon – 4 p.m. PUBLIC DAY Super Science Saturday

4 – 4:30 p.m. PUBLIC DAY Before the Flood Preview

Talk Presented by National Geographic

4:30 – 6:10 p.m. PUBLIC DAY Before the Flood Film

Screening Presented by National Geographic

10/29

7:30 - 8:00 a.m. Group meets inside Carnegie Museum of Art Fountain Entrance

Coffee will be available

8:00 a.m. Depart for Powdermill Nature Reserve

9:45 a.m. Arrive at Powdermill Nature Reserve

10:00 a.m. – 12:00 p.m. **Powdermill Nature Reserve Tour**

The tour of Powdermill Nature Reserve, the museum's environmental research center, will include the avian research center, featuring a demonstration of traditional bird banding and a visit to the GIS laboratory, which focuses on the interface between conservation biology, environmental sciences, and geospatial technologies.

12:00 – 1:00 p.m. Box lunch and conversation with Dr. John Wenzel, Director (Box Lunch:

Turkey/swiss sandwich; bean salad; crudité; trail mix; homemade chocolate; bottle of water)

1:15 – 2:00 p.m. Travel to Fallingwater

2:00 p.m. Arrive at Fallingwater

Welcome Remarks: Scott Perkins, Director of Preservation, Fallingwater

The tour will continue to Frank Lloyd Wright's architectural masterpiece, Fallingwater.

Built over a waterfall, the house is beautifully integrated into the stunning scenery of the Laurel Highlands. Following an hour-long guided tour, there will be free time to explore the Visitor's Center, gift shop, and lovely grounds with ample photo opportunities. (Photography is not permitted in the house.)

2:30 – 3:30 p.m. **Fallingwater Guided Tour**

3:30 – 4:30 p.m. Free time

4:30 – 6:00 p.m. Return to Carnegie Museum of Art
Fountain Entrance

10/29 (After Conference Tour)

10/30 (After Conference Tour)

(10/31 NMNH スミソニアン協会 国立自然史博物館)

(11/1 NMNH スミソニアン協会 国立アメリカ歴史博物館)



国際委員会名:

International Committee for Museums and Collections of Natural History
(自然史の博物館・コレクション国際委員会)

参加者名:

佐久間大輔 (大阪市立自然史博物館) 全科協より派遣
亀井 修 (国立科学博物館) NATHIST ボードメンバー、科博より派遣
矢部 淳 (国立科学博物館) 科博より派遣

開催期日:

平成 29 年 10 月 24 日～29 日 (29 日はオプションなエクスカージョンで不参加)

実施場所:

Carnegie Museum of Natural History
Pittsburgh (アメリカ)

概要:

今年度年次大会テーマ
The Anthropocene

10 月 24 日 (水) ボードミーティング: 亀井・矢部が参加

10 月 25 日 (木)～28 日 (土) 基調講演、セッションに参加。

ポスターセッションも行われ、佐久間・矢部もそれぞれにポスターを展示。基調講演では、ANTHROPOCENE (人新世) についてのイメージ集約があった。地球の生命誌を区分していく地質年代の考え方からしても、人類という種があらゆる面で大きな影響を持つ現代という時代をこれまでと同一の年代 (完新世) として捉えることはもはやできず、人間活動から切り離して自然を考えることができない時代として ANTHROPOCENE (人新世) として捉える、というものである。

この考え方自身は日本の自然史博物館にとっては特に違和感もないものであるが、アメリカで大仰にこの事を唱える背景には、根深いプロテスタンティズムがある。非常に荒っぽい切り方で言えば、自然のことは「神の御心」によるものであり、人間がそこまで影響を与えているとは考えず、最大限の努力で生産に励むのだとする考え方であり、トランプ大統領の温暖化説否定につながる思想潮流である。自然科学研究者としては目の前のデータが示唆するものを否定することができず、このような問題提起を文明観として提示することが必要になったとも言える。

これは、博物館の経営陣としての選択でもある。経営的に言えば富裕層にも多い温暖化否定派を敵に回さず、また政権との距離を測ることにともなりかねない激しいテーマを避け、楽しい科学を提示することもできたであろう。しかし、NATHIST という世界コミュニティの連携の中であえて ANTHROPOCENE をテーマに掲げ、自然史系博物館の団結を考える動きは、アドボカシー (政策提言) の側面を無視しては考えられない。講演会形式のセッションだけでなく、グループ討議を中心にしたワークショップも多い。ワークショップは 21ST Century's Naturalist などに参加。

年次総会

年次総会が 29 日開催されたが 50 人弱と比較的少人数だった。

Museum EXPO

25 日からカーネギー自然博物館内で自然史関連業者によるグッズ、触れる地図、ライトなどの展示会(10 団体ほどが参加)があり、そちらも見学。AAM に比べてかなり小規模。興味を引くものは少なかった。どちらかと言うとコーヒブレイク会場として機能していた。

展示見学

特別展示「WE ARE NATURE!」の内覧見学。温暖化により同自然が変わるか、人間の影響で自然に何が置けているのかを直視する内容の展示会。面積は 2-300 平米ほど。衛星写真を使ったインタラクティブ展示、標本の重要性を示す展示、観覧者の意見を書かせる参加できるパートなど、参考になる部分は多い。夜間はハロウィンイベントに参加。有料で一般にも開放されているイベントであり、館内で飲酒も OK。開放されている様々な場所にタランチュラの生態展示、骨格の説明、フクロウの説明などハロウィンにちなんだブースが設けられ、説明を聞いたり与えられた課題をクリアすると、小物がもらえる。大学生や子連れの家族が仮装して参加。食堂ではスタッフも仮装、プロジェクションマッピングも。

PUBLIC DAY

公開講演会、フィルムショーなどが設定。公開講演会は基本的にはスライドも使わず、ソファに座った演者たちが語りかける落ち着いたスタイル。

さらに演劇などを取り入れた MUSEUMNEX などの取り組みも行われていた。

ICOM 京都大会の PR:

ボードミーティング(BM)冒頭に、今回の大会テーマ「アントロポシーン」を提案した科博側への謝辞があり、共有された。

京都大会の案内と準備の進捗状況の報告を、BM 及び年次総会(AGM)で行った。

- 大会テーマや分科会、エクスカッション等の案は開催国側が決めBMに諮る流れとなる
テーマは「アントロポシーン」の発展(バリエーション)がよい
- 大阪でのオフサイトミーティングについて佐久間氏がAGMで補足プレゼンを行った。このことにより、既定路線の雰囲気が作られた。
- 2016ミラノ大会でのエクスカッション、オフサイトミーティングへの NATHIST からの予算支出はなかった。
大会本部がバスやボランティアなどの現物で手配をしたと思われる



写真 1. ボードミーティング(BM)



写真 2. 年次総会(AGM)

年次大会参加所見(特に ICOM 京都大会へ向けて):

ICOM 京都大会への流れはまだこれから形成されるものであると感じた。テルアビブでの大会はアメリカ的文脈とまた異なったものとなるだろう。しかし、アメリカ・ヨーロッパともに ANTHROPOCENE に代表されるように、自然史博物館を現在の社会潮流の中でしっかりと位置づけていこうという意志は強いものであった。AAM のメインテーマが社会の多様性を前提とした社会包摂であり、博物館がいかに受容するかという受け身だったのにくらべ、自然史博物館は科学による世界の見方を提示し、理解をつくるという研究者から社会への働きかけのベクトルを感じた。シカゴ博物館などでの「Vote for Science」(科学への意思表示のための投票を！)、科学のためのパレードなどの取り組みも紹介され、アドボカシーの定着を感じる部分もあった。またヨーロッパの博物館、動物園、植物園の連携の取り組みなどもあり、日本での仕組みづくり(プロジェクト資金の拠出)などの必要性を感じた。

また、2020 年大会は一昨年科研費により参加した SPNHC (The Society for the Preservation of National History Collections 自然史標本保全学会)と ICOM NATHIST の合同大会となることなどがアナウンスされ、それら国際組織の動きを理解することができた。

今大会のホストであるカーネギー自然史博物館の館長エリック・ドーマン氏は京都大会に向けても積極的に関与、支援する姿勢を示してくれた。また、現地の多くの博物館のコミットが重要であることを強調していた。日本の博物館の参加が見込め、多くの学芸員の関心をよべる企画立案が重要であると感じた。

参考: 現地からのツイートまとめ <https://togetter.com/li/1193208>

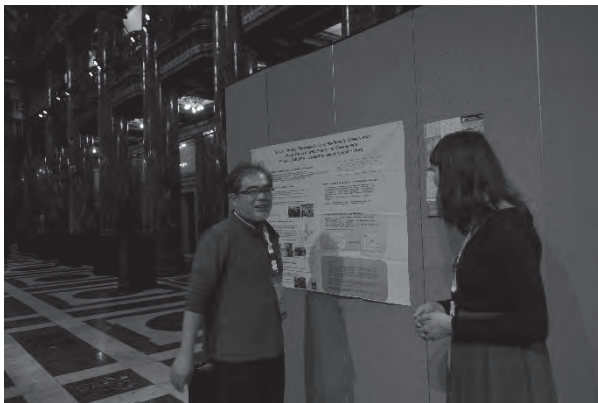


写真 3. ポスターセッション

資料 1. プログラム

Tuesday, October 24

8 a.m. – 5 p.m.	ICOM Board Meeting
9 a.m. – 5 p.m.	Trade Fair Exhibitor Load In
1 – 9 p.m.	Registration
7 – 9 p.m.	RSVP REQUESTED Pre-conference Soirée

Wednesday, October 25

7 a.m. – 5:30 p.m.	Registration
8:30 – 9:00 a.m.	EXHIBITION OPENING <i>Kwel' Hoy! We Draw The Line</i> Blessing Ceremony
9 – 9:15 a.m.	Welcome Remarks
9:15 – 10:15 a.m.	KEYNOTE PRESENTATION "Blurred Boundaries: The Anthropocene as a Challenge to Disciplines, Museums, and History" Dr. Helmuth Trischler
10 a.m. – 7 p.m.	Trade Fair Open
10:15 – 11 a.m.	Refreshment Break
11 a.m. – noon	PLENARY SESSION The Age of Humanity at the Carnegie
Noon – 1:45 p.m.	Lunch
	SESSION Collections to Study Environmental Change
2 – 3 p.m.	SESSION Development Models for Natural History Museums
3 – 3:45 p.m.	Refreshment Break
	SESSION Ways of Knowing the Anthropocene: Connections to Indigenous Cultures
	WORKSHOP Monetizing Our Collections
4 – 5:30 p.m.	WORKSHOP Museum as Convener: Building and Benefiting from Interdisciplinary Networks
	WORKING GROUP Anthropocene Working Group
5:30 – 7 p.m.	Welcome Reception in Trade Fair
7 – 9 p.m.	POSTER SESSIONS Poster Session and Dessert Reception

Thursday, October 26

7 a.m. – 7:30 p.m.	Registration
8:30 – 9:45 a.m.	Continental Breakfast with Exhibitors
8:30 a.m. – 4 p.m.	Trade Fair Open
10 – 11 a.m.	KEYNOTE PRESENTATION “The Missing Museum: Excavating Wonder and Curiosity” Richard Pell
11:15 a.m. – 12:15 p.m.	PLENARY SESSION Exhibiting the Anthropocene: Visitor Experiences and Global Change I
12:15 – 1:45 p.m.	Lunch Free Time in Trade Fair
12:30 – 1:30 p.m.	ICOM NATHIST Annual General Meeting
	SESSION Nature, Ecology, and Psychology
2 – 3 p.m.	SESSION Exhibiting the Anthropocene: Visitor Experiences and Global Change II
3 – 4 p.m.	Refreshment Break
	SESSION Discovering the Anthropocene: Teaching and Learning About Global Human Impacts
	WORKSHOP Resolving the Disconnect between What You Think and What You Do
4 – 5:30 p.m.	WORKSHOP Evolving Collections Concepts: Expanding Definitions and Relevance with Advancing Technology
	WORKSHOP The Impact of Digital Data on Raising the Profiles of Natural History Museums and Ensuring that Museum-based Researchers Remain at the Forefront of Science
5:45 – 6:30 p.m.	BOOK LAUNCH Pittsburgh Arts and Lectures <i>The Future of Natural History Museums</i>
6:30 – 7 p.m.	Informal Meet and Greet with Editor and Contributors
7 – 10:30 p.m.	TICKETED EVENT ICOM NATHIST Dinner
8 – 10 p.m.	Refreshments – Soft drinks and light snacks will be served in both the Hilton Garden Inn Hotel’s Garden Grill Restaurant and the Wyndham Pittsburgh University Center’s Panther I-II suites.

Friday, October 27

7 a.m. – 5:30 p.m.	Registration
8:30 – 9:30 a.m.	<i>We Are Nature</i> Preview
9:30 – 11 a.m.	PANEL DISCUSSION Engaging the Public in Natural History Conservation
11:15 – 12:15 a.m.	PLENARY SESSION Urban Diversity: Connecting Locally to Nature I
12:15 – 1:45 p.m.	Lunch Free Time in <i>We Are Nature</i>
2 – 3 p.m.	SESSION Urban Diversity: Connecting Locally to Nature II
	SESSION Natural History Museums and Advocacy
3 – 3:30 p.m.	Refreshment Break
3:30 p.m. – 5 p.m.	WORKSHOP 21st Century Naturalist
	WORKSHOP Beyond Art and Science: Transdisciplinary Thinking in the Age of Humans
5:15 p.m. – 6 p.m.	PANEL DISCUSSION Putting it all Together: What Have We Learned?
6 – 10 p.m.	After Dark Haunted Museum: Year of the Monster

Saturday, October 28 (Public Day)

10 – 11:30 a.m.	PANEL DISCUSSION Natural History in a World after Truth?
Noon – 5 p.m.	EXHIBITION <i>We Are Nature: Living in the Anthropocene</i>
Noon – 5 p.m.	EXHIBITION <i>Kwel' Hoy: We Draw the Line!</i>
Noon – 4 p.m.	PUBLIC DAY Super Science Saturday
2 – 3 p.m.	PUBLIC DAY Stephanie Arne, <i>Mutual of Omaha's Wild Kingdom</i>
4 – 4:30 p.m.	PUBLIC DAY <i>Before the Flood</i> Presented by National Geographic: A Discussion with Producer and Director Fisher Stevens
4:30 – 6:10 p.m.	PUBLIC DAY <i>Before the Flood</i> Film Screening Presented by National Geographic

Sunday, October 29 (Field Trip)

7:30 – 8 a.m.	Registration and Information
8 a.m. – 6 p.m.	TICKETED EVENT Powdermill Nature Reserve and Frank Lloyd Wright's Fallingwater Tours
8 – 9:30 p.m.	TICKETED EVENT DODO: The Time Has Come

国際委員会名:

International Committee for University Museums and Collection

(大学博物館・コレクションの国際委員会)

参加者名:

福野 明子(国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館 館長代理・学芸員)

開催期日:

平成 29 年 9 月 5 日(火)～8 日(金) (事前ワークショップが開催された 9 月 4 日から 6 日まで参加)

実施場所:

フィンランド ヘルシンキ

University of Helsinki (ヘルシンキ大学)

University of Jyväskylä (ユヴァスキュラ大学)

概要:

今年度年次大会テーマ

Global Issues in University Museums and Collections: Objects, Ideas, Ideologies, People

大学博物館とコレクションにおけるグローバルな課題: 資料・概念・理念・人

2017 年度の年次大会はフィンランドの2つの大学、前半はヘルシンキ大学(9/4~6)、後半はユヴァスキュラ大学にて開催された。プレイベントとして、UMAC として初のワークショップが開催され、こちらには 20 名程度、会議全体としては 30 の国と地域から 123 名の参加があった。内訳はフィンランド 29 名、アメリカ 22 名、フランス 7 名、そしてベルギーと日本からの 6 名と続く。アメリカからの参加(22 名)が目立った理由として、2018 年の年次大会の開催地がマイアミであること、また今年の UMAC AWARD がアメリカの Sam Noble Museum of Natural History, University of Oklahoma に授与されたことに理由があると思われる。

大会プログラムの詳細は次の URL から入手可能:

<https://www.lyyti.fi/att/005b42A9749787D0/b2d8175F5e5B8201B7251B94c7C4b024995f0B96b93f5B591E5b42D6ea8873>

報告 筆者が参加したプログラム等に関して

9 月 4 日

- ① ワークショップ: 30 名程度の参加が期待されていたが、結果的に 20 名ほどであった。日本からは筆者と慶応大学アートセンターの本間友氏が参加。アメリカ、オレゴン大学美術館館長の Jill Hartz 氏と UMAC 副委員長の Barbara Rothermel 氏、また次回年次総会開催地のマイアミ大学美術館の Jill Deupi 氏が中心となって開催された。今回のターゲットは年次大会に参加する各国の大学博物館関係者。このワークショップは同様の内容でアメリカで既に何回か行われているようであり、テキストなどの印刷物は転用されたものであった。(印刷物は、おそらく Rothermel 氏の所属など、アメリカの大学が負担したと思われる。)参加者は、管理職クラスから、これから学内で博物館を立ち上げようとしている若者まで様々であった。前

半はワークショップ進行役の Hartz 氏、Rothermel 氏、そしてコメンテーターとして参加した Deupi 氏が、実体験と実例をもって「如何に大学内で博物館の活動を成功させるか」について語ったのが印象的だった。後半はテーマごとに小グループに分かれ、様々な立場から意見交換が行われた。国や文化が異なっても、大学博物館関係者として共有できることが多かったという点で、非常に有意義なワークショップであった。(なお、当日使用されたテキストにご興味のある方はご連絡いただきたければ共有可能である。)

- ② ボード・ミーティング:ヘルシンキ大学の研究室を借りて行われた。総会手順・年次報告・UMAC アワード・ワーキンググループなど総会の予定や時間配分を確認。
- ③ Helsinki Observatory にてウェルカムパーティー

9月5～6日

- ① 基調講演・プレゼンテーション・ポスターセッション・“inform-all”:筆者はプログラムコミッティーにも入っており、事前に発表者の選考なども手伝った。プログラムの内容に関しては、現地(ヘルシンキ)役員とUMACの委員長・副委員長などが発表順やグルーピングをし、最終的にまとめた。プログラムコミッティーのメンバーは、事前に割り当てられたアブストラクトを読み、選定理由を記入。すべてのやり取りはEメールで行われた。プレゼンテーションは通常の学会のイメージ、ポスターはポスターセッションとして、会場内にポスターが設置され、製作者がその前に立って興味を持った参加者の質問に答える形式。Inform-allは主に初参加の会員が自館やコレクションの紹介を5分以内で行うというもので、年次総会やUMACに、もっともデビューしやすい機会である。
- ② 9月5日:Helsinki City Hall にてヘルシンキ市主催のカクテルレセプション
- ③ 9月6日:委員長・副委員長とのランチミーティング(福野および発表を行った栗原氏と京都大会準備委員会のChiu氏が参加):ICOM京都大会に向けてのロードマップの説明、IC-Committeeの意向調査票や日程などを確認。栗原氏はUMACの一員として活動歴が長いと、日本側の対応は全面的に信頼されていると感じた。
- ④ 総会:京都大会のPRに関しては、筆者が帰国しなければならなかったため、京都外国語大学の南博史先生にPRを託したが、スケジュールが押していたため、パンフレットの配布のみとなった。ただし、栗原氏が自身の発表の最後で京都大会をPR。

9月7～8日

ユヴァスキュラセッション(筆者はこれ以降欠席、日本からは京都外国語大学の南先生と慶応大学の本間友氏が参加。)

年次大会参加所見 特にICOM京都大会へ向けて

- 会場・設備・学生・手配・お茶・パーティー:ヘルシンキ大学の全面的協力のもとで開催された大会であった。大学のスタッフや学生たちが協力し、参加者を迎える体制がしっかりしていた。設備に関しては、通常大学で行われる学会、研究会やシンポジウムのイメージであり、何ら特別なしつらいはなく、会場入口、廊下や教室前にバナーが用意された程度で質素であった。ヘルシンキでのお茶やパーティーはサラダやカナペが中心で、決して豪華ではなかったが(例えば、2016年UMACマニラ大会のように)、十分であった。UMACが委員会として負担する金額と、受入側(今回はヘルシンキ大学とユヴァスキュラ大学)が調達した資金(助成金などか?)の有無が大会運営の鍵になるかもしれない。早い段階での京都大会にかけられる予算額の確認は必須。

- ICOM 京都大会は 2019 年度開催なので、今回の年次総会では次年度のマイアミ大会のことが優先され、京都大会のことはほとんど議論されなかった。
- 日本からは文中の栗原・本間両氏に加え、東京大学総合研究博物館の寺田鮎美氏も発表。また、アメリカ在住で Oklahoma University 所属の白岩氏もワークショップとポスターセッションに参加。今後、もう少し日本からの参加も促すことができればと感じた。
- 意見交換した参加者たちは、皆、京都大会を楽しみにしていると話し、特にアジア圏からは距離的にも近いので、ぜひ参加したいという声が多かった。
- UMAC 委員長の希望・京都大会への期待：
 1. できるだけ多くの日本の大学博物館を巡るプログラムを希望。
 2. ICOM-ICTOP との合同セッションは 1 日のみ。UMAC と ICTOP は、すでに ICOM の合同プロジェクトを行っているため、合同セッションに問題はない。どのような合同プログラムにするかは今後の課題。
 3. オフサイトも含め、京都大会は全面的に日本に仕切ってほしいとのこと。国内の受入体制をしっかりとする必要があり、一コンタクトパーソンだけでは、手に負えないと思われる。ヘルシンキ大会後 10 月に、栗原氏とともに、京都大学博物館連携の並木誠士先生や南先生等と面談、協力を依頼。しかし、人的配置や財源など、まだまだ打ち合わせ事項は多く、筆者は東京からの参加となるため、本務を抱えながらかなりの負担は覚悟しなければならないと感じている。
 4. UMAC は ICOM の中でも比較的新しい委員会である。ミラノ大会で委員長となった Lourenço 氏は積極的に UMAC を改革しようとしており、実務的かつ、行動力のある人物。帰国後、舞鶴プレミエーティングに関するメールのやり取りの中で、プレミエーティングにあわせて、大学博物館(関東圏も視野に入れた)の視察を希望、また、受入れ先があれば、講演なども可能であるという意向も伺った。筆者は、東京であれば、ご案内可能であると伝えてある。
 5. UMAC としては、欧米中心的な参加からそれ以外の国と地域からの参加を促したいと考えている点で、京都開催はプラス。しかし、アフリカなどからの参加は依然難しいかもしれないという意見もある。

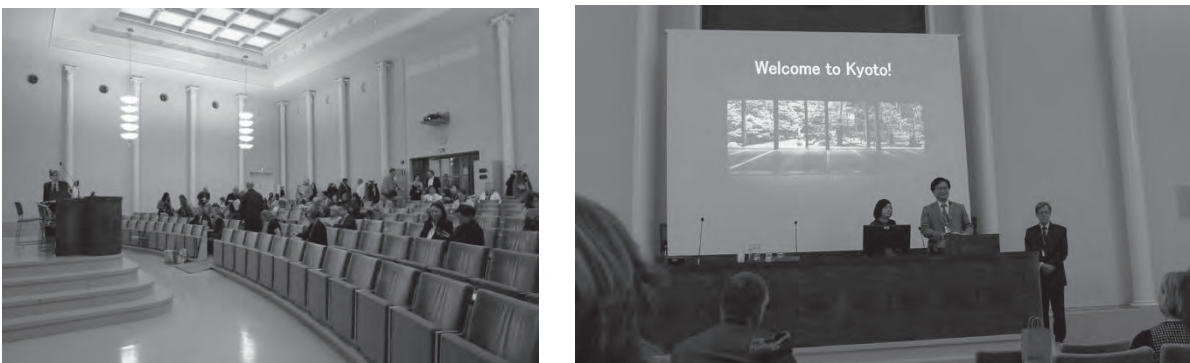
最後に、コンタクトパーソンの国際委員会内の立場によって、得られる情報の量と速度は違うかもしれない。準備委員会内で情報を共有、うまく連携し、ICOM 京都大会開催に向けて準備することができれば効果的だと思う。

参考写真は次ページ:

写真①ヘルシンキ大学構内・会場周辺 (3 枚)



写真②会場風景 写真③発表後に京都 PR を行う栗原氏と Chiu 氏



写真④ワークショップ 会場風景・参加者グループ写真 (2 枚)



写真⑤参加者に配布された大会グッズ

写真⑥ヘルシンキ大学建物内教授研究室で行われた UMAC ボードミーティング



写真⑦会場内ポスターセッションにて



写真⑧大会ウェルカムパーティー@Helsinki Observatory とヘルシンキ大学大学院生による天文台内のツアー



写真⑩ヘルシンキ副市長主催のレセプション@Helsinki City Hall



4. その他委員会等大会報告

委員会名:

International Council of Museums Asia-Pacific Alliance
(ICOM アジア太平洋地域連盟)

参加者名:

栗原 祐司
京都国立博物館副館長
河野 一隆
九州国立博物館文化財課長
三島 貴雄
京都国立博物館総務課総務・人事係長

開催期日:

平成 29 年 11 月 1 日～3 日(全日程参加)

実施場所:

イラン チャーバハール
International Conference & Exhibition Center of Chabahar



概要:

今年度年次大会テーマ
ASPAC Museums and Education (博物館と教育)

ASIA-PACIFIC Museums, Natural Disasters and Water Shortage (博物館と自然災害と水不足)

今回開催地となったチャバハールは、イラン南東部の貿易港があり、インド洋につながるオマーン湾に接した自由貿易地域 (Free Zone) として、アフガニスタンと中央アジア貿易の要衝地となっている。この港を通じて貿易を拡大させれば、インドは隣国パキスタンを気にせずにアフガニスタンや中央アジアの市場と直接つながりを持つことができることから、インドはイランのチャバハール港への投資を促進している。ただし、チャバハール市及び同市周辺の自由貿易地域は、外務省からレベル 2 (不要不急の渡航は止めてください。)とされており、実際、参加者のホテルから会場まではパトカーの先導で、会場の周囲には銃を持った警備員がいた。そのおかげか、イラン国内の全行程を通じて特に危険な雰囲気は感じなかった。今回の ASPAC 大会の開催は、この地域を開発しようとするイラン政府の戦略があったと思われる、チャバハールに建設予定の国際博物館の予定地も見学し、その概要もこの機会に記者発表された。なお、この地域の人びとは、ほとんどがバローチ人で、その伝統的生活様式や規範を維持しており、イランの観光地となる潜在性を有している。

今回の ASPAC 大会は、ICOM イラン委員長の Mir Seyed Ahmad Mohit Tabatabae が副委員長であることもあり、早くからイランで開催することが決まっていたが、会期やテーマ等がようやく確定したのがようやく 9 月末のことで、ビザやホテル、フライト等の連絡も開催直前での調整となり、その段階で参加をキャンセルした者も多く、最終的に外国からの参加者は筆者を含む 10 人にとどまった。しかしながら、100 人近いイラン人の参加もあり、イラン国歌の斉唱などを含む盛大な全体会が催され、水不足等の専門的なワークショップも必ずしも十分な議論はできなかったが、最終的に「Chabahar Recommendation (チャバハール勧告)」がまとめられた。次回の年次会合は、九州国立博物館で開催する予定である。

なお、10 月 31 日にテヘランでボード・ミーティングが開催され、チャバハールでの会議は事実上 2 日間で終わり、11 月 3 日の朝テヘランに戻り、国立博物館等を見学した。

ICOM 京都大会の PR:

栗原より、初日(11月1日)に全大会において、5分ほど京都大会プレゼンテーションの時間をいただき、プロモーション用ビデオを上映し、説明した。また、リーフレットの英語版を配布した。



ICOM 副会長の安来順氏



ASPAC 副委員長・ICOM イラン委員長の
Mir Seyed Ahmad Mohit Tabatabae



ICOM 京都大会の PR をする栗原



専門家ワークショップ

年次大会参加所見(特に ICOM 京都大会へ向けて):

栗原は ASPAC のもう一人の副委員長だが、今回は委員長の裴基同・韓国国立中央博物館長が参加できないこともあって、参加は必須であったが、直前までビザやフライト等が確定しない状況下で冷や冷やしながら参加することとなった。また、次回 ASPAC の開催会場である九州国立博物館から河野文化財課長、ICOM 京都大会運営委員でもある京都国立博物館の三島貴雄総務・人事係長も参加した。

今回の会議には、ICOM 副会長の安来順氏、元 ASPAC 委員長で ICOM 執行役員の張仁卿氏のほか、インド、バングラデシュ、ネパールの各国内委員長とカンボジア、タイ(ユネスコ事務所)からの参加があり、数は少ないものの参加者のレベルは高かったように思う。ICOM 京都大会は、アジアで 3 回目となる大会であることから、ASPAC の果たすべき役割は大きく、アジアでも開催にふさわしい大会となるよう、ASPAC の会合も充実させていく必要がある。今回の会議運営は、反省すべき点が多々あり、大会テーマを含め事前準備の遅れと会議内容のアナウンスの不徹底は、国際会議の体をなしていなかったといってもいい。「チャバハール勧告」も原案は「チャバハール宣言(Chabahar Declaration)」であったが、ボードメンバーが原案を見たのは 10 月 31 日のことであり、11 月 2 日夕方に関係者が緊急に修正作業を行い、最終版をまとめあげたという経緯がある。来年の九州大会では、このようなことがないように早めに情報を共有することを心掛ける必要がある。また、京都大会に向けて、太平洋諸国や中央アジアからの参加を求めることも重要であろう。なお、今回、海外参加者の経費は、フライト、宿泊も含めすべて ICOM イラン委員会に負担していただいたが、本来は各自負担とすべきであろう。

機関名:

Federation of International Human Rights Museums
(国際人権博物館連盟)

参加者名:

栗原 祐司
京都国立博物館副館長
佐々木健太郎
水平社博物館学芸員

開催期日:

平成 29 年 11 月 28 日～30 日(全日程参加)

実施場所:

アルゼンチン ロサリオ
Museo Internacional para la Democracia (国際民主主義博物館)



概要:

今年度年次大会テーマ

Museums, Democracy and Human Rights - Challenges and dilemmas in storytelling
(博物館、民主主義、人権—ストーリーテリングの挑戦とジレンマ)

FIHRM は、2009 年にメキシコで開催された INTERCOM の年次大会で採択されたトレオン宣言を受けて、2010 年に設立されたばかりで、当時 INTERCOM の委員長であった David Fleming 氏(英・リバプール博物館長)が会長を務めている。FIHRM には世界中の約 40 館が加盟しており、日本からは一昨年、水平社博物館(奈良県)が初めて加盟した。今回は、文化庁の補助金により、同館の佐々木学芸員と栗原が参加した。

ロサリオは、アルゼンチンの首都ブエノスアイレス市に次ぐ工業・商業の中心地で、アルゼンチン全体でも 3 番目に人口の多い都市である。スペインからの独立戦争時の 1812 年に、Manuel Belgrano 将軍によって初めて国旗が掲げられた地として知られており(現在は「国旗記念碑」が建てられている)、市内には中世から出てきたかのような歴史的建造物が数多く見られる。この地が年次大会の会場に選ばれたのは、国際民主主義博物館の Guillermo Whpei 館長が FIHRM のボードメンバーであるからにはほかならないが、アルゼンチンでは 1976 年から 1983 年にかけて「汚い戦争(Guerra Sucia)」と呼ばれる軍事政権による国家テロが行われ、労働組合員らを中心に学生や活動家数千人が違法逮捕、拷問、殺害、強制的に拉致されるなど様々な弾圧があった。そういう意味では、大会テーマにふさわしい場所ではあった。

1927 年にスペイン移民の会社として建てられた瀟洒な建物の 1 階がメイン会場で、南米を中心に 10 人の講演と、15 人の発表があり、暴力、テロ、先住民、LGBT、障害者等様々な人権に関する発表と意見交換が行われた。会議自体は基本的にメイン会場での座学形式のみで、地下にある博物館の展示の見学と、初日の夜にかんたんなカクテル・パーティと 2 日目の夜に向かいの建物でワンドリンク付きのタンゴ・ショウの見学があっただけで、ツアー等は企画されなかった。アジアからの参加者は、日本のほかは台湾創価学会の林氏のみで、基調講演で招へいされたイギリスを除けば、多くは南米からの参加者であった。

なお、発表等でたびたび言及のあった「汚い戦争」について詳しく知るため、会議後ブエノスアイレスに行き、現在「記憶と人権推進・擁護のためのスペース」として一般公開されている旧海軍機関学校(Escuela Superior de Mecánica de la Armada; ESMA)を訪問し、認識を深めることができた。

ICOM 京都大会の PR:

栗原より、3 日目(11 月 30 日)に全大会において、5 分ほど京都大会プレゼンテーションの時間をいただき、プロモーション用ビデオを上映し、説明した。また、リーフレットのスペイン語版及び英語版を配布した。



David Fleming 会長



ICOM 執行役員の Carlos Roberto Ferreira Brandão (ブラジル)



ICOM 京都大会の PR をする栗原



国際民主主義博物館展示室

年次大会参加所見(特に ICOM 京都大会へ向けて):

FIHRM は ICOM の加盟組織(Affiliated Organization)だが、2010 年の設立以来、2013 年リオデジャネイロ大会、2016 年ミラノ大会のいずれも出身母体である INTERCOM とのジョイント・セッションというかたちで ICOM 大会で年次大会を開催しており、京都大会にも参加する意向を示している。今回は南米での開催であったためにアジアからの参加者は少なかったものの、ボードメンバーには台湾の頼教授がおり、過去には INTERCOM とのジョイントによって台北で年次大会も開催しており、京都で開催すればアジアからの参加者は多数見込まれると思われる。今回はテーマがテーマだけに政治色の強い発表が多かったように思われるが、そもそも人権博物館という性格上、政治性と切り離すことは難しいであろう。それでも、歴史学や人類学、博物館学等の観点から質の高い発表も多くみられ、学術的に高いレベルの連盟であることは間違いない。何より、唯一の加盟館である水平社博物館が、文化庁による助成があるとはいえ、2015 年以降毎年参加しているのが頼もしい。

ICOM 京都大会では、INTERCOM とのジョイント・セッションとなるかどうかは確定していないが、仮にそうなった場合には、オフサイト・ミーティングの訪問先を含め、水平社博物館の協力を得て、人権資料・展示全国ネットワーク(人権ネット)の参加・協力も得て会議を開催することを検討するべきであろう。

INTERCOM が 2017 年年次大会が延長となり、2018 年 2 月に開催された結果、INTERCOM は京都大会まで開催されないことになった。一方、FIHRM は 2018 年 9 月にカナダのウィニペグで開催予定である。京都大会での INTERCOM とのジョイント・セッションの動向を見極めつつ、フォローしていくことが必要である。

ICOM 国際委員会等年次大会報告書
(2017 年度)

発 行 2018 年 3 月

編 集 ICOM 京都大会準備室
〒605-0931 京都市東山区茶屋町 527

印 刷 オリンピア印刷株式会社